



ブナのそれぞれの一本に表情の違いを見せる

## 世界の山旅 初夏の森

「一人ではいけない、でも、行きたい」  
それにお応えするのが実体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

### オーストリア・ハイキングの集い

- 日時：5/14(木) 14:00~16:00
- 会場：ホテルモントレ大阪(右図)
- 予約：☎06-6444-3033(アルパインツアー)

豊かな自然とハイルベルン文化が共存するオーストリア。  
チロル・アルプスやザルツブルグ州の高級ハイキングから  
ウィーンの森ウォーキングまで、世界遺産の街、芸術、  
音楽など文化も盛りませ魅力をご紹介します。



(地下鉄高田馬場駅9番出口)

### スイス・アルプス・ハイキング



カタログを  
ご請求下さい

■大坂発着限定  
の特別企画「スイス・アルプス」とも  
に歩んできたアル  
パインツアーが  
自信を持っておす  
めする3コース  
をセレクト!

エンゲラウ、アイガー、マッターホルン、モンブランを巡る!

### アルプス3大山群 満喫ハイキング 10日間

出発日：6/6, 6/13, 6/27, 7/11, 7/25  
旅行代金：¥429,000~¥499,000 (大坂発着)



日帰りハイクで行ける絶景のピーク3座に登頂!

### スイス・アルプス・パノラマ 登山ハイキング 12日間

出発日：7/18, 8/1, 8/18  
旅行代金：¥488,000~¥532,000 (大坂発着)



### 中国の山旅



カタログを  
ご請求下さい

■大人気の中国  
ツアー!色とりど  
りのお花畑と水河  
を流した山岳風景が  
魅力の四姑娘山山  
旅をぜひお楽しみ  
ください。このコース  
を「フロンティア  
の山旅」カタログに  
掲載。

お花畑天国と5,000m峰登山

### 四姑娘山トレッキングと 大姑娘山登山 10日間

出発日：7/4, 7/11, 7/18, 7/25, 8/1, 8/8, 8/15  
旅行代金：¥279,000~¥312,000 (大坂発着)



世界自然遺産の洞窟群と奇峰・四姑娘山を満喫!

### 四姑娘山ハイキングと 九寨溝、黄龍 9日間

出発日：7/22, 8/12, 9/16, 10/14  
旅行代金：¥326,000~¥348,000 (大坂発着)



アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

花々が咲き始める爽やかな初夏のロッキーへ!

### 初夏のカナディアン・ロッキー 満喫ハイキング 8日間

【発着】 東京(大坂/東京国内航空発着制あり)

出発日：6/5, 6/12, 6/15, 6/22, 6/24, 6/29  
旅行代金：¥334,000~¥346,000

雄大な山脈、雄大な岩壁、東部アルプス最大の氷河

### チロル、ドロミテ、オーストリア、ドイツ 4つの最高峰展望と絶景の谷 9日間

【発着】 大坂・名古屋・東京

出発日：6/28, 7/5, 7/12, 8/1, 9/1  
旅行代金：¥478,000~¥562,000

毎年大好評! 絶景カムチャッカの定番コース

### カムチャッカ半島アバチャ山登山と パチェカスエツツ山麓 5日間

【発着】 大坂

出発日：7/11, 8/15  
旅行代金：¥296,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

アルパインツアーサービス株式会社  
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F  
東京/☎03(3503)1911 大坂/☎06(6444)3033  
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎022(265)4611(転送)  
((里)りんどう観光) 広島/☎082(542)1600(転送)  
e-mail: osaka@alpine-tour.com



たくさんのお客様に  
支えられ  
アルパインツアーは  
創業40周年を  
迎えることができました。  
心よりお礼申し上げます。

出張説明会 山の仲間が集合!のときに、当社社員が海外ツアーの魅力を説明し、





ブナの新緑に太陽の光がかがやく。



若葉が美しいブナ林

近江の山

樹木の四季 | 初夏 |

山本 武人

百里ヶ岳山頂付近のブナ林

(高島市朽木木地山・小人谷)

滋賀県高島市と福井県小浜市との県境にある百里ヶ岳は現在、多くの人たちが登るメジャーな山になった。特に中央分水嶺が開かれてからは脱走する登山者が増えた。県境を越える林道もできて、現業坂から1時間ほどで山頂に着く。山頂手前の福井県側にブナ林が広がる。5月連休頃、ブナの若葉が美しい。この季節がブナ林の表情を見る至福のひとつだろうか。山頂から木地山峠へ向かう尾根もブナ林が続く。ゆっくりとブナ林を味わいたい時期だ。





若葉の頃 (矢田寺)

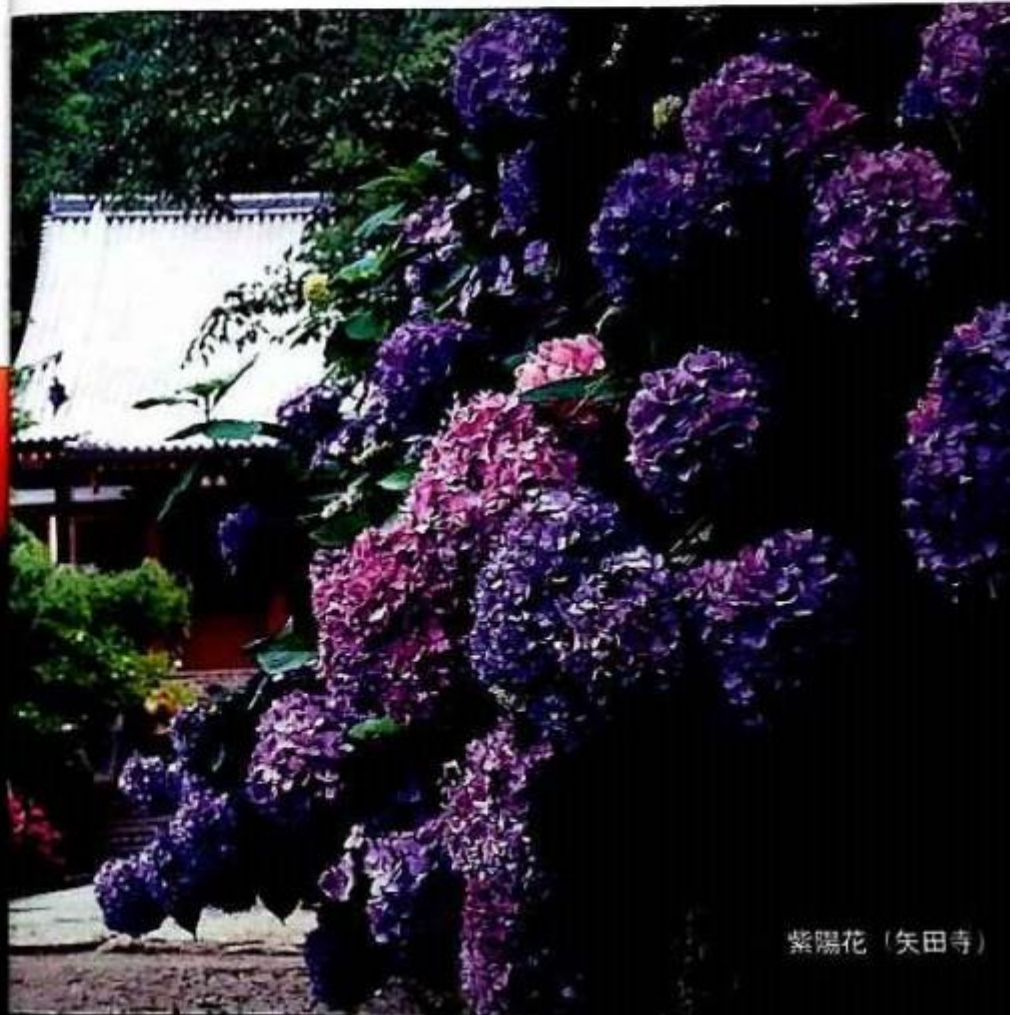
蛙始鳴 (かえるはじめてなく)  
 季節は春から夏へと移りゆく  
 緑眩しい季節がやってきた  
 あらたふと青葉若葉の日の光  
 田に水が張られ蛙が鳴き出した  
 きょうは雨が降り出している  
 雨は好きだ なんとも落ち着く  
 木々の葉に澄んだ玉露が輝く  
 梅雨の花の主人公 紫陽花  
 曇りの日の優しい光がよく似合う  
 「長雨」と「眺め」のかけことば  
 「眺め」とは物思いにふけること  
 小野小町は詠んだ  
 花の色は移りにけりないたづらに  
 我が身世に降るながめせしまに

Photo essay

# 蛙始鳴



題字 中田 蘭 石  
 撮影 由井 収 一  
 文 松 永 恵 一



紫陽花 (矢田寺)



飛鳥落日 (小原の里)



# 季節の

# 実景

とみ山 (大字陀)

初夏

撮影 武市通治



若葉



光踊る



新緑の道

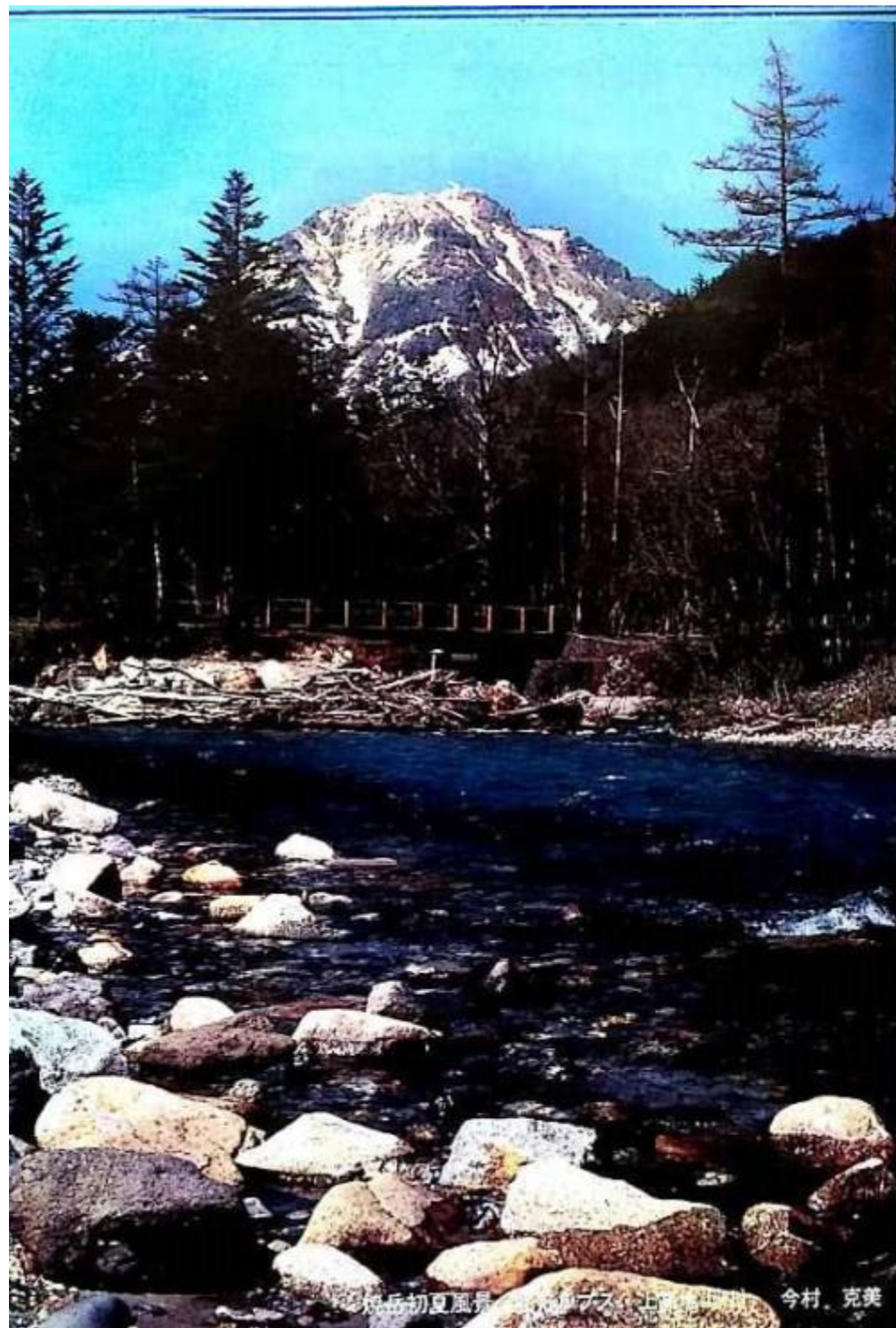


ツツジ咲く池



市街眺望

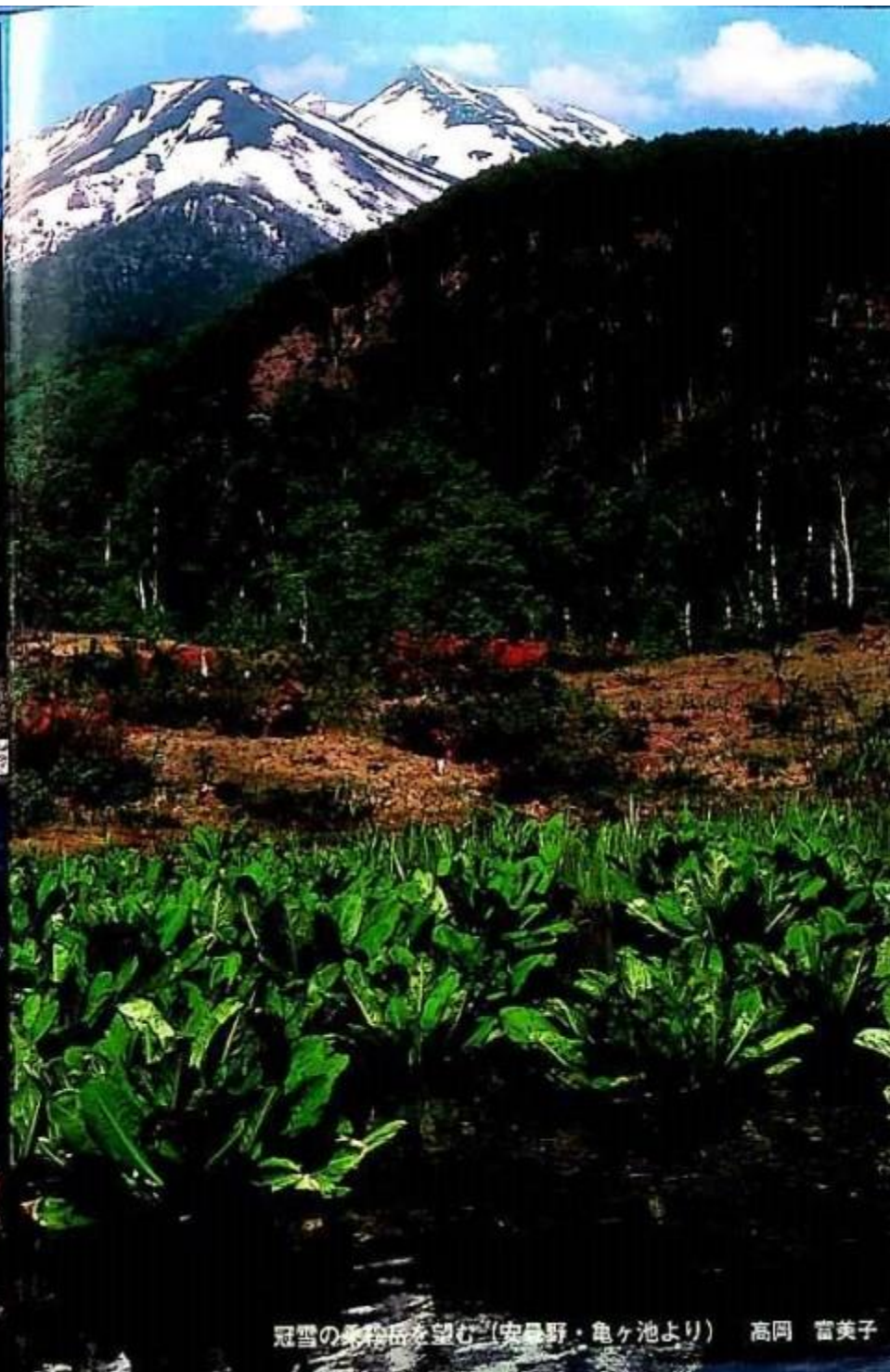




磐城初夏風景

水戸上

今村 克美



冠雪の美輪岳を望む(安曇野・亀ヶ池より)

高岡 富美子





ヒメツツジ 松田 敏男



ニリンソウ花開く (北アルプス・ワサビ平) 武田 誠司



ダムシノバ 松田 敏男



ヤマシキク群生 (鈴鹿・御池長) 一芝 義雄



- 表紙 西本石山のアケボノツツジ (石麓山系) …松田敏男
- 口絵 近江の山・樹林の四季……………山本武人
- Photo essay「蛙始鳴」……………松永恵一
- 季節の実景「鳥見山」……………武市通治
- 高岡富美子・今村克美・武田誠司・芝義雄・松田敏男
- シロヤシオの咲く季節……………奥田英一郎



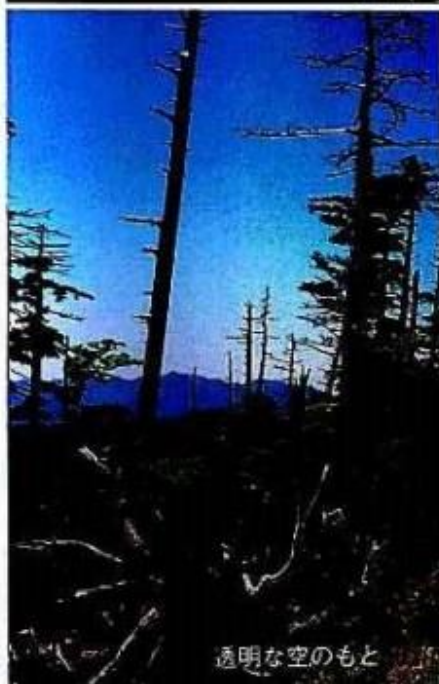
アジサイ  
(西村文明)

シロヤシオの咲く季節 (台高) 一東大台一

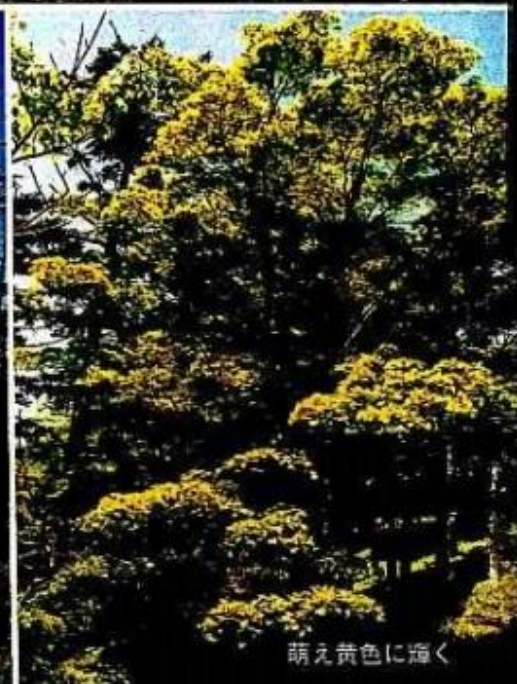
奥田 英一郎



初夏の爽やかさを運んでくる



透明な空のもと



萌え黄色に輝く

紀行

連載紀行

随想

情報

レポート

コースガイド

山行計画・報告

天狗高原に行く……………	田中 明	19
守屋山・芦倉山・麗越山……………	中海 賢博	14
忍野岳……………	伊藤 康夫	24
雲取山……………	木村 太郎	27
加賀押定道から中宮道……………	中島 隆	40
奥ノ深谷右岸相道から堂満岳……………	小山 誠次	47
大湫道から深堂立場本陣(武蔵)……………	国井 文男	53
標高による山の紹介 △△0.6の山……………	松田 敏男	32
三角点を訪ねて・上榎菜坂から小薬、百里ヶ岳……………	磯部 純	60
韓国登山・伽倻山と梅花山……………	吉見 英樹	65
文学歴史ハイク・佐保路、狭間神社を訪ねて……………	松永 恵一	70
愛宕山詣で……………	橋本 逸雄	34
森の癒し……………	鷺見 守康	37
三角点病のかかりかた 触倉島にて……………	山形 明	58
山の地名を歩く・鹿島嶺ヶ岳……………	西尾 寿一	74
①池河内湿原と長野尾峠……………	長瀬 清司	76
②仏徳山と朝日山……………	藤本 伸人	78
③嵐の立石……………	柴田 昭彦	80
せせらぎ……………		84
サービスチェン……………		86
山行計画・報告……………		91
入会案内・新入会員紹介……………		111
原稿募集・編集後記……………		112
広告案内……………		112

巻頭言

春の花シーズンが終わり、低山は緑を深くする。残雪の高山にも芽吹き季節がやってくる。雪解け水が轟々と谷川を流れ落ちていく。鳥たちは囀り、山は新緑で彩られる。

もうじつとしておられない。ザックを担いで高山に登りたいとうずうずしてくる。自分の健康と山を歩ける体力に感謝しながら、緑のなかを思いきり歩いてみたい。自然の恵みをたっぷり受けて登りたい季節なのだ。

単に山の空気を吸えるだけでよい。腹式呼吸で思い切り空気を吸おう。したたる緑の空気がうまい。これほどの健康法があるのだろうか。汗を流せば身体、頭も軽くなり、都会生活のストレスも吹き飛んでしまふ。悩みを忘れ、希望が湧いてくる。

あと一年あと一年、山を歩いたら山に登れたらと願いつつ、今夏も高山に登られそうだと自信が湧いてくる。

新ハイキング関西(代表 村田 智使



四国カルストは花の山

# 天狗高原を行く

田中 明

四国

これまで四国の山といえは石鎚山と剣山くらいしか知らなかった。日本百名山に興味の薄い私は、今まで四国の山には縁がなかった。しかし、なぜか日本三大カルスト地形は記憶にあった。

その三つとは、山口県の秋吉台、福岡県の平尾台、愛媛・高知県境の四国カルストである。

四国カルストは、地芳峠を中心には天狗高原、西は大野ヶ原に至る大カルスト台地で、カールン群・ドリーネが多い。放牧牛が遊び、大展望の続く山並を目にすれば、都会人にとって格好の癒しの高原となるであろう。



四国は道路網がよく整備されている。山のいたるところまで舗装道路が走っており、ここ天狗高原までもしっかりとした二車線道路が走り、快適なドライブであった。さすがに京都からは長

時間で疲れは否めないが、車を降りるときに空気が立派な国民宿舎「天狗荘」など、自然に溶け込んだ風景が待っていた。

ひと休みしてから駐車場東奥からゆるやかな遊歩道を20分程登ると展望の開ける「瀬戸見の森」に着いた。せっかくだから展望台でひと息入れることにする。南の高知方面に延々と広がる山並の先には太平洋が霞んで見えた。山道も穏やかで、足元にはイチナリソウが花期で、チゴユリ・ヤマトグサ・ツクバネソウ・クルマムグラなども可愛く咲き誇っている。

とりわけ嬉しかったのはマルバコンロンソウだ。アブラナ科はワサビ属、ヤマハタザオ属、ヤマガラシ属は覚えやすいが、肝心のタネツケバナ属は数が多いばかりでなく花弁も葉も似通って見え、私の苦手な種である。しかし、その中にあるコンロンソウの仲間、これとヒロハ・ミツバ・マルバの四種しかなく、葉の相違点も比較的はつきりしているため同定はたやすい。今回

天狗の森の道標



三大カルスト地形はいずれも未知ではあったが調べてみると、秋吉台・平尾台共に植物の植生がすこぶる豊かなようだが、今回私が訪ねた天狗高原もいずれ劣らぬ花の山であった。四国カルストが10000~15000mと三つのうち一番標高を持っているのは特筆すべきことで、花歩きだけでなく山歩き好きの私にとっては好都合の山だったのである。

見たマルバコンロンソウの葉は柄のある奇数羽状複葉で円心形のほぼ丸つばい2~3cmの大きさを知っていれば大丈夫だ。二年ほど前の高尾山以来久しぶりの再会であるが、時間を忘れるほどそばから離れられなかった。

いろいろな花との出会いで歩行は超スローだが、誰からも「もっと早く歩こう」と言う声は出ない。また視界が開け、大きなドリーネが点在する景観が目につくと、天狗の森はもうそこだ。三等三角点があり、1484.9mと低山ながら四国カルストでは最高点だ。

北方は灌木が視界を遮ってはいるが、他の東西南方のパノラマには大満足である。しかし、南方に黒々と見える不入山、その東の鶴松森、さらには山頂が美しく削られた鳥形山を見て、誰もが「何とひどい自然破壊をしているんだらう」と言う。

残念ながら、この山でも石灰岩を採掘しているのである。おそらくこの方面の山域なら植物の宝庫であろうが、



守れなかったのだろうか。

鳥形山と開けばトリガタハンショウツルの名前を思いつくのだが、この後すぐ出会えるとは思いませんでした。一本立てたその直後に淡黄白色のうつ向きかげんに咲く花を見て、「何とおしとやかなお花だろう」といつもながら感じてしまう。

ついでにこの仲間についてもみてみよう。キンボウゲ科センニンソウ属で、ハンショウツル・タカネ・シロバナ・トリガタの四種だが、タカネだけ花期が8〜10月と遅く、その他は4〜6月の遅めの春から初夏に見られる。

私見ではあるが一番個体数の多いのは暗紅紫色の鐘形のハンショウツルだと思っただけで観察している。またタカネとの名前から高山に分布する種と思いがちだが、西日本の低山で見られるというから、判断にはいつもウロウロしてしまう。

天狗の森から稜線を行くと、乾いた日当たりのよい場所に名が出てこないが、山野草の若生えが群生している。

みんなで探しても残念ながら見当たらない。忘れたいで、今度来た時には注意して探したいと思っただけ。

その後にはヒメキリンソウという、これまた四国の固有種で絶滅危惧種に出



ヒメキリンソウ



ハイノキ

会えた。このお花は花期がまだ一ヶ月は先だろうとわかるほど蕾固しの段階であった。ペンケイソウ科キリンソウ属でどこでも出会える黄色のキリンソウは花茎が20〜50cmの高さだが、ヒメ

は10cmくらいで低い。決定的な大きな違いはキリンソウは葉が互生であるのに対してヒメは対生であり、なおかつお花そのものが小さくて、ずばり姫の名がびつたりの種名である。

キク科のオヤマボクチの瑞々しい新芽のように見えたが、どうもしっくりこない。角度を変えた画像を持ち帰って調査するも、確たる答えはいまだに得られていない。どうやら、オヤマボクチの花期である秋にでも足を運ぶより仕方なさそうだが、そこまでの元気が私にあるか疑問でもある。

さらに東へくるとササ原に出た。どうやら暑い最中に暗紫色の花弁を付けるユリ科ヒメユリの咲く所で、姫百合平と名付けられている。ひと息いがたが、花談義は続くばかりだ。

すると、お花に詳しい友がそばに寄り、デジカメの画像を見せて「これ、わかる？」と小声で質問がきた。その画面を覗いて「やれやれ、たまたま知っていた種でよかった」と私の安堵感が先に出たのだろうか、彼はこちらが答えないうちから「知ってるの、ありがとう」と先ほどと違って大声で言った。他の人も一斉に「何？」と寄って来て花談義となってしまう。それは何を隠そう私も前回歩いた時

に詳しい方から教えてもらった、シダ植物のハナヤスリだったのだ。偶然にも教えてもらっていたので、にわか勉強だったが、関東の利根川流域と関西の淀川流域に分布するという珍しい種である。トネハナヤスリはヨシ原の河川敷に生えるシダというが、山中であることからヒロハナヤスリであろう。このハナヤスリ類の仲間には山歩きでよく目にするフユノハナワラビ・オオハナワラビもこのハナヤスリ科の一員のようなだ。

さらに東へ登ることわずかで、苔むした石灰岩が転がる樹林帯の小ピークに出た。黒滝山と名前があるが、そばには小さな四等三角点も遠慮がちに頭を見せていたのでやさしくタッチしてあいさつした。とたんに、ハあつ、こがクロタキカズラが発見された黒滝山だVと思いだした。ガラガラの岩の多い樹林の山地のやや湿った所でまれに見られ、ちょうど今ごろ黄緑色の小さなお花を付けているはずの落葉樹のクロタキカズラを探そうと声をかけ、



さらにくだってヒメシヤラの並木を  
行く所で何だろうと近づくと、園鑑知  
識のみで初見の花であるハイノキ科ハ  
イノキがあった。同じ仲間のクロバイ  
は京都西山でも目にしているが、ハイ  
ノキ科は日本では一属しかないようだ。  
そのかわり二十一種にも分布しており、  
おまけにほとんどが暖地性の高山に分  
布しているの、関西での出会いは少  
ないようだ。

しかしながら、クロバイ・ミミズバ  
イ・ハイノキ・タンナサワフタギ・サ  
リフタギ・クロミノニシゴリの六種し  
か出会えてないとは悲しいものだ。も  
つとも厚種であるハイノキを見られた  
のだから我慢しなければならぬ。こ  
れからもハイノキ科の仲間との出会い  
を増やすように努力したいと思うのだ  
がどうなることやら……  
ハイノキ科の多くはアルミニウム  
を多量に含み、灰が染色の媒染剤の原  
料として用いられたことから、「灰の  
木」と園鑑に説明されているのも、興  
味をもった理由の一つでもある。

幼木ばかりのヒメシヤラの並木から  
大引割・小引割へ行った。古生代二疊  
紀という古い時代の地層がその後の地  
震で二本の大亀裂が生じたのを大小の  
引割と呼び、国の天然記念物に指定さ  
れ観光地化しているようだ。

ひやつとするほどの割れ地を覗き込  
んで見物後、同じ道を登り返して四国  
の道へ入り、四差路ではチゴユリの群  
生に感激しつつ最後の一本を立てた。

帰り道でもシコクスミレ・ツクシシ  
ヤクナゲ・メノマンネングサ・シコク  
チャルメルソウなどのお花も見えて、葉  
だけが、ミツバテンナンショウ・ギ  
ンバイソウ・ハンカイソウも見られる  
かもと話しながら歩いた。最後に杉の  
チップがびっしり敷きつめられ、足に  
優しい遊歩道をたどったが、あたりに  
はツツジ類が一〇種近くも植栽されて  
いた。しかし、同定は容易でない。

セラピーロードの植物園鑑というカ  
ラーの看板があり、中にはトサノミツ  
バツツジ・ツクシサボタン・シコク  
ハンショウヅル・ヒナシヤジン・フク

リンササユリなど、勉強不足で聞いた  
こともない名前が並んでいるが、後日  
調べるとほとんどが変種のように、ル  
ーベの世界で区分されているものだろ  
うと勝手に思っている。

そう言いながら少しずつの遠いを知  
り得たため、天狗高原での四季の花巡  
り願望は行雲流水となろう。  
(平成20年5月20日歩く)

#### 参考タイム

- (19日) 大阪南港 20・30 (関西汽船)  
今治港 6・00
  - (20日) 今治港 (車) 国民宿舎「天狗  
荘」9・00 | 瀬戸見の森 9・40 |  
45 | 天狗の森 10・05 | 15 | 姫百合平  
10・55 | 11・05 | 黒龍山 11・55 | 12・  
35 | 最後の分岐 12・55 | 大引割・小引  
割 13・20 | 35 | 最初の分岐 14・05 | 四  
差路 14・45 | 55 | 天狗荘 16・15 (車)  
今治港 22・45 (関西汽船)
  - (21日) 大阪南港 8・40
- △地形図 V  
2万5千=王在案

## 紀行

### 伊那谷の山々

# 守屋山・戸倉山・風越山

南信

## 中澤 與司博

GW、南信州の山旅へ出かけた。同行者は新ハイのM女史、本日  
は長谷村までの移動だ。

JR大垣駅で待ち合わせ、昼食を済ませて高速道へ急いだ。伊那  
インターから高遠を過ぎ、「南アルプスむら」でさくらうどん・野菜  
などを調達する。

ソフトクリームを口にしながら地元のパンフレットを見てみると、  
分杭峠(1424m)「ゼロ磁場」の案内がある。(何のこっちゃ?)  
時間も早いし、興味本位で行ってみることにする。

峠手前に駐車し、山道を5分程くだ「ゼロ磁場」らしいが、変哲のない細流  
と、水場があってこの付近一帯が の水場に入々が水を汲みに来ている。

ふたりとも拍子抜け。峠には「是より高  
遠領」石柱と秋葉街道の案内板がある。  
今夜の宿は南アルプススーパール林道  
北沢峠入口、戸台口の仙流荘。雪をま  
とった鉤ヶ岳が夕日に輝いている。

#### 5月2日 守屋山

高遠を通り杖突街道を峠に向かう。  
道沿いには黄・桃・紅色の花が咲き乱  
れ、まるで桃源郷のようだ。やがて登  
山口の立石の駐車地に到着した。車の  
ゲートを開き、懐かしく登山準備す  
る。「守屋山立石コース」入口は道路  
の向こう側にある。

「清流の森」の標柱を過ぎると山道  
となり、程なくで大きな岩と小さな岩  
の亀石が見えた。足下にはスミレが咲  
いている。よく見ると、色の濃いほう  
は葉が出ていないが、薄いほうは葉が  
出ている。亀石を過ぎると陰石(意味  
深な名)の巨岩、しばらく進むと立石  
の分岐地点。案内板には十文字岩・親  
子岩・鬼ヶ城・平成のピーナス等の名  
前が列記してある。「平成のピーナス」





平成のビーナス



ヒトリシズカ (守尾山)

に続き、厚く積もった落ち葉で滑りやすく、バランスの保持が大変だ。御嶽権現の石仏、人面岩、腰掛の松などを見ながらくると、いつしか傾斜もゆるくなり神社の鳥居が見えてきた。直進すれば里宮だが、左折して森林浴コースへと進む。カラマツ林のなかに、ヒトリシズカ・タチツボスミレが咲いていて、ほぼ水平に付けられた登山道が駐車場までのびている。

帰り道、守屋神社里宮に立ち寄り、今日の無事登山と明日以降の安全を祈念し、守屋山に別れを告げた。

高遠城址にも立ち寄る。ヤマブキ・ニリンソウが満開。葉桜となり人影はまばらで、公園の関係者が花見に使った照明を撤収していた。仙流荘の湯に浸かり疲れを癒した。

☆コースタイム☆

仙流荘 (車50分) 守屋山立石駐車場 (10分) 登山道入口 (10分) 亀石 (15分) 前岳 (1時間) 守屋山 (西峰)

(15分) 東峰 (10分) 分岐点 (50分) 鳥居分岐点 (30分) 立石駐車場

△地形図▽

2万5千円 茅野・辰野  
仙流荘 ☎ 0265 (98) 2048

5月3日 戸倉山

昨日とは打って変わって五月晴れの登山日和。

戸倉山キャンプ場へ行く。先客の車が数台、キャンプ場の周囲には電線が張ってある。道標に従いぐり抜けて杉木立のなかの登山道を行く。木にはプレートが掛けられ、シラカバ・ブナ・コナラ・ミズナラなどの新緑を愛でながら進むと階段道となり、ミツバツツジの保護区に出た。紫がかったピンクの花が開花し始めている。大きなアカマツ (馬止めの松) 脇のベンチで休憩する。

厚く積もった落ち葉道しばらくで、右からの尾根と合流する五合目だった。ここから背丈程のクロモジ林のなかに道は吸い込まれていき、足下にはマイ

はブナの樹肌がコブのように盛り上がっていて、それが女性の胸に見えるところからであろう。坊主岩の上から、雲間に雪を頂いた塩見・聖岳方面が遠望できた。

アカマツ・カラマツ林の明るい樹林帯が見渡す限り広がっている。浅間の滝は水量が少なく迫力に乏しい。木花開那姫の祠が滝つぼ脇に見られる。しばらくジグザグに落ち葉道を登ると、1500m地点の前岳休憩地に出た。

ひと休みの後、東峰を目指してササのなかを直線的に登って行く。汗が噴き出し息苦しくなってくる。樹には「胸突き八丁、あと少しです」の表示。亀足状態でやっと杖突峠からの登山道と合流すると、火成岩が露出する狭い山頂 (東峰) はすぐであった。

曇天で展望はいまひとつ。眼下に諏訪湖が鈍く光っている。八ヶ岳、北アルプスは厚い雲に遮られ、方位盤 (標高1631・7m、北緯35度57分/東経138度7分) を見ながら想像するより仕方ない。残雪の中央アルプスは大きく望め、山頂の温度計は11℃を指している。風も吹き肌寒くて長居できない。岩陰にはオキナグサ (絶滅危惧種Ⅱ類) が開花を待っている。

東峰から少しくだると守屋神社奥宮。金網に囲まれていて不自然な光景。「昔、祠を谷底へ突き落として雨を乞うという荒唐が昭和40年代まで行われて、復旧に費やす労苦が大変で動かせないように封じ込めた」とある。

本峰 (西峰) へは下り気味に稜線を進む。中岳、元気になる木 (ブナ)、カモシカ岩、避難小屋を過ぎると広々とした山頂に着く。一等三角点があり展望の山百選の一つ。気象条件に恵まれれば日本百名山の32座が見られるという。が本日はダメ!

昼食は避難小屋、定員4~5名の「ラビットハウス」を借り切って、豪勢?に熟々の高遠さくらうどんに舌鼓もちろん定番の冷たいビールもある。いい気分になった頃、午後の行動を開始。守屋神社 (古屋敷) コースをくだることにした。アカマツ林が急斜面



ズルソウが白い花を付けている。六合

目を過ぎると展望ベンチがあり、多くの登山者が眺望を楽しんでいる。眼下には伊那谷を挟んで駒ヶ根市街。その後中央アが城壁のように立ち上がり、駒ヶ根の市街を押しつぶさんばかりの迫力だ。ひととき高く宝剣岳が白く望まれ、その下は千畳敷カール、左側は空木岳へと続く稜線。遠く越百山、恵那山までもが友情出演か。昨日、戸台バス停で彼女が買った「雷鳥の糞」なる菓子をつつ口に、山頂へと向かった。またしても急登がしばらく続き、日影、日向の境分岐を過ぎると、大きな鍋がぶら下げてある東屋に着いた。ここは水場(金明水)でもあるので昼宴会も可能だ。

アカマツ林のなかをほぼ直線的に八合目、九合目と登高する。ササが現れ、大きな夕テカンバが目につくと西峰に着いていた。東側は南ア、西側は中央ア、そして目をやや右に振れば北アの峰々、いつまで見ても決して見飽きることのない光景。祠・石仏も安置さ

れている。

いったんくんだり、避難小屋を過ぎ東峰へと向かう。樹林帯のなかの山頂だが東側だけ展望できる、美和湖、長谷村が高遠が俯瞰でき、三ツ石山の奥には残雪の露岳、仙丈ヶ岳が迫力で望まれる。一等三角点(十蔵山)の石標、薬師如来像があり、広くない山頂は賑やかである。山頂脇のブナ・カエデの下で昼食にした。気がつけば山頂に人影は無く、心地よい微風が流れていた。来た道を引き返し西峰に着くと、何とマウンテンバイクでここまでやって来た4〜5人の若者が休んでいる。「女沢峠より来た。途中ロープ頼りの急登があった」と言う。

中央アの山姿を脳裏に焼きつけ、満開のクロモジ・ミツバツツジ、そして新緑のなかをどんとくんでってキャンブ場に戻った。あとは中央アを正面に見ながら、宿までドライブ。今夜の宿は、駒ヶ根高原のペンション。明日の昼食を買い込んで宿へと向かった。

☆コースタイム☆

戸倉山キャンプ場(5分) 登山口第一ベンチ(20分) 五合目(25分) 六合目展望台(15分) 金明水(20分) 西峰(10分) 東峰(1時間30分) キャンプ場  
△地形図▽  
2万5千市野瀬・赤穂

5月4日 風越山

昨夜、「あすは飯田の風越山に行く」と宿の主人に話すと、何と彼は飯田の出身で山の関係者らしい。「かざこし山」の単行本を借りることにした。

出発点は押洞登山口「かざこしこともの森公園」の駐車場。観音像のある三叉路を左にとれば道幅の広い山道が山頂付近まで続いている。飯田市民の山で毎年体育の日には市民マラソン大会が開かれるとか。やがて石灯籠と祠のある広場に出ると、家族連れが休んでいる。祠に一札し登って行く。つづら折れ道の脇には石仏が多く見られる。東風が切り開かれた展望地に到着。飯田市内を眼下に見、天竜川を挟んで

南アの雄大な山脈が目に飛び込んでくる。早速「日本アルプス絵園」を広げ、コンパスも用意して、山座同定の開始。時の過ぎるのも忘れ、北は八ヶ岳から南は熊伏山までの大パノラマ。あの山は仙丈、垣見、その左は聖かなと、一昨日登った守屋山、昨日の戸倉山も見えてはいるはずだがハッキリしない。

アカマツとツガが多く見られる秋葉権現の分岐でひと休みし、急登を登ると虚空蔵山(1130m)の山頂。この地点からも南アが展望できる。モミ・ツガ・スズタケと樹相も変化してきた。薄暗い樹林のなか、ベニマンサク(マルバノキ)の自生地に着いた。



風越山山頂

説明板では「分布の東限でもっとも高い位置の自生地」とある。

再び急登が始まり、矢立木を過ぎると展望臺、ツツジの花を前景に南アをパシャリ。朱塗りの大きな両部鳥居をくぐると神の領域。石仏、岩を削った石段を越えたと磨崖仏、山門、そして立派な白山社奥宮で参拝。

裏手に登山コースが続き、露出したツガの根っことロープにつかまって山頂を目指す。スズタケのなかをやや登り気味に進むと、広い台地状の風越山(1535・111、二等三角点)山頂の一角に出た。山頂名は風越山と権現山と二つある。展望はブナやミズナラに遮られてきかない。

記録写真を撮り、白山社奥宮まで引き返して昼食にするが、虫が付きまるとつて落ちて食べて食べさせてくれない。中央アの安平路、摺古木、念丈が谷を隔てて見られる。

来た道を1300m地点までくんだり、円悟沢へとくただって行く。落ち葉が厚く敷き詰められた人気の無いコース。

今庫の泉分岐から虚空蔵山へと山腹を廻り込んで行った。延命水の細い流れで咽を潤し、秋葉大権現前の広場で大休憩。ここから登って来た道を駐車場までくただって行く。南アの峰々は、春霞のなかに青黒く浮かんでいた。

こうして、南信州の三山4日間の山旅は終わった。駐車場近くの旅館で汗を流して帰路に着くことにした。  
(平成20年5月2日〜4日歩)

☆コースタイム☆

飯田市かざこしこともの森公園駐車場(10分) 登山口(50分) 展望地点(20分) 秋葉権現分岐(10分) 虚空蔵山(30分) 展望臺(15分) 白山社奥宮(15分) 風越山(15分) 奥宮前(15分) 展望臺(15分) 延命水(40分) 虚空蔵山分岐(20分) 白山社分岐(20分) 登山口(20分) 駐車場  
△地形図▽  
2万5千市飯田



急登が連続する

忍にん者じゃ岳だけ

伊澤康夫

鈴鹿

03年5月、妻とふたりで忍者岳を目指した。しかし、登れど登れど忍者の姿は無く、現れたのは三国岳だった。忍びの術にはまったのか？ 紙製の手裏剣片手に再チャレンジを考えていたが、いつしか五年の月日が流れ、孫娘ふたりも山が好きになり、八ヶ岳まで登れるようになった。

08年3月、那須ヶ原山で下の孫娘が忍者姿をした。孫が忍者岳のことを思いだす機会をつくってくれたのだ。4月5日、少し肌寒いが春日和。母親の長女は仕事で孫の守り。上の孫娘も学童を休ませ、「きょうこそ忍者岳に登るぞ！」

急登を登る孫娘たち



10時30分に家を出て、余野公園に向かう。途中、国道1号線のニューライフでオニギリ弁当を買う。余野公園内の道を奥へ進み、三馬谷橋に車を停める。少し歩くと三馬谷小屋。

七年前は、大きな案内岩を右に進んでしまった。三馬谷小屋前を通り、しばらく進むと昇竜の滝、続いて水竜の滝が眼下に現れ、静かに水が落下している。梅雨時期になると勢が増すのだろう。水量が少ないときは（水竜・

雲竜などの名前は似合わないなあ）なんてことを考えながら、狭い登山道を進む。雲竜の滝が左に現れると、登山道はいよいよ登りにさしかかる。雲竜の滝の右側は一面岩盤で薄暗く、ここだけはひんやりと寒いくらいだ。

約1300歩の狭い道を10分程登ると、岩肌にあるアルミ製のハシゴが設置されている。ハシゴの右側が天竜の滝だが、ここからは見えない。登山道から逸れ、川沿いに100歩ほど奥へ入ると滝が現れた。滝の上部は、ほぼ一本筋に流れ落ちる形状。スケールは小さいが、

権現岳（福井県）の布滝を思いだした。上の孫娘をハシゴを上がった所で待たせ、写真を撮る。後続を歩いていた妻と下の孫娘がハシゴにさしかかった。いつも何やら話している下の孫だが、ハシゴを上がるときは、さすが緊張したのか、無口で一段一段と上がる姿をカメラに収めた。

少し遅れて私もハシゴを上がり、なかなか道を進むと忍者岳への分岐点。直進すると、加茂岳・油日岳方面。忍者岳への道を探すが踏跡は無く、木立の赤いテープを探しながら進む。石度に近い急登。大人でも四つん這いにならないと登れない斜面。落ち葉と土砂がさらに追い打ちをかけ、登りづらい。まさに悪路だ。登れど登れど悪路の急登。上の孫は、冠山の難所を経験し、バランスを保つ歩行技術は安心して見ていられる。下の孫の、滑りながらも前に進む意気は褒めてやりたい。ロープを持って来たらよかったのになあ。今更、車まで戻れないし……。

前回の那須ヶ原山と同じ見過ぎから

の山歩き。なかなか平坦地が現れず、40分程歩いた斜面で休憩。ベットポトルが転がり、リュックも転がる。孫たちには良き経験か……。さらに登りは続くが、下の孫も少しづつ慣れてきたようだ。

標高が高くなり、暗かった樹林帯から抜け出し、日差しで明るいピークに到着したが、山頂らしき標識は無い。まだ先のような。崩れやすい花崗岩の上に立つと、左前方に三国岳、その奥には霊山の山容が目に入る。「おじいちゃん、頂上か？」、息切れしながら孫たちが登ってくる。「ここで少し休憩しよう、見晴らしも良いしな」。ピークまで登り終えた孫たちに、「頂上はもう少し先やなあ」。孫たちは「おじいちゃん、ここでご飯食べようー」「少しおやつを食べて頂上まで行こうな！」

ピークから先は、急な下り坂。一歩間違えばやぶのなかに落ちてしまう危険な箇所。途中まで先にくだって下の孫を滑らせる。「ちよっと待てー」、怖





がる孫を停め、写真を撮る。我が子だつたらこんなことをしたろうか。いつしか余裕が出てきたのだろうか……

上の孫はひとりで何とか通過。しばらく進むと三角点らしきものが、よく見ると「財産区」の印だった。さらに進むと尾根伝いに忍若岳（728m）の山頂標識が現れた。時刻は13時25分、「やっと着いたなあ」。孫の明生・侑生だけでなく、私たちにも安堵感が。

「さあ！ ご飯食べようー」オニギリ・申カツ・鮭フライ・サラダ。腰を降ろし、山頂で食べるオニギリはやっぱり美味しい。他の登山者にも出会わない静かな山頂は4人だけの自然空間。至福な時間を、さわやかな風とやさしい日差しが刻んでくれた。もちろん、孫たちとの楽しい会話もはずむ。ときおり叱る声も出てしまうが、孫たちのほうがうまく聞き流しているのかもしれない。

14時過ぎ「さあ、帰ろうー」。心配な下り。コロコロと滑ればよい下の孫だが、大事な大事な孫娘。妻も滑

りやすい急な下り坂。ときおり滑らせながらも案内板（二箇所のみ）に従い、展望の良いピークまでくだった。焦ることはない。怪我をさせたら大変。元氣そうなの孫だが、足のブレイキ力を蓄えるためしばらく休憩する。そんな思いはいざ知らず、ひょうきん顔の下の孫は、持参した姉の土産（お菓子）を食べてごきげんだ。

休憩後は、ただひたすらくだるのみ。尻で滑って、少し立ち。少しは歩いて、また尻で滑る。「ズボンは汚れても、怪我だけはしなければ」。そのうち川のせせらぎが聞こえ、分岐が近づいてきた。15時08分、急な斜面をくだり終え、川沿いの分岐点に無事到着。とりあえず胸をなでおろした。

「おじいちゃん、川に手を浸けてもいいやろー」。登りのときの約束だった。「もう少しくだって、広い所であー」。分岐点のすぐ近くの小川を渡り、しばらくくだると道沿いの広い場所。「ここならいいよー」「冷たいかなあ？」と言いながら、上の孫が手を浸

### 紀行

## 「二十歳の原点」を歩く

# 雲取山

木村 太郎

### 京都北山

その人は昔、京都北山を山歩きの原点にしていた。北山を歩くことにより、山歩きの楽しみを得た。けれど、仲間による裏切りで山を離れ、果ては社会にも絶望して自らの命を絶った。

「独りであること、未熟であること、これが私の二十歳の原点である」と、自分自身を分析している。

あるひとりの女性が世に生きていたことを忘れないために私は彼女がよく通ったという、雲取山へ向かった。

出町柳初発の広河原行き京都バスは、登山口の花背高原前に9時過ぎに着き、別所川の橋を渡り林道へ歩く。

ける。「そんなに冷たくないわあー」。おそろく八ヶ岳（根石岳）に登る途中、谷に手を浸けた冷たさと比較していたのかも知れない。ここからは、そんなに心配しなくていい下山道。再び滝沿いにくだる。静かな滝を見ながら15時23分、三馬谷小屋に戻ってきた。

忍者には出会えなかったが、変化に富んだ山歩き。遊びが大好き、アウトドア大好き。いつまでも健康な孫娘でいてほしい。あつ、そうそう、宿生の靴を買わねば……。靴底がすり減った靴では、ブレイキも効かないだろう……

（平成20年4月5日歩く）

- △コースタイム▽
- \*文中を参照
- △地形図▽
- 2万5千11鈴鹿峠

何年前か前、花背高原スキー場の空地に車を置き、雲取山をピストンしたことがある。薄れゆく思い出のみが残り、いつの間にか私の前から時は容赦なく流れ去っている。

魔城の白熊ヒュッテを通り過ぎ、小沢のほとりに紅紫色のクリンソウが一輪咲いている。

か細い花茎に支えられ直立し、旅立ちの季節のサクラ色に似ているサクラソウ科の花は、「二十歳の原点」のノートを通して旅に出た立命館大学文学部の学生、高野悦子の面影を感じさせているようだった。

昭和44年（1969）6月24日の京都新聞夕刊社会面に、「娘さん、線路で自殺」の記事が載った。京都市中京区の国鉄山陰線天神踏切そばで、貨物列車に飛び込んだという。死後に父が高野のノートをまとめ、「二十歳の原点」と「二十歳の原点序章」などの遺稿集が新潮社から出版されている。

入学から一年を経た昭和43年4月に、





語り合うクリンソウ

高野はサークル活動の「部落問題研究会」を退部してワンダーフォーゲル部に入部している。以来12月までの期間に、高野は十数回のワンゲル行事に参加する。雲取山直下に建つ立命ワンゲル小屋を度々訪れて、ある時は楽しみ、ある時は悩みを抱いて、勉学のかたわら山小屋のまわりを歩いていたのである。



雲取山 三角点

「花背山の家」が付けた番号を記した標識に導かれ、林道終点からスギ林

が生い茂る登山道を寺山時へ登り着く。尾根にかかる森林開発公園の作業道を見送り、一ノ谷の道標へくだる。一ノ谷に出合くと道が分岐し、左方に進めば芦生へ通じる道で、雲取山へは右方に折れ、一ノ谷を上流へ向かう。何という楽しさ、一ノ谷の水辺には紅紫色のクリンソウが群生している。花背高原スキー場で見たクリンソウが

高野の学生の面影だとしたならば、高野と仲の良い友人が水辺に集まり、さざめき合っているようだ。溪流クラブ「雲取山荘」のまわりもクリンソウが多い。しかし登るにつれて流れは狭ばまり、湿地帯から離れて花の群れは消えてしまった。涙のしずくのような清水の滴りがなくなれば、クリンソウは生きていけないのだろう。背空が広がる明るい雲取峠へたどり着いた。天気が良いすぎて雲の欠片さえ見えない。いまは雲取峠の名で通用しているが、昔からフカンド峠と呼ばれており、高野もノートにフカンドの名を使っている。

「京都北山を歩く」の著者澤澤は京都北山にまつわる地名語源や歴史伝承をまとめている。「フカンドとは、深い渡渉地のこと」と自説を述べている。雲取山をとりまく深遠の谷川を渡り越えて来てこそ、フカンド峠に立つことができるというわけである。古びた道標に従い、峠を後に雲取山を目指す。少しの登りで尾根腹を捲く

平坦な道に変わり、ナラ・カシ・クスギなどの新緑に色づいた落葉樹林に全身を包まれる。たわんだ尾根の低床部に道が合い、小さなコブに登り着いてから一度くだって登り返し、雲取山(911.1m)へ11時過ぎに到着した。平成5年8月に選定された「京都自然二百選 雲取山」の木柱が山頂の片隅に立ててある。京都北山の代表的な山頂を足下にした達成感を誇るかに登頂記念のプレートが木に取り付けてある。

高野は雲取山に登頂した時、自らのノートに感想を書き残した。一初めて雲取山に行った。眺めがとてもよい。フカンドにも行った。熊笹の明るい展望のきく峠だ。雲取山に登らずして、小屋は語れないということがよくわかる」と。1968年(昭和43)12月16日付のノートなのだが、14日と15日の週末の二日間、小屋を出て雲取山へ登り、二ノ谷を下りている。

三等三角点の標石に腰をかけ、コンビニ弁当を食べる。渴いた喉に発泡酒

がうまい。ザックには携帯コンロを入れていたのだが、ゆっくりするのは小屋に着いてからのお楽しみ。山頂滞在を30分で切り上げ、高野が歩いた二ノ谷への急坂をロープにすがって下りて行く。

雲取山直下に建つ小屋に12時前に着く。小屋外壁には、「立命ワンゲル小屋 SINCE 1962」のプレートが



雲取山付近図



立命ワンゲル小屋



張られてある。高野の死よりも七年前に建てられ、ワンゲル部員として高野も利用した小屋である。

小屋内には立ち入れないが、沢寄りにはドラム缶の風呂と、屋根のあるカマド場があり、机と長椅子が備えてある。カマド場を借りコンロを組み立てて、沢の水をコッヘルに汲んで湯を沸かした。マフィンケーキとココアをたてて、ひとりだけのお茶会である。

ココアを飲みながら、ザツクのポケットに入れてきた文庫本「二十歳の原点序章」を開いた。約30年前の本なので本文ページは紙質が赤茶けているが、那須の牧場で撮られた扉の若い女性には変わりがない。

このカマド場で高野は、鋸で木を切り斧で薪を割り、火を囲炉裏でおこして飯を炊くなど、小屋で過ごした様子を詳しくノートに記している。

雲取山の斜面も沢対岸の山斜面も、沢上流・下流域も、小屋の四方は自然林に囲まれている。高野が足繁く通った喫茶店「シアンクレール」で愛読し

たというアイトブレイキーのモダンジヤズは聴けないが、しきりに小島のさえずりが森に音楽を奏でている。

山小屋コンバに高野が初めて参加したのは、入部してから半月後の5月11日である。その時に、いま広がる新緑と同じ風景を見ていたのだ。夏には友人とふたりだけのワンデルンクで雲ヶ畑から杖藜ヶ岳を登り、芹生へ抜けて小屋に入り、途中で摘んだキイチゴでサラダをつくったりしている。

9月30日のノートを聞くと、「ワンゲルに入部して以来、ほとんどの日曜日には山に出かけた。北山、比良、曾爾鈴鹿、ついには南アルプスへ」と、ワンデルンクに積を出している高野がいる。何をしても高野を山に駆り立てたのだろうか。「山のもつ魅力にひかれ、自然の美しさや新しい発見のおどろき」と、山仲間たちとの友情と連帯に生きがいを見つけたからにはほかならない。

高野の最後の山小屋行きは12月13日

の金曜日、「貴船口から芹生、二ノ谷、小屋と雨の降る中を一人で歩く」と書いている。小屋に雪が降ったという16日の山小屋コンバが終わったのち、仲間たちの裏切りによって山から離れざるをえない事件がおこる。

「私のふるさととは崩れ去った。雲取山でははるかな深淵を感じた。しかしそれは一挙にして崩れ去った」と高野は語る。ノートにその日以来、山小屋の話は出てこない。学生運動へ遇敵に突き進み、そして失態、生きること絶望してこの世から決別する。

私は本を閉じ道具を片付け、小屋を後にした。丸木橋を渡って、石ころの道を歩いて三ノ谷谷合に出る。水辺にクリンソウが咲き群れる興趣つきな林道を行く。勢竜天満宮でひと息入れて芹生の里に入り、峠下に出る旧花背峠を過ぎずに芹生峠を目指した。

NHK朝の連続ドラマ「花ぐるま」の舞台となった民家を通じた所に石橋が架かる。高野が7月に杖藜ヶ岳から

素直な気持ちで書かれているのは10月17日の文章であろう。

「山に行きたいという気持ちを大事にしよう。北アに、南アに、白山にいきたい。あこがれははてしなくつづく」と夢を書いている。さらには、「北山を歩いてみたい。踏みなれた、落葉のしきつもった峠への道。山の夕暮。快いしんどさを感じながら歩をすすめていく一種の快感。そう、やっぱ、山へ行きたい」と、素直に心の内側をさらけ出している。

その死の2日前、1969年（昭和44）6月22日付のノート最終ページには、一篇の自作詩が高野悦子の遺言のように書かれている。

旅に出よう  
テントとシユラフの入った  
ザツクをしょい  
ポケットには  
一箱の煙草と笛をもち  
旅に出よう  
出発の日は雨がよい  
霧のようにやわらかい

春の雨の日はよい  
雨え出た若芽が  
しつとりとぬれながら（以下略）

あの、「二十歳の原点」の高野悦子はいまでも山を旅している。いまも、北山のどこかの峠を目指し、「快いしんどさ」を感じて歩く姿が目に見えかねないのである。

（平成20年5月23日歩く）

- ☆コースタイム☆
- 花背高原前バス停（50分） 寺山峠（40分） 雲取峠（20分） 雲取山（25分） 立命ワンゲル小屋（25分） 林道出合（25分） 勢竜天満宮（25分） 寺子屋橋（1時間） 奥貴船橋（10分） 貴船神社奥宮（40分） 叡山電鉄貴船口駅
- △地形図▽
- 2万5千：花脊・大原

歩いてきた時、「芹生の橋からおおよそ40分ばかり小屋が見えた時はうれしかった」とノートに書いている芹生の橋であろう。灰原川の寺子屋橋から舗装路を登り、芹生峠に届くと比叡山が望めた。あとは林間をひたすらくだるだけである。

高野が山小屋へ最後に入った時、「雨の中を一人で歩く」と記した道である。ノートに、「丸木橋にしる、踏みしめる石にしる、友達みないな感じがする。山小屋につくと自分の家にいるみたいな感じがする」と山小屋への思いを打ち明けた雲取山へ続く道である。

旧花背峠への登山道が分岐するアソガ谷の入口を過ぎれば、奥貴船橋はすぐである。貴船神社奥社で一服し、シヤガが群生する川岸を眺め、川床料理の提灯が続く川沿いを叡山電鉄の貴船口駅へ歩いた。

同世代人として、高野が二十歳の若さで生きること終止符を打ったことが痛ましくてならない。ノートに最も



標高による山の紹介シリーズ46 松田敏男

新ハイ関西106号  
標高△△06mの山

高峯山	(2106m)	上信越
青薙山	(2406m)	南アルプス
薊岳	(1406m)	台高山脈
入道ヶ岳	(906m)	鈴鹿山脈

高峯山

花粉症がピークを迎える3月の後半は、山を目指して現地まで行くが症状が激しくなり、登らずに帰って来ることしばしばあった。そんな症状の重いとときでも雪の中に入れば、すぐに治まる。目をつぶっていても空気がきれいになったとわかるほどの違いなのだ。そんなわけで選んだ行き先は、バスを降りたら雪の上という標高2000以上の足らずの車坂峠。黒斑山へ登ってテントを張り、春の日長、浅間山を眺め

ようと計画した。

しかし、いざ歩き始めるとラッセルが深くてたいした距離ではないのにひとりではなかなかほかどらない。花粉症の時期だから基礎体力は普段より格段に落ちている。無理は禁物と思っ車坂峠へ戻り、反対側の高峯山へ行った。山頂では下界の展望が大きく開け、関連な気分になった。

(平成17年3月19日、20日歩く)  
△コースタイム▽  
車坂峠(1時間30分) 高峯山(1時間30分) 車坂峠  
△地図▽昭文社「浅間山」

青薙山

水場のある池ノ平でテントで宿泊し、ゆつくり青薙山を往復することにした。池ノ平は大木の森のなかにあった。小さな池状の端から水が湧き出し、滝となって落ちている。鬱蒼とした森は真夏でも涼しくて心地よかったが、夜は暗闇だった。滝の音が異様に大きく聞こえた。不意に風の音が無いにもかかわらず、何か大きな物がドスンと地面に落ちる音がした。また滝音だけの長い沈黙が続いた後、別の方向からドスンと音がした。猿がいるわけではない。生き物の気配など皆無だ。恐る恐るテントを出て調べてみると、鬼胡桃だった。

池ノ平からしばらく続く広くてまだらかな斜面にはカニコウモリが群生していた。その傍げに咲く白い花の群生の間を歩けば、心はいっそう針葉樹の森に沈没していく気分だった。山頂付近だけ樹林が切れて、黒沢岳、赤石岳、聖岳などの大観に出会えた。淡い山



青薙山付近略図



青薙山頂より上河内岳(左)と聖岳(右)

旅だった。(平成12年8月11日歩く)  
△コースタイム▽  
池ノ平(3時間) 青薙山(2時間) 池ノ平  
△地図▽昭文社「塩見・赤石・聖岳」

薊岳

薊岳へは明神平から行くコースが一般的だと思われるが、季節を変えて再訪するなら、木ノ実や塚を経て登る道がお勧めだ。途中に美しいブナの森がある。

車で林道麦谷線を上り、西のジョウブツ山への尾根に林道が上がった地点が登山口だ。しっとりとした樹林のなかの路跡が心地よい。木ノ実や塚のこもりとした山頂周辺は、ブナの大樹が広めの間隔で林立しており、ササ原との組み合わせがまことに美しい。そして、薊岳に登り着いた時に味わう一気に広がった広大な眺めは圧巻だった。

(平成14年9月29日歩く)

入道ヶ岳

小岐須溪谷の林道を滝ヶ谷の分岐まで車で入り、その先の林道を池ヶ谷の登山口まで歩いた。池ヶ谷は新緑の美しい谷で滝の白い飛沫が陽光にきらめいて美しかった。

山頂台地は広大で、アセビの灌木が植栽されたように育ち、ササ原とのコントラストが庭園風で独特の雰囲気があった。その頂上台地に向こうに鎌ヶ岳をはじめ、右に御在所岳、左に水沢岳から仙ヶ岳への山並が青々と美しくあった。(平成4年6月21日歩く)  
△コースタイム▽  
小岐須溪谷林道滝ヶ谷分岐(3時間30分) 池ヶ谷を経て入道ヶ岳(2時間) 小岐須溪谷林道滝ヶ谷分岐  
△地図▽昭文社「御在所・霊仙・伊吹」



# 随想

## 山のエッセイ

### 愛宕山詣で

網本 逸雄

愛宕神社（右京区嵯峨愛宕町）は、古くより火伏・防火に靈験のある神社として知られている。「お伊勢七度、熊野へ三度、愛宕さんへは月参り」と謳われたほど、愛宕信仰は近世盛んで現在も続いている。

試峠の手前、一の鳥居からが愛宕詣での起点となる。ここから山頂（924m）の愛宕神社本社まで「五十丁」（5・45m）で、一丁ごとに町（丁）石が置かれた。

「試峠」の由来は、険しい表参道を山頂まで登れるかどうかまず試してみるところというのが由来。その様子が落語「愛宕山」にある。

「愛宕山なんて高いことおまへん、ケンケンで上がった」と、茶白山・天保山などの例を挙げ大言を吐く大阪の太鼓持ち一八、茂八。登っているうちに息が切れてきて、「本社はどちらです」「今のは清滝試みの坂」と言われて音を上げる断である。

鳥居の傍らにある一対の四角型石灯籠は、山中之家（11695）、宗利（16

6711736）親子が奇進したものである。大阪の豪商・鴻池善右衛門の二代目と三代目である。戦国武将・山中鹿介の子孫というが定かでない。

鹿介の次男とされる山中新六は摂津国川辺郡鴻池村（現伊丹市鴻池）で慶長年間濁酒に代わる清酒醸造業を始めた。「日本山海名産図会」（1798）は「伊丹は日本上酒の始めとも云うべし。これまた古来久しきことにあらず、もとは文禄慶長の頃より起て、江府に発始しは、伊丹隣郷鴻池村山中氏の人なり」とわが国初の清酒発祥地を記す。

新六の子正成は村の名をとって「鴻池善右衛門」の初代となり、酒造、海運、兩替商を営み三代目で日本

最大の豪商となった。「鴻池善右衛門」の名前は井原西鶴「本朝二十四孝」上方落語「鴻池の大」はてなの茶碗」などに登場する。

宗利は新田開発も手がけた。現在も東大阪市のJR鴻池新田駅の駅名と付近に「鴻池」の町名、新田の管理・運営を行った「鴻池新田会所跡」（国史跡・重要文化財）が残る。

昭和八年、三菱東京UFJ銀行の前身三和銀行が鴻池銀行ほか三行合併して創立した。三和の「和」の禾、福は鴻池新田の稲を意味する。

一の鳥居の隣の「平野屋」は享保年間創業の駄茶屋の老舗である。注連縄が掛った店先の亀石は愛宕参詣道

の起点を示す。かつて鳥居そばに享保九年（1724）

建立の道標「右あたご道」があったが紛失した。

そこからしばらく行くと、左手に「二丁目地蔵」が立つ。花崗岩製で高さ50cm弱の立像。両手に宝珠を持ち、江戸中期の造立か。光背面の右側に「二丁」、左側に「伊勢津佐野宗吉」と刻む。

試峠入口とバス道路の交差点に千二百体の羅漢さんで知られる愛宕念仏寺がある。境内屋下にある二基の笠塔婆は、もと試峠にあったもので愛宕鉄道敷設工事のため移された。昭和四年（1929）、京福電鉄嵐山駅から神社近くまで、愛宕山鉄道の平坦線（普通鉄道と鋼索線（ケーブルカー）が敷設され、同十九年（19

44）戦中の鉄材供出で撤去された。

境内の向かって右の名号笠塔婆は室町時代の永正九年（1512）建立の千日詣での供養塔。中央に「南無阿弥陀仏」、左右の銘文は「為愛宕山清水寺千日参詣けち結がん願供養之立也。干時永正第九壬申季九月十六日、願濟敬白」（京都古名案記）。

トンネル（田平垣線）を抜けると清滝。十二丁目に当たる。かつては「出来齊京土産」巻六（1677）に「愛宕にまうづる人まづ此川にて垢離をとるとかや」とある。

渡猿橋を渡り二の鳥居をくぐり峠道にかかる。右側の道端に半ば埋もれた板碑型の町石。地蔵の梵字「カ

の下に「三丁」と刻む。同じ右側の崖上に三丁と四丁の「佐野地蔵」が並ぶ。峠のすぐ手前、梅津山清滝不動尊への辻にも、五丁目と六丁目の「佐野地蔵」が立つ。三重県津市出身の佐野宗吉とは何者か……。

十七丁目は火燈権現社跡。「扶桑京華志」巻一（1665）は「若し洛に火ふれば此社鳴動す故にこの名得り」とある。

十八丁目の壺割坂。江戸幕府に献上する宇治茶を品質保持のため山頂に保存していたが、ここで茶壺を割ったのが由来。

道半ばの二十五丁目は宿茶屋「なか屋」跡。参道には茶店が多くあり、休憩する者や名物の土器（かわらけ）投げで賑わった。また、

茶店では疲れた客への甘味として、しん粉（うるち米の粉を練ってつくった団子）が振舞われた。明治初めには十九軒もあり、道沿いに石垣に囲まれた茶屋跡が見られる。

二十八丁目は大杉大神の祠。古い大木は落雷により黒こげで枯れ、萌芽更新した若木である。中世、神仏習合の進展に伴い、愛宕社の火神・カグツチノミコト（迦遇突智命）は、愛宕権現太郎坊という天狗とされた。「愛宕神道縁起」の中の「古縁起」に、役行者と薬澄が愛宕山（別名白雲山）に入山し白雲寺を開いたとき、大杉の上に五仏・天狗が現れたとし神木とされる。「白雲寺縁起」にも「日本太郎坊各々將其眷属（従者）



大杉の上に現れ、九億四万  
余の天狗有り」と伝わる。  
ただし、白雲寺という名称  
は近世以降しか現れない。  
その先七合目は眺望が開  
け、「カワラケ投げ」の札  
が立つ。

柚の里水尾の分岐点から、  
榎の花売り場を過ぎる。  
嘉永五年(1852)の  
「洛西嵯峨名所案内記」に  
「花うり場といふ古来榎を  
此山の神符とし、火災を除  
く。水尾村の女毎月此所に  
出て売る。参詣の人はをも  
とめ土産とす」と記す。  
やがて京口惣門(黒門)  
をくぐる。白雲寺の境内に  
入る。寺は明治の神仏分離  
令で破却され、愛宕神社と  
なる。

愛宕山表参道は、西国三  
十三所巡礼の逆打(逆道)

像は光背部に「□より團部  
道/□あなう道」と刻む。  
小型の一基は「左あなう」、  
左手坂をくだったもう一基  
は中央に「従是左廿一番札  
所穴太寺道」とある。左右  
の文字は判読不能。嘉永二  
年(1849)の「西国順  
礼道中細見大全」の「逆打  
あたこ越穴太への道」の項  
で「あたこより式り半近し  
亀山城下宿有。本社石段の  
中程より左へあなふ(穴太)  
道巻町ばかり行右月の輪道  
又一町余行右に高壇山道あ  
り、あなふへはすぐに(真  
つ直ぐに)行、半里ばかり  
下りて左の方穴太道立石あ  
り」とあり、立石はこの道  
標を指すだろう。

巡礼道をさらにくだると  
「従是保津村 明治十一年  
(二八七八)」の村界石があ

といわれた道法でもある。  
江戸期から第十九番札所の  
華堂(中央区)より第二十  
番善峰寺(西京区)への順  
道を行かず、愛宕越えして  
第二十一番穴太寺(亀岡市)  
へ行き善峰寺へ参る。理由  
は山越えの道中に宿屋が少  
なく、悪路のためである。  
文政十二年(1829)刊  
行のガイドブック「西国順  
礼・道中細見 新增補指南  
車」に「穴太寺より惣持寺  
(第二十二番)へ六里。村里  
も相応にあれ共、往来少な  
きゆゑ宿茶やいたつ至て不  
自由也、仍て近頃は京より  
穴太、よし峰、惣持寺と逆  
二打ツ人多し」、「逆打穴太  
より善峰へ四里半。此道甚  
あしく宿茶や不自由也、夕  
方早く泊まるべし」とある。  
山上にある七基の道標中、

五基は「あなう」を指し、  
逆打が盛んだったのを示す。  
山頂にはまた、山中鹿介  
ゆかりの石灯籠が寄進され  
ている。参道にずらりと並  
ぶ四角型石灯籠は、いずれ  
も「奉寄進水代常夜燈 撰  
州大坂住人 山中氏之宗  
同氏宗利」と連記したもの  
が多い。山中親子の愛宕献  
塔は延宝七年(1679)  
から、宝永四年(1707)  
まで、二十八年間に五十五  
基を数える。  
山頂の愛宕神社を参詣し、  
下りは左(北)の首無地藏  
コースをとる。  
寛政三年(1791)の  
「西国順礼細見記」に「寺  
の上石段中ほどに左りあな  
うしへの道」とあり、丹波  
からの参詣道である。辻に  
道標が二基。一基は「元禄

三庚午年(1690)六月  
廿四日」建立で左面に「南  
無愛宕大権現施主敬白」、  
正面に「是より丹波あなう  
へのみち阿里/是より里巻町  
ほと行右へ月の王/みちあ  
りく二きよたきへ出る/是  
より二町ほと行右の方へた  
かお道あり」。明和五年  
(1768)銘のもう一基  
は「右 月輪寺是從十三丁  
寺より清滝へ下二十五丁」  
とある。元禄時代から逆打  
の巡礼があったことを示す。  
首無地藏への分岐点「地  
蔵の辻」に二体の地藏尊が  
ある。左の地藏道標の光背  
部には「左あなう道/右た  
かお道」。

る。ほどなく神明峠。右の  
道をとりに愛宕谷川に入る。  
途中に二つ池がある。「細  
見記」に「あたこより亀山  
へ二里半」「ほうず(保  
津)の池、次にほうず村、  
宿二軒有、川有舟たし」  
と記す。  
山峽を抜け、保津町に入  
ると国分、出雲へ分かれる  
辻。大正四年(1915)  
の道標「左いづも右あたこ  
道」「道中大全」は「保津  
村茶屋あり保津川舟渡、次  
に亀山安町同川原町宿茶屋  
あり」。曾我川が大堰川と  
合流する地点のやや上流に  
渡しがあり、右岸の安町  
(亀岡市安町)、左岸の川原  
町(同市河原町)に巡礼宿  
があった。翌朝巡礼たちは  
穴太寺や善峰寺へ出発した。

森の癒し  
鷺見 守康  
いつからか、森を歩き、  
山に登りながら心に積み重  
ねてきた想いがある。  
森を歩けば、心は清々し  
さとゆつたりとした落ち着  
きに包まれ、山の頂では幸  
福感に満たされる。そうし  
た、いわば自然のなかでの  
「癒し」は、森や山を歩け  
ば事欠かない。  
定年退職する前の職場に  
おいて、仕事や人間関係に  
疲れてか、次々と心を病む  
若い人たちを見て、現代人  
には自然の「癒し」が必要  
ではないかと漠然と考えて  
いた。

「癒し」は、私たちの五感  
に働きかけてくる。  
たとえば、ブナの森の湧  
き水はまるやかな風味でか  
すかな甘味さえ感じること  
がある。ミネラルも豊富な  
ので、私は同行者には飲用  
を勧めている。  
早春、フキノトウを味わ  
えば春の息吹が感じられ、  
気分も安らぐ。  
樹々をなでるような風の  
ざわめき、野鳥のさえずり  
や絶え間なく続くせせらぎ  
の流れ、それらが奏でる森  
の音を耳にすれば心が鎮め  
られ、遅良く、クマタカの  
飛翔にでも出会えば、森  
の空気が一変するような感  
動に満たされる。  
そして、クスノキ科やモ  
クレン科樹木の枝や花のか  
ぐわしき匂い、溪谷に立ち



新ハイキング社の書籍

最新刊 **高木文一 初登攀の軌跡** 岡部紀正 著

四六判・184頁/定価1890円 われ、谷川岳にアルピニズムの足跡を見ゆ  
 専修医大出身アルピニストの谷川岳・一ノ倉沢奥登初登攀など輝かしい業績を、山岳  
 部後輩の著者が熱情溢れる筆致で評述。

第29巻 **日本300名山スケッチ登頂** 深谷健雄 画・文

B5判206頁/定価2200円 スケッチ山旅の画文集  
 50年をかけて達成した、日本300名山のスケッチ集。800葉のスケッチに丁寧な説明文  
 を添えるとともに、300山を簡潔に紹介。

第28巻 **バリエーションルートを楽しむ** 松浦隆康 著

A5判304頁/定価1680円 花・巨巖・滝・眺望など魅力の100コース  
 好評の「静かなる尾根歩き」著者による第2弾。奥多摩・奥武蔵/高尾山・箱山付近/  
 丹沢・箱根/湯志・御坂/大菩薩付近など全100コースに略図付き。

第27巻 **房総のやまあるき** 内田栄一 著

A5判261頁/定価1838円 あなたの知らない千葉県南部の58コース  
 「えっ！千葉県に山があるんですか？」そんなあなたに、とっておきの房総のやまあるき  
 をご紹介。標高ではうかがい知れない奥深い房総の山へのガイド。

第26巻 **静かなる尾根歩き** 松浦隆康 著

A5判268頁/定価1680円 奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース  
 今までむずかしいと思っていたコースへの道を聞くガイド書。コースにグレード区分  
 をつけ、最新の踏査にもとづき全て分かりやすい略図入りガイド。

第24巻 **山岳巡礼** 佐藤光雄 著

B6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集  
 春の雄嶺、夏の大雪山、秋の奥岳北方後編、冬の御嶽、ひとり拓く山の世界。  
 本格的に山に取り組む人への良き案内書。

第23巻 **多摩100山** 守屋龍男 著

B6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び組みあげた50コース  
 多摩丘陵の低山から東京都の最高峰雲取山までを50コースにまとめて紹介。  
 略図や写真も豊富に入ってわかりやすいガイド書。多摩246山の資料付き。

●本誌添付の郵込用紙での  
 ご注文は、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

込めるカツラ、森内にただ  
 ようオオシラビソの香りな  
 ど、森には心を和ませる香  
 りがある。

また、サネカズラの葉の  
 えもいわれぬしっとり感、  
 ヤブムラサキシキブの葉の  
 うっとりするようなビロー  
 ド感、太平洋側のブナ林で  
 独特な木肌を見せるヒメシ  
 ャラの木肌のひんやり感な  
 ど、森には緊張をほぐす感  
 触がある。

さらに、ブナ林に代表さ  
 れる原生林の森間として厳  
 肅な空気と森の透明感、夏  
 の日本アルプスの稜線から  
 望む山岳の輝きや雪山の  
 神々しさなど、目に焼きつ  
 く自然の美しい風景がある。

私たち人間は、これらの  
 山岳や森の力を五感でとら  
 え、それがそのまま「癒し」

の効果をもたらせてくれる。  
 人類の誕生から随分長い  
 歴史の中で、人間は自然の  
 なかで暮らしてきた。現代  
 では都市を中心に生活する  
 人々が増えているが、気づ  
 かぬままさまざまなストレ  
 スを抱え込んでいっている  
 ないだろうか。自然のなか  
 で生きてきた人間にとって、  
 森や山を歩くということは、  
 優しい環境の中に身を置く  
 ということにはかならない  
 し、人間本来の生活に戻る  
 ことなのかもしれない。

そんな想いがいつの間に  
 か、胸の奥深くに宿ってい  
 た。

2006年の7月、長野  
 県信濃町を訪れて道の駅に  
 立ち寄った時、「森林セラ  
 ビー基地」のチラシを目に

して興味を抱いた。  
 「森林セラピー」、私が初  
 めて耳にする言葉だった。

1982年に「森林浴」  
 が提唱されて以来、植物が  
 発する揮発性物質（ファイト  
 ンチッド）が身体に良いと  
 か、森の自然や緑が私たち  
 人間をリラックスさせるこ  
 とが知られてきた。

けれど、効果については  
 感覚的に語られてきたにす  
 ぎない。この「森林浴」の  
 効果を科学的に解明し、こ  
 ころと身体の健康に活かそ  
 うという試みが「森林セラ  
 ビー」ということのようにだ。

林野庁の音頭で、200  
 4年に「森林セラピー研究  
 会」が発足。産・官・学が  
 連携して発足したこの研究  
 会は、森林のもつ「癒し」  
 効果の科学的解明や活用方

法等に関する研究を進めて  
 いる。そして、研究の成果  
 を踏まえ、具体的に森林で  
 の実践を普及することを目  
 的として創設された「森林  
 セラピー実行委員会」は実  
 験等により、効果の検証等  
 がなされた森を「森林セラ  
 ビー基地」「森林セラピー  
 ロード」として認定してい  
 るという。2006年度に  
 最初の十地域が「森林セラ  
 ビー基地」や「森林セラピ  
 ーロード」に認定されたが、  
 そのうちの六つがセラピー  
 基地で、信濃町はその一つ  
 であった。

私たち人間にとつての自  
 然の「癒し」というもの  
 も関心をもって、森や山を  
 歩いていきたいと思ってい  
 る。



一度は歩いてみたい花の宝庫

# 加賀禪定道から中宮道

中島 隆

白山

一里野の民宿に前夜泊、下山後にも泊まる余裕の予定で送迎を頼む。加賀禪定道から白山に登り、中宮道をくだるには2泊3日の行程、避難小屋2泊で初日のコースに水場は無く、食料は7食。万一、避難小屋が満員ならとツエルトも持っていく。

7月30日

JR宝塚駅に9時20分集合し、参加5人が一路北陸道へ。福井インターで高速道を降り、国道157号線へ。美山町「天狗そば」でポリウム満点のそば三昧で腹を満たし、大野から谷峠

を越えて白山一里野へ。予約した一里野民宿「花くるみ」はすぐ見つかった。時間も早いので岩間温泉元湯へ行くことにする。ほんとうなら岩間の噴泉塔群まで行きたいが、さらに小1時間かかるので元湯入浴のみで我慢する。

ぐらいの広さ、脱衣場も無く野趣満点だ。あたりは山中の冷気に包まれ気分も満点。帰りは汗ばむこともなく爽やかな山の空気を満喫しながら、林道をくだって新岩間温泉駐車場に着き、18時前には一里野民宿に帰り着いた。

7月31日

6時40分に宿を出る。往き帰りの登山口送迎を条件での予約なので、林道途中までお女将さんに送ってもらう。

本日の行程に水場が無いので2リ補給し、合計4リとなり、家を出るときザック重量は19リであったので2リ



奥長倉避難小屋前にて



マイカーは新岩間温泉まで(車止め鎖があり)、ここから林道を3.4程歩く。林道沿いにはオオバギボウシが多く咲いている。中ノ川を見下ろし、崖崩れ跡を覗きながら歩く。源泉は橋を渡ったすぐ左側にあったのに、先の方の湯けむりに誘われて上に行き過ぎ、おかしいと気づいて引き返し、大きな岩に囲まれた広い露天温泉を見つける。岩に囲まれた露天風呂は小さなプール

【加賀禪定道】加賀禪定道(白山比咩神社)は石川県石川郡鶴岡村にあります。祭神は白山比咩大神(伊弉諾大神・伊弉册大神)です。現在の位置は鶴岡三宮(旧三宮社)にありますが、15世紀末までは手取川の安久湯ヶ淵に鎮む北陸鉄道加賀一宮駅付近にありましたが、安久湯ヶ淵は兼平大將が貴女から白山へ娶るお告げを受けた場所に移されています。平安時代には本宮(本宮・金剛宮・三宮)を合わせ白山下七社と称し、当時の加賀の国主を祀るために佐屋宮の御霊を担ぎ京都まで送迎するなど勢力が増大しました。しかし戦国時代の一向一揆により堂舎が焼き払われ、大きな打撃を受けました。江戸時代には加賀藩の保護を受けることになりましたが、白山をめぐる争いが起り(白山争い・豊後町に白山比咩神社が勧請されたことになり、加賀藩領としての存立基盤を一旦失った)、しかし、明治になり神仏分離令が出されると白山山頂においても仏教色が排除され、同時に山頂部の支配権も変化していきます。早稲寺社(後で白山山頂部や旧天候(江戸幕府御蔵前)の「白山御18か村」は明治5年(1872年)、石川県の所屬となり、翌年白山山頂の三社や堂の所屬と整理が早稲寺に替わって、比咩神社にまかせられました。第二次世界大戦後には、白山山頂部は白山比咩神社の社有地となり現在にいたっています(石川県白山比咩神社管理センター)【白山比咩神社】



になる。最近13、以上は担いだことがなく、これからの登りが思いやられる。しばらく林道を上がり、スキー場ゲレンデ上のリフトに向かうが、途中まで行って間違いに気づいて引き返し、また、林道を登る。小雨模様になってきた。

林道分岐を左に上がって行くと、ゴンドラ頂上駅が見えてきた。ゴンドラ始発は9時30分だから、ゴンドラが上がってくるよりは20分早く頂上駅に着いたのだが。ここまで重いザックを担いで登るよりゴンドラに乗って楽したほうが正解だと思った。駅前の展望台に上がると、日本海が見えた。

ここ、ゴンドラ終点から始まる加賀禪定道は加賀新道ともいわれ、もう一つには岩間温泉へ向かう主要地方道、岩間一里野線の途中のハライ谷口から取り付く、新宮参道コースがある。

今回はゴンドラ終点からのコースを進む。ここから「加賀禪定道」の標識が立っている。小雨もやみ、樹林の道は涼しく、ユズリハ・オオカメノキ・

ミズナラが目立つ。足元はゴゼンタチバナ・マイズルソウ・チゴユリなど見

るが、すでに花期は終わっていた。ブナ林のなかで小休止、風が涼しく心地よい。楡の太木が見られるようになると楡倉(1214)で、大人ひとりでは抱え切れないくらい大きな楡が立ち並んでいる。登りが続きザックが重くて辛い。皆に遅れて、先行の4人が休んでいた「しかり場分岐」(1549)に着く。

しかり場は「しかりば(ほ)る」からきており、女人禁制の白山で酒を売ろうとして美女を従えて登ってきた老女が神の怒りに触れ、地が裂けて深い谷となり、老女は石になってしまったとされる伝説がある。ここからは白山山頂部が望め、地形的に見ると「伏拝」の場所であったと考えられる。

少しでも私の荷物を軽くするため、ここで2リットルの水を使つての早目の昼食にする。疲れると水分を多くとらないと食べ物や咽に通りにくい。初日の登りで早や疲れ気味、明日からの行程の

時間がかかり、フィルム80本使いました」と言う。80本ものフィルム数には驚いた。

夕暮れが迫ってくると、雲海の北東のかたなに筑ヶ岳、大笠山、シリタカ山、冬瓜山などが白雲の上に黒い姿で浮かんでくる。沈む太陽が黄金色に輝き、手前の雲海を染めてゆくのを眺める。山のご馳走である。

闇が迫ると金沢の街の灯か、きらきら輝いている。見上げると満天の星、久し振りに見る天の川がすばらしい。北極星、北斗七星、カシオペア、天の川と……、首が痛くなるほど。都会ではこんなきれいな星空は見ることがないのでいつまでも見飽きない。三日月もいつの間にか見えないなくなっていた。

東京の彼からすばらしいお花畑の話聞き、明日を楽しみにシユラフに入る。

8月1日

ぐっすり休み前日の疲れもとれ、気

長さを考えると気が重い。ここ分岐点からほぼ南北に続く尾根を行けば長倉山(口長倉1661)だ。時間は早いのでゆつくりと歩くが、奥長倉避難小屋に14時10分到着した。

奥長倉山を越えた下に水場があると奥長倉山を越えた下で、元気な女性ふの情報を得ていたので、濡れていて無かったそうだ。

15時30分頃から早目の夕食にとりかかる。時間はゆつくり流れ、誰も来ないので二階建の小屋は広く使えそうだが、あとから来る人のために全員二階に上がると、板間に畳が立てかけてある。畳を敷いて各自の寝場所を確保していつでも休めるようにし、外に出て景色を眺めることにした。

単独行の年輩の男性が上からくだつて来られ、「こんにちは、お邪魔します」と、こちらもあいさつして「階下を使つてください」と勧める。彼は、「東京から白山の花の写真を撮りに、今朝、室堂から来ましたが、花が余りにもすばらしいので次から次と写して

分爽快。4時起床。外は風も無く好天らしい。薄明かりの外に出て日の出を待つ。夜中じゅう、風が無かったのか薬っぱには露がいつぱい。昨晩の夕日に今朝の日の出、好天に恵まれて美しい黄金色の太陽を拝んだ。

東京の彼も三脚を立てて写している。朝食を済まし出発の準備。本日の登り道は露がいつぱい、雨具を着けて出発する。彼に「お先に」と言つて5時30分に出かける。

クマザサの道に朝露がいつぱい溜まつている。奥長倉山(1771)に着き、山名板の無い山頂からいつたんだ。杖で露を払いながらトツプを行くが、ササも胸辺りまであり、たちまち全身びしょ濡れ。これが「露払い」か。幅の広いササの葉に大きな水玉がころころ、露を集め、口を付けて咽を潤す。けっこういける。

前方に「美女(岩)坂」の急坂が迫る。前述の「しかりばる」の伝説で老女がつれてきた美女が石にされ「美女岩」となった場所で、それらしい岩が

途中にある。この狭い尾根の坂を登れば美女坂の頭(1968)に着いた。

ここからは白山溶岩台地の広がる緩斜面となり、木も少なくなりササの草原になり、待望の花々がいつぱい咲いている。視界も広がり、向こうに四塚山の長坂尾根が立ちほだかる。左手の谷を挟んで対岸には薬々新道から清浄ヶ原のゆるやかな尾根が見え、遠く下界も見渡せ、別天地を歩く思いだ。

足下にはニツコウキスゲ・ハクサンチドリ・クロユリ・ハクサンコザクラ・チングルマなどの花が足の踏み場もないくらい。花を避けながら歩き、写真を撮つては皆の後を追う。対岸の清浄ヶ原から流れ落ちる百四丈ノ滝の展望所に寄つて小休止する。

ハイマツの道もあり、ハクサンコザクラが見事で、クロユリも群生している。今だにしっかりと石垣が残る「天池室跡」を過ぎると、天池に8時35分着。池の水を沸かし、水を補給して、ティータムとする。

朝露が体を伝い靴の中に入り、びし





ハクサンゴザクラ

よ濡れの靴下を替え、濡れたものを干し、ゆっくり休んで天上の極楽気分を味わう。

この先は尾根の東側を控くように進む。所どころに雪渓が残り、ひんやりした空気に気分爽快になる。ハイマツの間を歩き、またお花畑があり、クル

マユリ・ハクサンイチゲ・キヌガサソウも咲いている。普段見慣れない景色に酔いしれる。

油池(2090m)からは、長坂といわれる長い登り坂となり、四塚山の向こうに本日の最高点大汝峰が見える。ひたすら長坂を登り、四塚山(2530m)に12時35分たどり着く。平坦な場所は「竜ヶ馬場」と呼ばれ、仙人が竜馬を調教した場所とされた所。

ここで昼食にする。前に大きな石塚があり、塚は小さいもので数えると六つもあった。この塚は寛の尾添集落で悪さをして四匹の猫を奉養大師の弟子浄定行者が封じ込めた場所とされている。猫は後に助けられ、龍の「猫ヶ島」、現在の一里野スキー場あたりにも棲みついたとされている。

少しくだると岩間道と釈迦新道の七倉山分岐となる。雪渓が残り、クルマユリが咲く大汝峰への斜面を下りて「お手水鉢」に。きれいな水ではなかったが、念のためタンクに入れる。ここから見る地獄尾根は赤茶けた急峻な

斜面を見せている。

最高点大汝峰へはハイマツの急斜面の登りになる。杖を掻き分けながら歩き。山頂(2684m)へ14時15分に着いた。大汝神社は石垣に囲まれて半地下にあり、信者さんが清掃に来ていた。きょう、ここまでに出会った人は四塚山でのふたり連れ(室堂から足をはして引き返す人)だけだった。

大汝峰から岩割だらけの道をくだり、北縦走路分岐に下り立ち、北東に向きを変え、このあたりで室堂から尾をのばして来た登山者が8人程いた。ここからはジグザグの道をくだり、ヒルバオ雪渓に出る。

雪渓は幅500mほどだろうか、お花松原の標識まで一直線に横切っていく。雪渓の上は空気もひんやりして涼しく、岩だらけの道と違って歩きやすい。お花松原の手前で左手からきれいな水が大量に流れているのを見つけて、先ほど「お手水鉢」で汲んだ水を捨てて入れ替え、水不足の体にコップ四杯も飲む。雪解け水は冷たくてうまい。

二階に上がり、暗くなるのですぐに夕食を済まし、休むことにする。ひと寝入りした頃、階下が騒々しい。時計を見ると21時。何か言ひ合いをしている。どうやら今頃小屋に着いてガサゴンと夕食をしているらしい、困った人もいるものだ。

朝起きると、階下の話しが聞こえる。「昨晚はすまなんだ」とひとりが謝っている。

8月2日

我々の本日の予定は中宮温泉までだからゆっくりしてノンビリ起きる。階下の彼らはすでに出かけたらしい。

50m程先の水場で洗顔し、水を補給する。きょうも良い天気だ。小屋前で記念撮影し、7時に出発する。

カエテ坂をくだり、途中で白山剣ヶ峰・大汝峰、先日歩いた長大な尾根が見る場所で、女性たちのために1時間程のスケッチタイムをとる。

谷を隔てた岩間新道尾根に隠れ、加賀樺定道は一部しか見えない。本日は

シャツを脱ぎ二日間の汗を拭う。いくらでもある水のありがたさを実感する(同行の友が翌年同じ時間に歩いたが水は流れていなかった)。これからゴマ平避難小屋まで水場は無い。

お花松原を過ぎ、北縦走路の登りになり、2349mの稜線に立つ。ここ



北弥陀ヶ原付近に行く(後方は三方崩山)

からはハイマツ帯の稜線で、道幅も1m以上あり、山の国道だ。続く北弥陀ヶ原はまたしてもお花畑の連続で、次から次と花の群生が現れ、写真も撮り飽きるほどだ。池塘もあり、その周りも花がいっぱい、ナナカマドの白い花も咲いている。さぞかし秋の紅葉も見事だろうと思いが、お花畑の連続で皆さん感激しっぱなしであった。けれども本日宿泊予定のゴマ平避難小屋はまだ遠い、左手に名の通り三方崩山の大きく崩れた赤茶けた南斜面が見えてくると、間名古ノ頭も近くなり、西斜面を捲いて三俣時に着いた。ここからもう少し登り返していよいよゴマ平避難小屋への下りになる。19時を過ぎると林のなかは薄暗くなり、ヘッドランプを用意するが、見えないこともない。薄明かりのなか、ゴマ平避難小屋に到着し、長い14時間の行程が終わった。

小屋が込んでいないか心配だったが、先客はひとりだけ。あいさつするも、返事がない。愛想のない人だ。我々は



急がなくてもよいのでノンビリ歩ける。イチイ坂にも大きなブナが多く、落ち葉が足に優しい。シナノキ平遊難小屋前でまたもティータイム。

トチノキ坂にかかり、右手に湯谷頭丸の山頂を見ながら、昼食場所を探す。適当な所がなく、誰も通らない道端でとった。

くだるほどに大汝峰や間名古ノ頭から遠ざかり、谷を隔ててゴンドラ駅や岩間温泉元湯が見えてきて、今回の山歩きも終わりに近づき、最後の清浄坂の急な下りになる。高度が下がるにつれ、草いきれと蒸し暑さが増してきて汗が噴き出す。やはり夏山は2000以上に上だと感じる。中宮温泉背後の山崩れ防止工事のモノレールが出てくる。登山道の中に設置されているので何回も跨いで湯谷の中宮道登山口へ下り着いた。

山旅終了の記念撮影後、中宮温泉「にしやま旅館」に着くと、玄関に「温泉入浴出来ませう」の案内がある。ここで4日目の岩間温泉元湯以来の

温泉で汗を流してサッパリする。御主人から囲炉裏端の部屋を勧められ、熊の毛皮の敷物に坐り、皆さんで山旅無事終了をビールで乾杯した。

当初この旅館にて宿泊し、送迎してもらおうとパソコンで調べたが、人気旅館であり、その時点ですでに満員だった。御主人は「当館も登山客を市ノ瀬登山口まで送ったこともありませう。また、下山口への迎えもします」とのことだった。

今夜宿泊する一里野の民宿「花くるみ」に電話で迎えを頼んでから、旅館の玄関に出ると、カモシカが対岸にいると従業員が教えてくれた。親子連れ三頭がいたが、親が一番先に木陰に逃げ、子ジカは我々を見てから、親がいなのに気づいて姿を消した。

中宮温泉駐車場に着くと、民宿の主人が迎えに来てくれていた。

（平成15年7月31日、8月2日歩く）  
△コースタイム▽  
（7月31日）一里野民宿（1時間35分）

ゴンドラ頂上駅（2時間30分）しかり場分岐（1時間40分）奥長倉遊難小屋（泊）

（8月1日）奥長倉遊難小屋（35分）

美女坂の頭（25分）百四丈ノ滝展望台

（40分）天池（2時間30分）四塚山

（1時間40分）大汝峰（1時間30分）

お花松原（1時間）北弥陀ヶ原（2時間20分）

ゴマ平遊難小屋（泊）

（8月2日）ゴマ平遊難小屋（2時間20分）

シナノキ平遊難小屋（3時間）

中宮温泉

△地形図▽

2万5千市原・白峰・白山・岩間温泉・中宮温泉

（問い合わせ先）

一里野温泉民宿「花くるみ」（当時内湯は温泉ではなかったが、現在は温泉が引いてある）

☎076（256）7531

中宮温泉「にしやま旅館」

☎0120（86）7219

## 紀行

大橋からはまっすぐ東に堂満岳西尾根を登る

奥ノ深谷右岸岨道から堂満岳

比良

## 小山 誠次

本誌93号「シヤクシコバの頭西南尾根登高」で、明王谷林道を経て古道を登高途中、昭和59年設置の道標が立っていることを報告した。その四つの標示の内一つは、「大モミを経て大橋小屋約1時間30分」とあり、確かに奥ノ深谷右岸に沿う山腹のトラバース道が存在することも確認した。

そこで、今回の山行では、この岨道をたどって大橋に到り、そこから直ちに堂満岳西尾根を経て、堂満岳を直登する予定である。

平成20年7月12日の前日の滋賀県北部の天気予報では、北西の風、晴れ時々曇りで、18時からの降水確率は

20/20/10/20/10%である。当日朝の同地域の降水確率は、午前10%・午後20%と変わらず、最高気温は31℃と

のことだが、所により曇過ぎから雷が鳴ると嫌な予報もある。まだ梅雨は明けていないが、少なくとも降雨の心配はないようだ。

当日朝、目を覚ますと、まず朝焼けが気になったが、東の空だけなので問題ないようだ。京阪終点出町柳駅で降りようと立ち上がると、元新ハイ会員のKTさんと顔を合わせた。どうもKTさんも単独行で比良へ行くらしい。

朽木学校行きの京都バスは、立っている人も押し合うほどの込みようで、定刻の7時45分に発車した。筆者は右側の席についたが、左の高野川べりの様子は全く見えない。発車後間もなく「いったん高野車庫に入る」と放送があった。ここで立ち席の人を、増便のバスに移動させるらしい。

以前は出町柳で整理の職員が立っていて、予め増便の手配をしてくれていた。筆者はこの眼鏡を掛けた体格のいい職員と馴染みになり、顔を合わすとよく声を掛け合っていた。彼も山好きで、時々宿泊山行に行っているようだ





が形成されているからである(写真2)。このロープが張ってあるおかげで、不安定ながら短時間で通過できた。しか



(写真2) 奥ノ深谷まで落ち込む滑り台状の谷

し、危険箇所はここだけではない。以後も三ヶ所で同様な崩壊と共にロープが張つてある。降雨の日にはとても通行できない。緊張のなか、木々に遮蔽されながらも、白滝山の平坦な頂上が近くに見えるのは一服の清涼剤である。一方、先の崩壊箇所と差しかかったあたりからは、右下方の深い谷から十九ノ滝の瀑音が、轟々とまさに水が岩に激突する音が四方に響いている。こ

の轟音と、はなはだ不安定な組道と、足を踏み外したときの谷底までの滑落を思えば、危険な箇所への踏み出しは多少勇氣が要る。従つて、一步一步慎重に選んだ。おまけに最後の難関では、虎ロープの抛り合わせの三本のうち、二本が切れたままになっている。まさに冷や汗ものであった。

10時44分、ようやく危険地帯を脱し、左上方は杉の植林帯に変わり、尾根への傾斜も少しゆるやかな地点にやつて来た。ここは奥ノ深谷自体が大きく南に湾曲している箇所である。ここから尾根に登れば、「シヤクシコバの頭西南尾根登高」で、「標高10300に達した。ここで支尾根が合流している」と報告した支尾根にたどり着くと判断した。標高7000である。

これからは道幅も少し広くなって、人跡稀な山道という表現が相応しくなってきた。険路から難路に変わった。角會太郎著「比良連嶺」(昭和16年再版)には、「この道はいま大部分廃道になってゐるが、江若鉄道敷設時代

つたが、どうも今年になってから整理係は廃止になったようで、別の部署にでも移動したのであろう。

比叡山頂はわずかに霞んでいる。家々では、アジサイ・ヒメオウギズイセン・フヨウが色彩を添えている。大原では25℃で、シバ漬の原料となるシソがよく茂っている。山間に入るとネムノキの花が真っ盛りである。

8時55分、坊村に到着した。定時より10分遅い。筆者は何はともあれ取付点までと、明王谷林道へ出発した。ここを通るのは今年初めてである。今の時期はやはり海岸(陰暦6月)に相應しく、午前中からすでに薄い。そのうえ無風である。摺鉢山を眺望する所にやつて来たので、写真を撮っている。後ろからKTさんが追いついてきた。聞けば、白滝谷道を登る予定とのこと。筆者も予定のルートを話し、無事に堂満岳に立ちたいと伝えた。

りと準備を整え、9時45分、馴染みになった古道を一年二ヶ月振りに登り始めた。その時は京都北山グループの会目を案内して、シヤクシコバの頭西南尾根に登高したのだった。

山小屋シラクラヒュツツエ、熊捕獲檻は以前と不変で、9時52分に最初のピークに達した。今回初めて気づいたが、アスナロがよく目立っている。さらに4分後には二番目のピークを経て、10時4分に三番目のピークに達した。1分後には、昭和59年設置の道標に到達した。標高6000である。

本誌93号での山行(平成18年5月6日)後、先の京都北山グループでの案内の下見(平成19年4月20日)では、この道標の「明王谷林道を経て坊村約1時間30分」との標示が赤テープで覆われてしまっていたが、本日も覆われたままである(写真1)。その意図がよくわからない。

10時14分、奥ノ深谷右岸山腹の組道をたどることになる。組道はけつして安全というわけではないが、時々赤べ



(写真1) 昭和59年設置の道標

ンキで逆方向の矢印が岩などに描かれている。間もなく最初のロープの設置箇所をやつて来た。やはり、奥ノ深谷に落ち込む支谷が組道を部分的だが崩壊させている。

しかし、二番目のロープ設置箇所では完全に崩壊していて、もしロープが無ければ、時間をかけて足場をつくつてからでないと、通行できないだろう。右下方は奥ノ深谷まで直線的な滑り台





(写真3) 堂満岳西尾根取付点

良峠よりふたり連れの登山者がやって来て、二言、三言声を交わした。改めて、シヤクナゲのやぶの艱難辛苦を思いだしていた。

さて、13時3分、予定通りに磁北96度方向へさらに足を向ける。しかし、その方向は約20分程の間、縦走路が南北良峠に向かうルートと一致する。縦走路はその後、直角に南に向くが、筆

に枕木を製造運搬した檜道で、処々昔のままに広くて平坦な道が残っており、枕木製造小屋の跡もある」と記載される。そこで、炭焼き窯跡や少し広い平坦地の恐らく枕木製造小屋跡を観察しながら、奥ノ深谷への少し大きい支谷を二つ横切った所で、11時21分、牛コバから摺鉢山裾野をへつりながら通行する道と合流した。

ところが、最後の支谷を横切るあたりで、大橋からくたつてくる登山者のために、「危険立入禁止」の看板が立っている。確かに、今筆者がたどってきたルートはこの看板通りである。しかしながら、その目的のためであれば昭和59年設置の道標で、「明王谷林道を経て坊村約1時間30分」は赤テープで隠す必要はなく、むしろ「大モミを経て大橋小屋約1時間30分」のほうを覆ってしまうべきであろう。

さて、奥ノ深谷道に出合ってから6分後に小川新道出合を過ぎ、4分後に大橋を渡ってスリバチの水を右り難く頂戴した。溽暑による熱中症対策と

して、2時のスポーツ飲料を持参してきたが、ここで1リ補給し、粉末タイプのスポーツ飲料を加えて飲用とした。

ここからは南北良峠からの支流を渡り、奥ノ深谷本流に沿う道の基点で、磁北96度方向に尾根を登高すべく取り付いた(写真3)。取り付くとすぐにシヤクナゲのやぶが絡まり、身動きがとれないほどの斜面上をたどることになった。こんなにもシヤクナゲが密生しているとは思わなかったが、いったん予定コースに組み込んだので、物理的に不可能でない限りは突き進みたい。

とにかく格闘である。この堂満岳西尾根は地形図で表現されているよりもやせ尾根で、通過する場所が限定される。長袖シャツは持参しているが、こんなにも枝が絡んでいる所でザックを下ろして取り出すのも煩わしいので、そのまま突き進んだ。何ヶ所かの擦過創は多少やむをえなかった。着用している速乾性のTシャツもだいぶ汚れてきた。このあたりで、やや遠くから雷鳴が聞こえた。ただし、それ以上近づくと

者はここから堂満岳東レ新道を目指し、やはり96度方向に登り始める。ここからは、縦走路から堂満岳への近道としてよく利用されているルートである。

縦走路から外れて6分後、東レ新道出合に達した。今のルートも多少のやぶ漕ぎではあるが、先ほどのシヤクナゲの密林地帯と比べたら、「月と龍」である。その後は堂満岳西峰を経て、13時18分、堂満岳に到着した。先客がひとりいる。

全く炎天下そのもので、琵琶湖は霞んで見えないが、トンボが数え切れないくらい頂上付近を飛び廻っている。さて、昼食の続きをとる。カッブライメンは持参していないが、お握りと塩分の多い副食が主である。Tシャツもタオルも汗でボトボトだが、全くもって気持ちがいい。達成感も強い。

食べ終えた頃、先ほど縦走路で出会ったふたり連れの登山者がやって来た。再会のあいさつをしたものの、彼等は筆者が先着しているのを見て訝しく思っただ。彼等は縦走路から東レ新

ことはなかった。

斜面が少しゆるくなった所で、尾根上に大きな岩が鎮座している。小川新道のオニギリ岩位の大きさだ。やせ尾根上なので乗り越えるわけにもいかず、岩の縁伝いに廻り込まないと行けないが、このときはなほだ急斜面をへつることになった。このときだけは、シヤクナゲの根が張り巡らされているのを有り難く思った。標高850m。

その後、標高880mに達したとき、ふと振り返ると、枝の間から二等辺三角形の姿のいいシヤクシコバの頭が望見できた。その後にもう一つの岩と遭遇したが、何とか乗り越えて進んだ。後はゆるやかな尾根上で、シヤクナゲに絡まれないように回避しながら進んでいると、12時43分、突然に縦走路に飛び出した(写真4)。ここで標高960mである。

昼食は堂満岳頂上でとろうと考えていたが、いくぶん空腹を覚えたので、縦走路の傍らでお握りと茹で卵を一つずつ食べることにした。食事中、南北道分岐を経てここまでやって来たのだが、近道があることを話しておいた。

さて、後は下山するのみである。彼等が先行していたが、頂上直下で先を譲ってもらい、久々に堂満東稜道をくだった。途中の広場で休憩していた10人程のグループも追い越した。標高830m付近で、断崖の上から深谷を挟んでの眺望を楽しんだのち、なおもくだる。しかし、本当に風が無い、と思っっていると、わずかに風が吹き通る場所まで3人が休んでいる。二言、三言交わしてノタノホリまでくだり、飲水休憩とした。

ここからはもう特別なこともなく、石塊の多い下山路で転倒しないようにだけ努めて、18分後にアスファルト道に到着した。周囲の民家では人の出入りがそこそこあるようだ。本日は桜のコバを通過せず、アスファルト道をそのまま南東にくだる。桜のコバを通るルートよりもわずかにこの道のほうが早い。

湖西道路をくぐって、湖西線に向け





(写真4) 縦走路出合

今回の山行は、昭和59年設置の道標から奥ノ深谷道出合までは大変危険であり、人に案内するつもりは全くないし、決してお勧めできる道でもない。また、大橋から縦走路に出合うまでのシヤクナゲとの格闘は、やぶ清ぎの好きな人だけにお勧めできるルートである。

最後に、本日の山行詩情を七言絶句に託して詠んだ。

無風薄暑傍崖行

滑谷崩岩若四轟

湧水冽清符微骨

石楠花數只多菊

(意)

風の無い薄暑の日に、崖に傍って行つた。深い谷からの瀑音の様が四方に轟くようだ。一方、湧き出たスリパチの水は冷たく清く、口にするると骨身に染み透らうとする程だ。その後のシヤクナゲの密生した藪は、只単に荆よりましというだけである。

(平成20年7月12日歩く)

△コースタイム▽  
 坊村バス停(29分) 伊藤新道出合(4分) 道標の立つ取付点(7分) 最初のピーク(4分) 二番目のピーク(8分) 三番目のピーク(1分) 昭和59年設置の道標(30分) シヤクシコバの頭西南尾根の支尾根末端端部・標高7000m(24分) 最初の大きい支谷(5分) 奥ノ深谷道出合(6分) 小川新道出合(4分) 大橋スリパチの水(1分) 堂満岳西尾根取付点(18分) 巨大岩・標高3500m(11分) シヤクシコバの頭眺望所・標高3880m(16分) 縦走路眺望所・標高3880m(16分) 東レ新道出合(7分) 堂満岳(18分) 眺望所・標高3300m(27分) ルート分岐点(16分) ノタノホリ(18分) アスファルト道(30分) J.R比良駅  
 △地形図・地図▽  
 2万5千1比良山  
 昭文社『比良山系』  
 角倉太郎『比良登山図』

紀行

中仙道トレイル② エコロジー一考

おおくて ぶかがやたて 大湫宿から深萱立場本陣(武並) たちなみ 東濃

国井文男

大湫コミニユテイセンターを出るとすぐに突き当たり、郵便局のある角を右へとると寺坂。その上り口の石碑に「大湫宿 是より十三峠」と彫ってある。大井宿まで十三の峠と七つの坂を越さなければならぬ。

中仙道を紹介するガイドブックには「大井宿からの道中は屈指の難所」と載っている。右手には立派な門構えの宗昌寺という禪寺がある。

上り切った左手には大田南畝(蜀山人)「壬戌紀行」の文学碑や寺坂の石碑群がある。しばらく歩を進めると右手に古い石碑があり、よく見ると「南無観世音菩薩」と彫ってある。





すぐ近くの石碑には「壬戌紀行」の「曲がりまがりて上り下り猶三、四町も上がる坂の名を問えば、しやれこ坂といふ。右の方に南無観世音菩薩といふ石碑を建つ。向こうに遠く見ゆる山はかの横長岳（恵那山）なり」とあるが、ここからは恵那山の展望はない。

【壬戌紀行】は享和二年（1802）、南畝自身が中仙道を經由して江戸に下った際の紀行文として詳しく書き残したものだ。中仙道の各所にはこのような石碑が残されている。

地蔵坂をくだり、県道を突き切ると両側が杉木立に囲まれ、当時の街道の雰囲気を残す石と土の地道となる。10月も半ばというのに、残暑を思わせる日差しも木立にさえぎられ涼しく感じる。大兄は大沢から先は未踏の地ということもあり、地図を片手に私が先導役を務めることにした。

右手には小さなお地蔵様が苔を伴って鎮座している。標識が立っており、「尻冷やし地蔵」とある。かつては十三峠の中でも貴重な水場として行き交



尻冷やし地蔵

に歩を進めることにする。しかしこのあたりで急に現実引き戻されてしまった。何と道の両サイドに広大なゴルフ場があり、道の中にロストボールが点々と転がっている。

ゴルフ場をつくるにあたり、どれだけの樹木が開発によって犠牲になったのだろうか。また、ゴルフボールの素材がゴムであれば、確実に世界のどこかの木が痛めつけられているのである。ましてや、物資豊富な日本ではロストボールなど拾う人はいない。人間が地球を痛めつける縮図がこの地にもある。自然を愛する者にとっては心が痛む。先ほどの「尻冷やし地蔵」でも山のう

う人々の咽を潤していたそう。その泉がお地蔵様の後ろから湧き出ており、まるでお尻を冷やしているように見えることから名付けられたとか。いまはまったく潤れており、若だけがかすかにその面影を残している。

道は山間の細い街道となり、ますます当時の雰囲気を感じだして。平日ということもありいままで行き交う人はまったくいなくなりましたが、前方から白の上下のトレーニングウェアを纏った青年がジョギングしながら近づいてくる。型通りあいさつを交わし去つてゆく。ロケーションにそぐわぬ光景ではあるが、昔に置き換えるならばさしずめ「飛脚さん」といったところか。

10分程行った左手に「阿波屋出茶屋跡」の碑が建てられている。その奥には石室があり、三十三体の観音様が納められている。碑には天保十一年の銘も刻まれている。通行人の道中安全と、十三峠で命を落とした人馬の供養のために建てられたそうである。大兄と共にこれからの道中安全を祈りながら先

を供給する木々はもう跡形もなく伐採され、恵みは得られそうにない。カー

トの通る道が中仙道を横切るなど（何をかいわんや）である。

しばらくすると、ふたりのご婦人がきのこと採りらしく籠を下げて歩いていく。「このあたりよく熊が出るそうですよ」「わかりました。注意して行きます」。これだけ自然を痛めつければ熊の食料の木の実も無い。熊も生きるのに大変だろう。人間と熊との間にいつしかあったテリトリーが崩れようとしているのだ。

してこの現実がいかに受け入れて、個人個人がどうするかが問題だ」と言うに違いないだろう。

15分程歩いただろうか、権現山一里塚がある。この一里塚は日本橋から数えると、九十番目だそうである。やはりここも道の両側にほぼ完全な姿で残っている。

気がつけば、朝食食べたきりで何も食べていない。この二日間はその経過などは気にしないことにしている。ただ単に空腹を感じたらそれを解消するだけだ。あたりは相変わらず静寂さを保っていてくれるし、残された木々や鳥のさえずりが食を進めてくれた。

ガイドブックによると、本日歩いている中仙道は武並までのほとんどが東海自然歩道とオーバーラップしており、あちこちで整備してある。道の双方にはゴミ箱が設置してあるが残念なことにごみが散乱しており、その存在を成していない。我々、山仲間ではごみは持ち帰りの鉄則がありその存在すら疑問に感じるが、一般的にはそのように

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店

**神戸ザック**

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのNEBザックです。

☆25/☆

- ・カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー
- ・材質 ナイロンレ・リップ
- ・価格 ¥10,500

イモック山道くらぶ

春夏秋冬、季節を気にせず、伊山・越山・名山を駆け抜け、お気軽に御参下下さい。

詳細はお問合せ下さい。

イモック山道くらぶ

IMOCK. KOBÉ

〒780-0200 神戸市東灘区日影町3丁目1番1号

TEL (078) 621-5851

FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00-20:00 神戸市東灘区





権現山一里塚

言っておられないらしい。

東海自然歩道の設立趣旨に「観光レクリエーションの啓蒙活動」とあるが、さらに「モラルの向上」をぜひ付け加えてほしいものである。とりあえずあたりの目に付くごみを拾い、そのゴミ箱に入れ、先を急ぐことにした。

道は「樫の木坂」といわれる石畳をくだっている。このあたりから(街道



ひな壇状の棚田が広がる

標識に従い左に歩を進めると、右手に入り込む道に車止めがしてあり、それを進む。右手には立派な東屋がある。これも文化庁が主管する東海自然歩道の予算でつくられたそうだ。左手には古い霊場巡拝碑が立っている。文字は古くて読みとれない。さらにお地蔵様

屈指の難所」といわれる急坂が行き交う人を苦しめる。

ここでも「壬戌紀行」に「炭焼きの立場を過ぎ俗に五郎坂といふ」とある五郎坂をゆるくくだる。江戸に向かう場合は長い距離をかけて徐々に高度を上げていくためか、下り道でもさほどきつさは感じない。やがて、集落があり、左手に炭焼立場跡の石碑がある。立場とは、江戸時代の五街道などに定められた休憩所で、ここで大名の駕籠をかついだ人が、杖を立て肩を替えた所である。難所といわれた峠の茶屋とか距離の長い宿場の間にあった。京に上るには急登が多いこのあたりには各所に比較的短い距離で設けてあったのもうなすける。

ほどなくすると左手に神社の鳥居があり、石碑には刈安神社と銘打っており、石段が上へのびている。また、東海自然歩道の標識には「権現山山頂」と記してある。権現山は標高592メートルで街道からは上り40分、下り30分程の行程である。資料によると刈安神社は

山頂に祀られている。権現とは仏・菩薩が衆生を救済するため、仮の姿をとって現れる神々のことで、「神仏習合の神」として古来より信仰を集めてきた。

権現山と称する山は各地にあり、地元のみで呼称されている山を含めればかなりの数になり、それぞれの地で崇められているという。今回の目的は山歩きではないので、次回この地を訪れることがあれば登ることにしよう。

この後、道はかなりの落差で高度を下げることになる。途中、「鞍骨坂」「権現坂」と呼ばれ、車も通るアスファルト道をひたすらくだる。この地区は集落が点々とあつて地域住民の重要な生活道路でもある。

やがて左手には大久後観音堂と弘法様の像があり、近くにトイレもある。さらに50メートル先に広場があり、駐車場になつていて東海自然歩道の案内板やベンチが設けられている。車を駐めて周辺を散策するには格好のポイントである。

説明文が詳しく書いてある。

雑木林に囲まれたうっそうとした道を進むとやがて左手に民家があり、二匹の犬が道を挟んで盛んにこちらに向かって吠えている。周りが静寂なだけに余計に響くのも無理はない。西坂をくだるとやがて深葎(現武並)の集落に入る。(平成19年10月12日歩く)

△コースタイム▽

- 大湫宿本陣跡・大湫コミニュティセンター (35分) 三十三体観音像 (35分)
- 権現山一里塚 (35分) 大久後駐車場 (30分) 深葎立場本陣 (武並)
- △地形図▽

2万5千11武並

△参考文献▽

- 『中仙道 風の旅 落合—京都編』(テレビ埼玉・群馬テレビ編集、さきたま出版会)

が赤い前掛けを纏って鎮座している。標識には「観音坂の馬頭様」とある。ここは観音坂を登り切った所で、その先は急に高度を下けている。道はますます下り一方、なるほど京へ向かうにはちよつときつい登りかもしれない。坂をくだり切ると右手には田圃が広がっており、それも山間地の落差を利用して棚田が広がっている。しばらくこの風景を見ていると、ある映画の1コマを思い出した。

それは、黒澤明監督の「夢」という映画で、監督自身の見た夢をオムニバスに描いた映画である。その中の第二話の「桃畑」で段飾りに乗ったかなりの数のお内裏さま様がカメラに向かつて手を振るシーンがある。

その段飾りがこのような棚田であった。のどかな空間にふたりはしばらくたたずみ、時を過ごした。

再びアスファルト道に合流し、地方道を突っ切ると、大きく「中山道」と彫られた石碑がある。また、右手には大きく中仙道のこの地域の街道略図と



## 山の情報

### 三角点病のかかりかた

# 船倉島にて

山形 明

能登半島先端輪島から北へ50、の海上に船倉島がある。周囲5、の島で、山は無い。三角点があるだけのこの平坦な台地から周囲を見廻しても海だけである。このような島に陸の僻地から、はるばる海を渡ってやって来たのである。

船倉島へは夏季には漁師が渡る。漁期の夏はこの島で暮らし、海が荒れ寒くなる頃に輪島に引き上げてくる。後には無人島になると聞いていたのだが、最近客船が定期便として就航していることが知った。

山頂のやぐらの上にある。おそらくよく見えるようにやぐらの上に設置したのではなからうか。

陶器製の三角点は、陣見山に続く稜線上にあり、愛宕山の三角点のように円形の陶器が四角い礫石の頭に埋め込まれているのだ。愛宕山のは円形の金属製であるが、この山のは陶器製であるためツヤツヤしてきれいで文字もはっきり読める。

戦時中、大量の金属製品が民間から没収された。集積場には寺の釣鐘や五右衛門風呂や茶釜など、あらゆる金属品が積み上げられているのをオレは見ている。当時小学生だったオレも学生服の金ボタンを全部持っていかれ、代わりにガラスのボタンを支給されたのだ。

もしこのような時期に三角点設置が行われたとすれば、「三角点に金属を使用するのはけしからん」と上司から言われた担当者が苦肉の策で陶器製を考えたのではなからうか。あるいは担当者の知り合いに陶芸家がいいて、それ

私は以前、三角点には全く関心がなかったのだが、山を歩いていて三角点の標石・御料局三角点・図根点・宮記号のあるもの、山記号のあるもの、陸軍標と掘り込んだものなど、さまざまな標石に出くわすことになる。

誰も訪れることのないやぶのなかで項として動かず、修行僧のごとく座り続けるこれらのものは、いったい何を意味するのであるのかと、疑問が湧いてくる。これらの意味がわかってくる、見てさわって確かめたい、という男本来の欲望がムクムクと湧いてくるのだ。わけても三角点地図を作り、順に塗りつぶして、三角点の写真を整理しているこの病気に犯されている友人の姿を見ていると、こちらもおかしくなってくる。インターネットで知り合った男女が遠距離恋愛に陥り、まだ見ぬ人(三角点)を想い、テレパシーを通わせてしまおうという危ない状態になってくるのだ。

三角点の前で真剣な目差で、何やらチェックをしている磯部さんの姿を見にやらせてみたかった、という担当者の気まぐれで決まったものなのか、想像するだけで興味は尽きない。三角点の設置基準というものはあるのだろうか。

新ハイキング社の「一等三角点の名山と秘境」の「日本全国一等三角点総覧」を見ると、この船倉島に一等三角点があるのだ。

まず島の中心にある灯台に行ってみよう。コンクリート塀で囲まれた敷地内を探し、灯台脇のコンクリート舗床に半分埋まった三角点を見つけたが、三等であり、標識も何もない。島の人に一等三角点のありか尋ねてみたが誰も知らない、このような小さな島に三角点があるはずがないと思いが、島にも、島にある幾つもの神社の境内と、高い岩礁の所をくまなく探したが見つからなかった。

滞在翌日から三日間、輪島の街が夏祭りになるので、この島は無人島になり、連絡船も止まるといわれて帰るこ

ていると、この人の病状もかなり重いのではないかと思えてくる。現役のプロボクサーに「あなたは何故人を殴るのですか」と質問した女性インタビュアーがいた。なぜ山に登るのか、なぜ人を愛するのか、なぜ部屋に花を生けるのか、というようなことには答えようがないのではないか。もし磯部さんに「あなたはなぜ三角点を訪ねるのですか」と問えば彼は怒りだすのではないだろうか。作家でもあるこの女性インタビュアーに「何故あなたは小説を書くのですか、どうせ作り話でしょう」と意地悪な質問をしてやりたい。

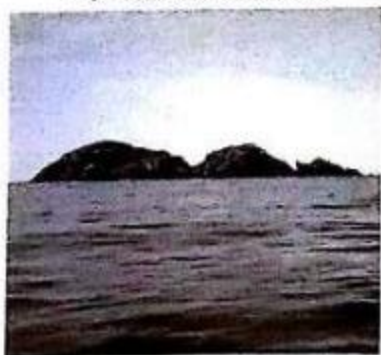
病気がかかったオレも熊谷市にある小さな山に二つの一等三角点があるのを見て、また陣見山に陶器製の三角点を発見した時には歓声を上げてしまった。

二つの三角点がある山は観音山で、2万5千円でもはつきりと△印が二つ並んでいる。一方は標高77・4mで地上にあり、他の一方は97・5mで

とにしたが、船倉島と輪島の中間地点に小さな岩礁の幾つかの島がひと塊になつてあり、その中の大島と御厨島にそれぞれ一等三角点があるのだ。

連絡船はこの島のすぐ横を通るのだが、この無人島へ行く船は無い。目の前を通り過ぎて行く大島を船のデッキからジッと見ているとライフジャケットを着て海へ飛び込めば何とかなるのではないかと考えていて、ハッと気がつき、危ないのである。オレの病気がとうとう自覚症状が出始めたようだ。

一等三角点のある大島を見る





三角点を訪ねて ⑤⑧

# 連載 上根来から小栗、百里ヶ岳

かみねごり おぐりひやくり だけ

## 若狭

磯部 純

小栗三角点



4月に「遠敷端の高」へ登った折に遠敷峠から北方を眺めると、左に多田ヶ岳とその奥に久須夜ヶ岳が、右手には百里ヶ岳北方の標高点825mから左に流れる尾根先端のコブ「小栗」が見えていた。

次週に、大兄がこの時の参加者に声を掛けて「小栗」へ登ったのだが、私はその日都合がつかず参加できなかった。

それが悔しくて、ひとりでも登ろうと決心したが、守山の彼に同行をお願いすると、前月大兄たちと登ったにもかかわらず、快く引き受けてくれた。そこで彼の都合と天気の良い日を選び、一ヶ月遅れのこの日に山行を決めた。

ので参加していない。

7時30分にJR堅田駅へ集合。前月大兄の小栗山行では、生杉から遠敷峠越で上根来へ車で向かったが、道が荒れていてバンクしてしまったりと、守山の彼は「あんな危ない急な峠道は二度と通りたくない」と言って、今回は小浜回りで上根来へ車で向かうことにした。月曜のわりに空いていて、朽木、保坂、大興寺と走り、上根来の霊園広場へ着いたのは9時過ぎ。前月の山行より1時間も早い到着だったと聞く。

この日は、いつもの個人山行ルートより長い。昼食時間も心ゆくまでとれそうになく、昼食を楽しみに山を歩いている守山の彼には気の毒に思ったが、

最悪、昼食時間が長くなり、予定オーバーの場合には木地山峠から百里ヶ岳をピストンし、上根来へくだればよいと考えていた。でも9時過ぎに出発できるので、予定通り歩けそうだった。

9時20分出発する。風が強くて雨がパラついたきうと違って、きょうは雲ひとつない暖かい山日和。ウグイスの鳴き声が聞こえ、ヒガラの囀りもやかましい。車道を300m戻って、山裾の寺の裏から尾根に取り付く。

道無き杉林の急斜面を北へ這い上がって支尾根にのると、東へ向かって雑木の尾根を行く。依然として急だが、やぶも無く登りやすい。所どころ古いテープがあることから、物好きが登ったことがあるようだ。北東に向きを変えると、右手に百里ヶ岳の姿が垣間見える。あたりは細いコナラ主体の濃木林で、ヤマボウシの青い花、ナナカマドの花も開いており、サワフタギ・タムシバが葉を付けている。4月に「遠敷端の高」へ登った時には濃木の林は枯木の様相で乾伐とした光景だったが、

この時期にはすでに芽吹き、春たけなわの新緑の林へと変わっている。前月この尾根を登った5人も、新緑の息吹を肌で感じていたに違いない。

標高点547mへのると、南斜面にはひと抱えもありそうな赤松が何本も立ち並んでいる。ピークをくだるとその鞍部にヌク場があり、獣の臭いがブンブン。そこから尾根をのり換えて登って行くと、次第に勾配が急になってくる。途中で、太葵の彼女がビニール袋に入った地図と磁石を拾う。前を歩く字治の彼が落としたものと思っただら、前月の山行で大兄が落としたものだった。一ヶ月間もそのまま残っていたとは、いかにこの尾根を歩く人がいないかを示している。急勾配の尾根を登り、次第に斜面状になってくると、やぶの無い広い疎林の主尾根へ登り着いた。

ここにザックを置き、空身で小栗までを往復することにする。尾根は広く、太いブナ・シア・コナラ・栗の目立つやぶの無い疎林で、それら新緑の情景



小栗・百里ヶ岳付近図



に歓声を上げながらゆるく登る。右手へ廻り込むと、疎林の広場が山頂で、太い栗の木そばに三角点がある。標高722・9m、点名は「小栗」。保護石は無く、平坦な地面から標石だけが飛び出ている。方向は北向きで、北から東へ20度振っている。

情緒ある疎林の山頂でゆっくりできたらよいのだが、先は長く、三角点と集合写真撮ったら、すぐにザックをデポした場所へと引き返した。

ザックを背負い、100mも南へ向かってから、方向を東へ振ってゆるく登って行く。相変わらず栗・シデ・コナラの疎林で、進むにつれて太いブナが目立ちだす。木々の情景を楽しみながら、やがて標高825mのピークに登り着く。11時40分だった。

このピークで、高機から来たカップルが食事中。小入谷から百里ヶ岳を踏んでこのピークに至り、これから尾根を縦走し、駒ヶ岳を踏んでから河内へくだると言う。車山行ではないようで、交通不便な生移から、この時間にこ

まで来るとは信じられない思いがした。このふたりは、この日出会った最初で最後の人だった。

昼食は本地山峠から百里ヶ岳へ登る途中の尾根でとる予定だったが、ピークの東端に立つとあまりに天気が良い。眺望もすばらしかったので、ここでとることにした。坐った場所から東方が開け、正面左手にどこがピークかわからないような駒ヶ岳が間近に見え、駒ヶ岳からひときわ高い標高744mへと流れるように尾根が続いている。

その右手へくだる支尾根の先には池原山がコブのように盛り上がっている。右手遠くには比良の蛇谷ヶ峰から武奈ヶ岳へ続く峰々が霞んでいる。この時間だと、寺井さんの新ハイパーテイも駒ヶ岳で食事していると思ひ、吹田の彼女に電話してみたが、圏外で通じなかった。

12時35分、予定より5分遅れで出発する。100m西へ戻り、転げ落ちそうな急斜面をくだって、左杉右ブナ林の尾根にのる。15分もくだると本地山

峠。峠には道標があり、小さな祠に地藏尊が祀られている。

本地山峠は、昔の朽木村本地山から、若狭の遠敷上根来へ越える峠である。近江備の本地山集落にちなんだ名で、鈴鹿の小椋村から移り住んだ本地師たちが、頼業に利用した峠といわれている。本地山集落に住む人たちは朽木へ向かうより、駒ヶ越で河内へ、池ノ河内越で池ノ河内へ、本地山峠を越えて根来へ、シナグレ峠を越えて針畑川沿いの村へと通ったが、今ではそれらの峠道も消えてしまい、ハッキリと峠の雰囲気を残しているのはこの本地山峠だけである。三年前の9月に中央分水嶺を歩く山行で、本地山峠から東の標高744mまでを歩いた時、この峠の西約10mの木に熊を見たことがあり、きのうのことのように思いだす。

峠の地藏尊に手を合わせ、百里ヶ岳への尾根を登る。シツカリした踏跡もあり、テープもくといほど付けられている。これまで尾根右手に広がっていたすばらしいブナやコナラの林はいつ

里四方が見渡せることから言われている。以前に来た時は山頂は濃い林に囲まれ、展望は全く無い暗い山頂だったが、今見ると、山頂の周りの木は伐採されて明るい山頂へと変わっている。三角点は広い山頂の西端にあり、標石と保護石はコンクリートで固められている。標高931・3m、点名は「本地山」、一等三角点である。標石は南向きで、南から西へ20度振っている。

山頂広場の東には、駅名板のような山名板が立っている。六年前には黄色がかかったバックに「百里ヶ岳」と書かれた山名を読むことができたが、今では板は真っ黒になっていて、近くに寄らないと何が書いてあるのかわからな

いほどだ。山頂で15分程過ごし、南へくだる。急斜面をくだり、小さなコブを二つ越えると百里新道との分岐。ここから方向を西へ向かうと、Ca860mのピークが待っている。この70m程の登り、辛かったこと。やっとピークを越え、北西へくだると根来坂へ下りた。

根来坂は針畑越とも呼ばれ、京から若狭へ繋がる若狭街道、いわゆる鯖街道の一時である。この峠道は平安時代に拓かれたといわれ、元亀元年(1570)に、朝倉攻めに失敗した信長が退却した時にしんがりやを努めた家康が通ったと記録に残っている。上杉謙信・織田信長・明智光秀・豊臣秀吉も

しか灌木の林に変わっている。ここまですべて草花は全く見ていなかったが、この尾根で初めて、終わりがけのユキザサ・ツクバネソウ・アマドコロの花を見る。標高711mを越えるとスタ場があり、やがて杉林が現れ、遠くから見た以上に勾配がきつくなってきた。しばらくはひたすら登るだけだったが、杉林が切れ尾根の向きが東へ振るといふぶんゆるくなり、太いブナがアチコチに見られる疎林へと変わった。その尾根を登り切ると百里ヶ岳山頂で14時の到着。百里ヶ岳へ来たのは山本さんの新ハイ例会で登った時以来で、六年振りの再訪であった。

百里ヶ岳の山名は、山頂に立つと百

## 京都北山から——自然・文化・人——

京都府山岳連盟 編著

A5判 一八七頁 一八九〇円  
「京都一周トレイル」を全コース詳しく案内！  
福富山から東山・北山・西山を苔まで、歩いて訪ねる京都の魅力と詳しく掲載。コースの付近の場所にも詳細にふれる。また京都の伝人の紹介や京都府山岳連盟の歩みも掲載。

## 大好評忽ち3刷!

## ロープレスキュー技術

日本ロープレスキュー協会代表 堤 信夫 著

A5判 二二六頁 二二〇〇円  
救助・防災関係者、登山家、アウトドア関係者のほか、仕事でロープを使う人たちのために、現場で使えるレスキュー技術を、図解イラスト(七〇〇余点)入りで、その手順や方法を詳しく解説。救助・防災の必携書!

★表示の価格は5%税込です  
ナカニシヤ出版  
http://www.nakanishiya.co.jp/  
京都市左京区一乗寺木ノ本町15  
tel 075-723-0111 〒606-8161





百里ヶ岳一等三角点

通ったといわれている。峠には、情緒あるブナの古木が一本残っていて、峠の西には小さな祠に地藏尊が祀られ、一段上の高みに、「大乘妙典 一石一字塔」と彫られた石碑が立っている。この石碑は地藏尊と古屋から寺谷峠へ登る途中にある「般若心経 延命地藏 一石一字塔」と彫られた石碑と同じ時期の寛政九年(1797)に置かれたものだが、何のためのものかはわからない。この峠でコーヒータ임을

とり、下りに備えた。根来坂から若狭側へくだる。道は大谷源頭を右下に見て、標高点871mを捲いて美しいブナ林のなかを通り、西の尾根への。このあたりの捲き道が古道の面影をシッカリと残している個所だと言つてよい。尾根をくだりジグザグ道になると、杉林のなかに小さな祠が建っている。地藏尊が祀られ、すぐそばに井戸が掘られている。ここが池の地蔵と呼ばれ、近江側の焼尾地蔵と共に、旅人が休息のために足を止め、旅の安全を願つて手を合わせた所である。この下で、古道は尾根を外れて標高点708mの西側を捲いて付けられていたが、遠敷峠を越える林道が開かれてからは、古道は消えてしまった。ここから尾根を林道が横切るまでの間をグループは二つに分かれ、5人が標高点708mから北へ流れる尾根を、登りが嫌なふたりが林道を歩いた。林道を歩いたふたりは、尾根をくだる古道の入口で5人を待ち、いっしょ

になつて林道から尾根の古道をジグザグにくくだる。その下の杉林では、今回初めて八株のエビネの花に出会えた。花を写真に撮つて、何度かゆるい尾根をジグザグにくくだると、林道のヘアピンの所に下りた。ここから、林道をクニウツギの花を眺めながら、畜産団地跡の横を通り右へ捲くと、車を置いている霊園広場へと戻った。時間は16時55分で、何とか明るいうちに予定通り一周することができたのである。(平成19年5月21日歩く)

☆コースタイム☆

上根来(45分) 標高点547m(30分)  
主尾根(15分) 小栗(45分) 標高点825m(15分) 木地山峠(1時間10分)  
百里ヶ岳(45分) 根来坂(1時間40分) 上根来

△地形図▽  
2万5千 古屋・遠敷

韓国登山シリーズ⑨

二峰をセツトにして登る

連載 伽倻山と梅花山

ヨシミスポーツ 吉見英樹

韓国

朝鮮半島、南東部の慶尚北道大邱市から西へ遠くなく、韓国八景にも数えられる名山である。世界遺産の八萬大藏経を収蔵する海印寺を山麓に従え、岩稜の美しい山である。

出来ればカヤ山(1433m)だけでなく、もう一日とって、すぐ南の梅花山(1030m)をセツトにして登ることをお勧めしたい。梅花山から見るカヤ山の秀麗な山容はとてすばらしい。慶尚道はサンギョウブサル(豚三枚肉焼き肉)が有名で、大麥に安く食べられ、豚焼き肉天国でもある。

カヤ山



山容

カヤ山は、標高1000m以上から上部は岩稜の山である。コースとしては基本的に、山行時間約6時間位の日帰り山行である。一般には海印寺から往復をするようだが、このルートではカヤ山の魅力がわからないので、ぜひとも白雲洞から海印寺コースを使ってもらいたい。道は韓国らしい岩稜と岩に取り付けられた階段道の直登である。



### 交通アクセス

釜山金海国際空港から高速バスで1時間20分の大邱市東部市外バスターミナルへ。地下鉄で12駅目の西徳市外バスターミナルへ。そこから海印寺門前町までバスで1時間40分。

### コース

韓国の秋空は透き通るように青く抜けて清々しい。そして一面に咲くコスモスは心を穏やかにしてくれる。韓国の田舎旅行を求めて計画を立てた。いつものように大阪韓国観光公社の徳山さんに何度も連絡をとり、海印寺までの行き方を調べてもらい、山宿報は東京のイルボンさんをお願いした。

今回の旅は、娘のマイレージを使って釜山往復という節約方法をとったので、釜山到着がどうしても15時半になってしまった。釜山金海空港からの大邱市までの直行バスは日に数便ある。バスは1時間20分で大邱東部市外バスターミナルに到着した。大邱市は地方都市であるが、韓国第三番目の街。

「し頑張るぞ！山の神様、今日も無事山行をお願いします」とお祈りをして出発をした。

道は、なだらかな水の少ない溪流沿いを歩く。当然のことながら岩また岩である。いまいちの雨模様であるが、傘を差して歩ける程度である。折り返しを何回も重ねると、程なくソンチャン台分岐（実際はだだっ広い峠という感じ）に到着。そこをサイン通り右にとると、道は広めで樹林が美しい尾根歩きとなる。少し勾配がきつくなるが、あえくほどではなかった。

この気持ちのよい樹林帯が終わると、いきなりの急斜面で、頂上の岩稜部分を首が痛くなるほどに見上げる。展望がいきなり開け、すばらしい岩稜風景が目に見え込む。9月終わりでも韓国内陸部はすでに秋、気温は12℃位で寒いくらいだ。ここには展望場所があり、霧にかすむ岩稜と、すでに紅葉が始まっている木々を心ゆくまで楽しんだ。

ここから上の岩稜部分は急勾配の設置階段を直登につく直登だ。韓国人は

初めてということもあり、すぐにタクシーを捕まえ、海印寺行きのバスが出る西部バスターミナルへ行った。想像より大邱市は広く、バスターミナルに到着したのが18時20分。すでに18時発のバスは出てしまっていた。

次のバスだと海印寺着が21時半になる。しばらく考えたが、きつぱりと行くのを諦め、バスターミナル付近に宿をとることにした。と言っても、ターミナル付近はかなりゴチャゴチャで下町色が強く、宿は温泉マーク付きモーテルだらけ、その夜はモーテル泊まりで新しいのだが健全な私はモーテルには抵抗がある。

腹が減ってきたので、モーテル横の食堂でカルビタン（牛尾湯）を食べ、ソコソコに部屋に帰った。テレビを回すと、たまに怪しい番組（モーテルだから仕方がないが）もやっていて、ひとり旅にはなかなか辛いものがあった。おまけに宿の女主人が韓国風美人（ミイ）だったので、あり得ないのだが、

背が高く足が長いので、日本人の小柄な私には歩幅が合わず、とても辛い。何度も何度も休憩をして上部に行くのである。登山口から2時間強で、チンブル峰に到着した。

先を越していった若いアジヨン（見さん）が待っていて、話しかけてきた。すぐに日本人とバレて、「韓国で暮らしているのか？」とかいろいろと聞いたうえで、同じ道を下山して行った。彼に「カヤ山の他のルートは魅力ないぞー。白雲洞、チルブル峰だけでよい。君もいっしょに下りて、下で酒を飲もう！」と言われたが、さすがに断った。チルブル峰からの展望は確かにすばらしい。霧のなか、はるか眼下に見える岩稜とへばりついた階段、他の峰々、見事な紅葉。高度感もなかなかのものだ。特に良いのはチルブル峰から見るカヤ山頂上部への岩稜尾根だ。見事なアルピニズム風景が堪能できた。

チルブル峰を降り、尾根筋を山頂部へ向かった。簡単なアップダウンを繰り返して、あつという間に山頂岩塊直下

どこか気になるのは人情ではないか。

翌早朝、飛び起きてバス停まで行く。海印寺行き始発6時40分が待っていた。大好きなバナナウユ（牛乳）を買い込んで、乗り込んだバスは長閑な田舎風景のなかをひたすら走り、海印寺に着いたのは、8時20分であった。早速バス停前のお菓子店のアジユモ（おばさん）にタクシーを呼んでもらい、白雲洞登山口まで行った。登山開始は8時50分であった。タクシード金は1500円と少し高いが時間に代えられないので納得だ。白雲洞登山口付近にはリゾートマンションやホテル等が点在し、とても近代的だ。

海印寺口は古くからの門前町だが、こちらはニューファミリーや若者向きのキャンプ場も設備されていて、その差は明らかであった。さて荷づくりをし、おにぎり食べて出発だ。第一目的地の「チルブル峰」のサインがしつかりあるので、方向の不安はない。登山口からは、カヤ山の岩稜部分が雨雲に混じった霧の合間に見える、「よ

**アタツテ痛い靴の 巾広げ します**

靴底張替承ります！



通販も可能です。

TEL. 06-6772-7231

Y543-0054 大邱市天王寺区南河堤町4-70  
http://www.yoshimisports.co.jp/

YOSHIMI

JR天王寺駅 北口徒歩1分 徒歩5分



新木曜日定休



の分岐サインボード地点に到着した。ここからは天気が違うとは言え、インボンサイトで繰り返し見た風景だ。プリントアウトした画像とも一致して全く納得だ。頂上部へは簡単な階段とロープですぐに到達する。広い岩の頂上である。

振り返りチルブル峰を見るとやはり霧がかかってかすかに浮かんている。天気が好転し、暖かくなってきたので、早朝大邱で買ったキンバブ（韓国海苔巻き）をゆつくりと楽しませてもらう



伽倻山・梅花山付近略図

た。旨い！ やっぱり弁当はキンバブに限る。雨は上がり、景色が良く見える。30分程ノンビリした後、海印寺方面へ下山することにした。

最初の20分位岩稜部を通過すると、樹林帯に突入する。海印寺への道は、先ほど出会ったアジョシの言った通り、極端なほどに平凡だった。もし海印寺からの道をビストンしていたらと考えると、恐ろしさを感じるほど平凡だった。この道を下り、海印寺に到着した。後ほど地図を見直すと、樹林帯に入

り15分位にバリエーションルートがあり、岩に彫られた新羅時代の弥勒菩薩を通過し、下りてくる道があったのだ。確かに獣道のような分岐があり、「弥勒菩薩」と書いてあったが、知らぬ外国で獣道に分け入る度胸はなかったのだ。ひよつとしたらこちらのほうが良かったかも知れないので、カヤ山にチャレンジされる方は頭の片隅に置いておいてもらいたい。

海印寺は韓国では五指に入る名刹だ。普通の韓国バックツアーでも必ず立ち寄るほどの名刹である。周りに龍門庵など多くの末寺を従えている。壬辰の倭乱（慶長文禄の役）や朝鮮戦争でも立地ゆえに破壊に遭わなかった強運の寺院である。多くの僧がそこで暮らしている。観光客も後を絶たず、その人氣の程がわかる。

その日の宿はバス停横の旅館にした。古いが宿泊代は2000円。前に川があり、夜は川の音を子守歌のように聞きながら眠ることができた。あまり静かなので二泊もしてしまった。この門

前旅館街には食べ物屋も多いので大変に便利である。

翌日、朝起きると小雨混じりだった。旅館横の食堂で味噌チゲを食べ、霧雨のなかを出発した。この日登る山は梅花山、カヤ山の真南に對峙する10000mの山だ。頂上から見るとカヤ山のすばらしい光景と、岩稜を彩る五色の紅葉が有名である。韓国登山者の多くはこの二座をセットにして登るらしい。

道は韓国では珍しいぐらゐの柔らかな土道が大半で、頂上部付近は岩塊である。霧雨のなか、気持ちのよい樹林帯を歩くこと1時間20分でコゲ峠に着く。ここより右へ、階段道と柔な岩道が頂上へのびている。コースタイムを書くまでもないほどあっとい間に頂上に到着してしまった。岩塊頂上には急傾斜の鉄階段が懸かっている、雨でなければ、ここからが絶景だと想像できる。

頂上の岩稜付近は見事に紅葉していて、霧雨に黄・紅・赤色がけむり、心が洗われるようだった。下山は強制的

に同じ道のビストンとなった。本来は頂上より新羅時代の名刹チヨンリヨン寺への縦走路（1時間50分）を予定していたが、この8月末から来年9月までは自然保護のため通行禁止になってしまっている。韓国はこのような自然保護での、いきなり通行禁止が多く、罰則も減茶苦茶に厳しい。山へ行っていきなり通行禁止という事例も多いので、出来る限り情報を事前に入手したほうがよいと思う。はるばる行って通行禁止では話にならない。そうこうするうちに韓国登山者団体が次々に現れ、静かだった山頂が一気に賑やかになった。

私は押し出されるように下山した。元の旅館街に帰着したのが14時頃。早速食堂に上がり込み、山菜ビビンバとトントソ酒（発酵酒）を注文した。この地方は濁り酒の本場、冷やされた小瓶になみなみと入っていて、木彫りのシャクでついで飲む。飲むとアチアチと炭酸の音がして、味はまるやかで酸っぱい。度数はビールぐらいである。

乳酸菌も含まれ、古来より滋養酒として愛飲されている。と言っても、飲み過ぎると体には悪い。言い訳が多いが、山行後のトントソ酒は、五臓六腑に染み渡って極めて旨いのだ。酒も気持ちよく回り、至福の時間を楽しんだ。

#### ☆コースタイム☆

伽倻山⇨白雲洞登山口（1時間30分）  
ソッチャン台分岐（1時間20分）チルブル峰（20分）カヤ山頂上（2時間）  
海印寺

梅花山⇨海印寺旅館街（1時間20分）  
コゲ峠（40分）梅花山第一峰（1時間30分）海印寺旅館街



# 佐保路・狭岡神社を訪ねて

松永恵一

## 狭岡神社

奈良盆地の北、京都府との境になだらかな平城山が広がる。南麓を佐保川が流れ、法蓮町に狭岡神社が鎮座する。延喜式内の古社は、藤原不比等が靈龜二年(715)に、邸宅佐保殿の丘上に八座の天神を祀ったと伝える。

若山神 若年神  
若沙那賣神 彌豆麻岐神  
夏高津日神 秋比賣神  
久久年神 久久紀若室葛根神

国政の大事や、氏神春日参りには藤原氏一門は、ここ佐保殿に集まり参籠し、「日待ちの神事」を行い、精進潔斎して、さらに日の出を待って国政に掌り、春日社詣をしたという。

## 葬送の道佐保路

天平勝宝八年(756)5月2日、聖武天皇は崩じ佐保山南陵に葬した。一条南大路、今の一条通り・佐保路は、東は総国分寺・東大寺の転害門から西は総国分尼寺・法華寺まで一本でつながっている。

法華寺は藤原不比等邸を光明皇后が寺とされた所で、西隣は平城宮東院。聖武天皇葬送の列は笛を吹く人に曲を奏でさせ、平城宮から佐保路を東に佐保山南陵に至った。

聖武天皇の七十七忌に光明皇后は、亡き帝の遺愛の品を東大寺の盧舎那仏に奉獻した。葬送の列と同じく佐保路を東に進み、転害門をくぐり東大寺に運ばれた。正倉院の校倉は転害門のまっすぐ東に位置する。

それから四年後、光明皇后の葬送の列が深い悲しみに包まれて佐保路を東に進んだ。聖武天皇陵の東隣に光明皇后陵・佐保山東陵がある。佐保山陵からは、ふたりが情熱をそそがれた東大寺大仏殿が迫って見える。

佐保路のあちこちに「サホヒメ」の伝説が二千年の歴史を秘めて漂っている。境内の佐保姫の鏡池(姿見池)は、第十一代垂仁天皇の皇后狭穗姫命の伝説を残す。父は開化天皇の皇子彦坐王、母は沙本之大閼見戸売。母の所領狭穂の泉のほとりで恋のロマンスが生れ、垂仁天皇の皇后になられた。

「古事記」で最も物語性の高いとされる垂仁天皇条の「狭穂毘古の叛乱」。垂仁天皇の皇后となっていた狭穂姫に、兄の狭穂彦が「夫と私、どちらが愛おしいか」と尋ねる。「兄上の方が」。短刀を渡される。姫の膝枕で眠りについた帝の首めがけて短刀を振りかざすが涙をこぼしてしまふ。姫はすべてを

東大寺転害門



告白すると、兄の元へ逃がれる。攻撃できずにいる帝に、姫は生まれた息子を引き取るように頼む。敏捷な兵士を差し向け、息子を渡しに来た姫を捕らえようとするが、髪は髪にし腕輪の糸に切り目を入れ、衣装を腐らせた姫を連れ返すことは叶わなかった。炎に包まれた稲城の中で、姫は兄に殉じた。

## 多聞城

水禄三年(1560)、松永久秀は南都掌櫃の拠点として佐保丘陵の眉間寺山に城を築いた。城には多聞天が祀られ多聞城と呼ばれた。東に奈良への入口奈良坂を、南東に東大寺、南に興福寺を眼下に見る要衝の地であった。

永禄八年、宣教師アルメイダが城を見学し、本国へ書簡を送った。「その清潔にして白きことはあたかも当日落成せしものごとく、天国に入りたるの感あり。外より此城を見れば甚だ心地好く、世界の大部分に此の如き美麗なる物ありと思はれず。入りて其宮殿を見るに人の造りたる物とは思はれず」と記す。

多聞城は四層の天守を中心に、白壁の櫓を城の周囲にめぐらした壮大・華麗で新奇な城郭であった。

多聞山の本丸部分には市立若草中学校の校舎が建ち、善勝寺山のグラウンドとの間には大堀切がある。西側は曲輪面が比較的残っていて、天守、もしくは櫓跡と推察されている。

## 興福院

佐保山を背にひっそりとたたずむ興福院は、奈良屈指の美しい尼寺。天平の創建といわれるが、はっきりしない。寛文五年(1665)に尼ヶ辻から移転した。

観光寺院ではないので拝観は予約制。小堀遠州らしい華麗な庭は、静かで清楚な雰囲気満ちている。

四脚門の山門は、両側に白い築地塀をめぐらし、気品を漂わせている。森を背景に左右に大きく柔らかな曲線で本堂の屋根が広がる。重要文化財の本尊阿彌陀如来坐像は、天平時代の傑作。後世の修理を受け、金箔が張りなおされている。脇侍の観音・勢至菩薩は足を下げた珍しい半跏像という姿勢をとっている。

三十一枚の掛軸抄(重文)が伝来する。徳川五代将軍綱吉が、愛妾瑞春院に毎年年始、中元、年末等の祝儀の都度、その贈物の上にかけたもので、いずれも見事な刺繍によって吉祥文様を表されている。





興福院

コース概観

東大寺の転害門から西に一筋のびる佐保路。佐保には皇族、貴族等の豪邸や別荘があった。長屋王の作宝楼や大伴安麻呂、旅人、家持三代にわたり佐保の地に邸を構え、佐保大納言家と呼ばれる大伴氏、藤原不比等、石上宅嗣らの邸宅があった。天平の大宮人が往還した佐保路を、遠い日の物語や歌を聞きながら歩いてみた。

近鉄奈良駅下車。地上に上がると噴水の中に行基さんが東大寺の方を向いて立つ。交差点を渡りゆるやかな上り坂の登大路をまっすぐ東へ。登大路駐車場を左に折れ北に。国道369号線、平城京の東七坊大路、奈良坂越の京街道に入る。1、足らずで転害門(国室)が佐保路に向かって開く。三間一戸の雄大な八脚門は、平重衡の兵火(治承四年1180)、三好・松永の戦い(永禄十年1567)の二度の東大寺炎上にも奇跡的に焼け残り、天平の面影を今に伝える。東大寺の鎮守手向山八幡宮の転害会でここをお旅所とし、門中央に御輿を置く石四個がある。大きな注連縄がかかる。平城京から東大寺に通じる門として親しまれた門は「佐保路門」、源平の戦いに敗れた平景清がこの門に隠れ、大仏供養に参詣する源頼朝を狙ったとの伝説から「景清門」ともいわれる。「手掻御門」「手貝門」なども書かれる。

餅を食べた僧が大威徳明王を感得して命名したという。佐保路に入る。包永町は、大和鍛冶の町として栄えた。手掻派の粗包永が鍛刀した手掻包永太刀は国宝に指定されている。鹿角細工のハタリ源角堂は、奈良坂に残る伝統的な技やそこに息づく文化を味わう「奈良まちかど博物館」になっている。右に折れ多聞城跡に向かう。若草中学校の校門の右側に出土した石仏等が集められている。石段を上がると奈良市街を一望に見下ろす。天正元年(1573)、松永久秀は織田信長に反旗を翻し城を出る。翌年3月、多聞城に滞在した信長は、正倉院の香木蘭奢待を削った。多聞櫓に名を残す多聞城は、二条城築城に使用され、石垣の石は郡山城に転用された。信貴山城で自爆した久秀の潔さを思えば、何も残っていないのがかえって清々しい。うちのほる佐保の河原の青柳は今ほ春べとなりけるかも

坂上郎女「万葉集」巻八一―四三三  
千鳥や河鹿とともに、佐保川の代表



光明皇后は正しくは聖武天皇皇后天

的景物であった柳を詠んだ歌。春の神を「佐保姫」と命名したのは、佐保川が都の東方から春を運んでくると考えただらうか。川沿いに佐保川天満宮が祀られている。もとは多聞山に祀られていた佐保姫明神。城を築くにあたって、現在地に移したという。明るい朱の社が青空に映えている。天平の華を爛漫と開かせた聖武天皇と光明皇后は、佐保川の辺、法蓮橋のたもとで仲良く眠りについておられる。我が背子と二人見ませばいくばくかこの降る雪の嬉からまし

平徳貞仁正皇太后という。玉砂利を敷きつめた清楚な参道の正面に聖武天皇、右に光明皇后の陵がある。中世には別開寺が建てられ、多聞城城郭の一部であったと推定されている。

西に向かって歩を進めると、大伴氏の佐保の宅の地と推定されている春日野荘に着く。「浄土宗別格寺法蓮山興福院」の標石に誘われ、右に折れる。美しい尼寺への道はやがて桜並木となり、その向こうに山門が見える。静寂な清楚なたたずまい。境内の手入れも細やかで心洗われるような雰囲気である。黒い敷石と広い石段もよい。小堀遠州作と伝えられる客殿前の見事な庭。傾斜を利用して段々にサツキやクチナシを植え、最上段にツバキ・クチナシ・アセビなどを寄せ植えた生垣をめぐらしている。背後に春日山・三笠山・大仏殿等を眺める。奈良の佗茶人、長閑堂(久保権大輔利世)ゆかりの茶室が、復原されている。

昇立奈良高等学校の西に狭岡神社が鎮座する。地元で「昔原天神の隠居」

とわれ、境内には天神社と刻まれた灯籠が多い。藤原北家の邸宅「佐保殿」の地。「今昔物語集」巻二十二第二には、「藤原房前の邸宅が北にあったことから北家と称した。代々氏の長者として佐保殿に着いた時は、庭から邸内に安置された房前の肖像を拝した後、殿に上がった」と記す。藤原頼通や頼長が佐保殿に入ったと記録に残る。平氏の南都焼き討ちで焼かれた。



山の地名を歩く ④

## 鹿島槍ヶ岳

西尾 寿一

「鹿島槍ヶ岳」、この山の名を聞いて若い頃の登攀者として自分の姿を思い出す高齢の方も多いのではないかと思う。それは、昭和10年から40年あたりにかけて、後立山東面各ルートの初登時代であったからだ。

後立山東面の白馬岳から鹿島槍ヶ岳間の壁と稜の隅々に至るまで、実に詳細に区分けしておびただしい数の登山者が初登攀争いの戦列に参加したのである。

「鹿島槍ヶ岳研究」(吉田二郎著)が上梓されたのが昭和32年であるが、この書は吉田氏の記録に疑問があるとの説が

出て書店から消え去った。しかし、読んでみて内容のある立派な報告書であり、他の登攀者の記録もすぐれていてよい資料となってくれた。

鹿島槍ヶ岳の「鹿島」は集落名でもあるが、昔この地方は災害で苦しめられたので、常陸(茨城県)の鹿島神宮から強力な戦の神(鹿島明神)を勧請したことに由来するものだ。鹿島神は「巽石」で地中の大ナマズを押さえていると伝えられる。本来は古代大和政権の中臣氏が東北蝦夷平定のために香取の神と共に強力に後押ししたもので、数万の兵士を海上および陸上から集結させ、北上させた兵站地であったといわれる。そのため今日でも戦神として知られるが、元は北方の守護を司る神であった。

「槍ヶ岳」の槍は東面の村々から鋭く突る峰を見て、本物の槍ヶ岳と区別して鹿島の名を付加したもので、それほど古いものではない。この山が山名論争で有名になったのは、それ以前の

明治時代にさかのぼる。

これは、立山室堂あたりから見て、白馬から南に連なる山々をどう呼んでいたか、という問題であった。室堂の神官は「ミカケガ岳」と呼んだと、立山黒部の研究者である中島正文氏は述べた。立山の影が投影する姿か、とあるが、不明で終わっている。

次に「後立山」が出てくる。今日の「後立山連峰」の名であるが、これも元より越中側の名である。信州側では「西山」とされるのが一般的であるが、小生がこの地方で聞いたところでは、西山は里に近い低山のこと、その奥の巨峰群は、ただ単に「大岳」または「大山」と拝名者の期待を見事に外してくるのである。

秩父山塊が東京人によって金峰山まで含まれていて、山梨側の立場を無視したのになったのは、最初の文献を重視するが故のことで、単なる勢力関係ばかりではない。従って後立山の名も越中加賀藩の見廻り隊士が早くから立山を越えて北ア中核部に入っていた

ことによる。

それでは「後立山」の名はどの山のことなのか? これが明治末期から大正時代にかけて論じられた問題だった。

後立山とは、五竜、御菱・後立の諸呂合わせから五竜こそが後立山であるとするのに対し、山名研究家としても名高い小暮理太郎等は綿密な古文獻探索と方位計測などによって、鹿島槍が正統である、との結論に達したとして一歩も譲らず、「私は後立山鹿島槍同山説を主張して堪でも動かぬものである」と断言するに至るのである。

その結果は今日の姿となり一件落着となったが、むろん理科実験のように不動の説ではないことは誰も承知している。小暮翁の気迫に圧倒されて誰も言い出せなくなった、というのが本当らしい。

さて、後立山が鹿島槍で連峰の中心となると、五竜はどうなるのか。五竜と鹿島槍とは人氣の中心が鹿島に優勢であったことを意味しないか?。小

生は今でも両者は甲乙つけ難い雄峰で、後立山の名は両者にこそ与えられるべきものと考えている。

鹿島槍のバリエーション初登攀時代は、私たちが冬山を登る以前にほぼ終わっていた。後は新人訓練の場としてグレイド別の登攀ルートが定められ、多くの岳人志望の新人が東尾根、赤岩尾根、天狗尾根、鎌尾根などに入っていた。

遠見尾根から見るカクネ里の奥壁はまさしく偉大さと美しさを兼ねそなえた名峰にふさわしい姿をしており、新人はまずその姿を見て感動し、早く一人前の登山家になろうと心に誓ったのだ。だがその段階へ到達するのは容易ではなかった。その時代、登山は徒弟制度に近かったのだから……

昭和39年1月、私たちパーティ4人(内新人2名)は鹿島集落から爺ヶ岳東尾根に取り付いた。

4人だけの貧弱なBCを設営して上

部を目指したが、風雪激しく爺ヶ岳直下の雪庇下に雪洞を掘り、ローソク一本で夜を過ごした。

翌日、早朝に爺ヶ岳中央峰に登り、私は新人ひとりを連れて鹿島槍ヶ岳へ向かった。

早朝のガスと風雪は止み、絶好のアタック日和となるなか、赤岩尾根からアタックする登山者を眼下に見ながら、冷池・布引山を経て鹿島槍ヶ岳の南峰へたどり着いた。

広大な眺望と冬山の良さを十分味わい、廻岳・立山・黒部の大観にすっかり酔いしれるなか、次々と支尾根に登攀してくる大勢の登山者で山頂はにぎやかな笑聲で包まれた。

私たちふたりは、長居は無用とばかり腰を上げ、BCまでの長い道のりを案じながらくだったのである。後立山の縦走隊を別とすれば、私たちが一番長いアプローチを要したからだ。

爺ヶ岳への登り返しの苦しさを、BCでの熱い紅茶を飲むことを楽しみに耐え、ただひたすらくだって行った。



コースガイド

湖北

(里山シリーズ50 敦賀市・余呉町)  
敦賀から中河内

池河内湿原と長野尾峠

一般コース(★★)  
長宗 清司

古来、敦賀は畿内と北国を結ぶ重要な土地柄で、近江から敦賀を経て越前の南条へ至る道が拓かれた。利用度の高かったのは、大津から海津を経て山中越(現在の国境)を越えて越前に入り、山中、駄口、追分、疋田の各宿を通過し、道口から谷口を通り、栗原、新保宿を経て、木の芽峠を越えて今庄宿で北陸道と合流する(「西近江路」現国道161号線)ものであった。

近江と敦賀を結ぶ道は、この①「西近江路」のほか、②追分から深坂峠を越えて塩津に至る「深坂越」、③疋田から麻生口・新道野を経て近江塩津へ

至る、近世初頭に拓かれた「新道野越」(現国道365号線)があった。また④麻生口手前から東に向かい、刃根を経て久々板峠を越えて柳ヶ瀬で北陸道と合流する「刃根越」。⑤谷口から東に向かい池河内から長野尾峠を越え、中河内で北陸道と合流する「長野尾越」。

今回は、これらのうち、いちばん利用度の少ない⑤長野尾越を歩いてみた。JR敦賀駅から谷口集落までの約4kmは歩いてよいが、時間稼ぎにタクシーを利用する。印願寺の立看板のある所から西谷川上流に向かって、鞍の二本線だけ土が見える林道に入る。少し行くと二分するが右へ手摺りの無いコンクリート橋を渡り、川の左岸を進む。やがて川沿いに静地蔵とダム堰堤を確認して、右からの流れと本流に架かる橋を渡り、再び右岸を歩く。関電の高圧線が通るあたりで林道は終わり、あとは、川に沿って突き進む。積雪期は雪の上だが、無雪期はやぶの谷筋である。コンパスを駆使して東北



池河内湿原入口



〒の道標石

東の方向へ足下の流れを確認しながらやぶを分ける。左右の谷を気にせず、真向こうの時「坂の頭」に向かって西谷川の源頭を登りつめる。

背丈を超すササやぶの平地「坂の頭」間近かで、〒のマークと旧通信省の標



池河内湿原・長野尾峠付近図

石を二つ確認する。敦賀と、これから訪れる中河内集落を結ぶ、重要な郵便配達の正式ルートだったと知る。

この坂の頭には悲しい話がある。昔、飢饉のあった頃、杉寄集落の長、中山善六がこの峠を通り、年貢の減免を敦賀の代官に願ひ出た帰りに何者かはこの場所を暗殺され、その菩提を弔うために善六地蔵を建立されたという。

峠を越えると、しっぺりした山道になる。平地にくんだり、杉林の先でスキの原に出くわすが、これを避けて右階を進む。普段水の無い小川の対岸に渡るとスキの向こうに建物が見えた。池河内湿原である。

敦賀市の東部、標高300m以上の山間にある池河内湿原は、北方、南方系の植物が見られる貴重な

湿原で、福井県の自然環境保全地域に指定されている。

敦賀市で一番長い笠ノ川の源流で、地盤沈下で出来た湿原には、湧水のほか周囲の山から水が流れ込んでいる。約110分のうち約5分の阿原ヶ池を中心に広がっている。現在、ハンノキ林が広がり、池を次第に狭めている。散策できる木道(遊歩道)が池を横断している。

池河内集落には数軒の家が小さく囲まれている。湿原の水が流れ出る所には小さな水門があり、そのそばには石の薬師如来が祀られている。最初の家の脇を通り、道路から離れ、正面の竹やぶに向かう道に入る。やがて道は二分するが、左へ棚田跡に出る。林の際を、さらに小川左岸の路路程度を道なりに行くと、やがてしっぺりしたU字形の山道になる。

うんざりするほどに蛇行を繰り返して、標高590m以上の長野尾峠まで標高差310mを登りつめる。峠には、旧通信省の連絡場所(三角形の屋根、歩哨小

屋のようなコンクリート製の筒型の建造物)が残っている。下り道30分程で中河内の集落に下り立った。

湖国バスは、15時57分発の「一便だけ」(平成19年5月10日歩く)(平成20年9月21日歩く)

☆コースタイム☆  
JR敦賀駅(タクシ-7分) 谷口(20分) 静地蔵(5分) 堰堤(10分) 林道終点(1時間50分) 坂の頭(15分) 池河内湿原(周遊30分) (1時間30分) 長野尾峠(30分) 中河内バス停(バス35分) JR余呉駅

△地形図▽  
2万5千:敦賀・中河内(問い合わせ先)  
敦賀観光協会  
敦賀タクシ-

湖国バス	0749 (22)	1210
余呉町観光協会	0749 (86)	3085
敦賀タクシ-	0770 (22)	1414



# 宇治そぞろ歩き 仏徳山と朝日山

初級コース(★)  
数木 伸人

京阪宇治線の三室戸駅をスタートし、まず西国観音霊場十番札所の三室戸寺に向かう。

枯山水、本堂、三重塔、池泉を40分程かけて巡った。三十年前に参った折には無かった蓮鉢が並び、露殿、石楠花、紫陽花と、季節ごとに彩を添えているようだ。私たちが訪ねた11月下旬には、紅葉が鮮やかだった。

暮れはつる秋のかたみにしばし見ん紅葉散らすな御室戸の山 西行  
次は、世界遺産の宇治上神社だ。途中、蜻蛉の古蹟(平安後期)を経て山懐に入ると、仏徳山への登り口

を過ぎた先に神社があった。

脇に根の高木が立つ古色蒼然たる拝殿と覆屋に隠された、現存最古といわれる本殿(ともに国宝)。祭神は応神とふたりの子息、大鳥嶋(仁徳)と菟道稚郎子である。弟は、兄大鳥嶋に帝位を譲って自死したそうだ。後ほど訪れた朝日山の頂に墓碑が立てられている(陵墓とされている古墳は三室戸駅のそばにある)。

与謝野晶子歌碑、万葉歌碑へそらみつ大和の国あそによし奈良山越えて：Vを見た後、仏徳山の東海自然歩道を登って行く。展望台からの眺めは良き、宇治川対岸の平等院鳳凰堂がはつきり見えた。ここにも万葉歌碑が立つ。妹らがり今木の嶺に茂り立つ

夫松の木は古人見けむ 菟道稚郎子  
そこから三等三角点「旭山」(131.8m)までは一投足だった。標石確認後、自然歩道に戻り、朝日山に向かう。少し先で興聖寺にくだる道を右に見送って、鞍部を進む。実は、すぐに右へ登って行く道があったのだが、道標

朝日山五重石塔



に気づかず自然歩道を進んで行った。大廻りして東から尾根道を登り、朝日山山頂に着いた。

五重石塔の先から仏徳山からも見え、た宇治川左岸から京都盆地の景色が、少し角度を変えて望まれた。

興聖寺参道の琴坂は紅葉の名所とのことだが、見頃には少し早かった。宇治川畔に出て、朝霧橋まで歩く。途中、関電宇治発電所からの放水路に架かる親流橋から、仏徳山を仰ぎ見、川岸の岩上には、早くも訪れた百合鷗の姿を見た。

朝霧橋を渡ると橋島。さらに中の島橋を渡って塔ノ島へ。小屋の中で、鶴が羽音を立てている。現存する日本最大(十三重石塔は、1286年に建て



られたが、1756年の洪水で川中に没し、1908年に発掘され、一部補完、再興されたという。  
喜撰橋を渡って左岸へ。鱒の飯蒸しが名物の「鮎寮」で遅めの昼食をとる。「喜撰茶屋」で土産を買った後、再び中の島を経て、京阪宇治駅への道をたどる。橋島では、万葉歌碑を見る。ものふの八十字治川の綱代木に  
いさよふ波のゆくへ知らずも  
柳本人麻呂

近江から京に上る途中詠んだと記さ

れている。旅心を歌ったものだろうか。宇治川の詠み込まれた人麻呂の万葉歌は何首もあり、もう一首挙げる。

ものふの八十字治川の早き瀬に立ちえぬ恋も我はするかも  
早瀬に架かる朝霧橋を渡ると、正面は、菟道稚郎子跡とされている宇治神社である。七五三の祝に來ていた少女が可愛かった。橋のたもとの浮舟・匂宮の像を見てから右岸を歩いて行く。通りに茶の香りが溢れている。やはり宇治は茶処である。

最後の目的地、橋寺放生院を訪ねる。聖徳太子が宇治橋架橋にあたり、折願寺として創建させた古刹という。ここには日本最古の石碑(断碑)がある(見学有料)。

藤原氏の榮華と王朝文学「源氏」の舞台ともなった宇治に遊び、道長と紫式部との歌のやりとりを思いだしながら、帰路についた。

夜もすがら水鶏よりけになくなくぞ  
槇の戸口に叩きわびつる 道長  
(一晩中泣く泣く戸を叩いていたのに、

開けてはくれなかったのだね)。

ただならし戸ばかり叩く水鶏ゆえ  
あけてはいかにくやしからまし 兼式部

(もの好きでなされたのですから、開けたらかえって後悔してはいたでしょう)。  
平成20年11月22日歩く

### ☆コースタイム☆

- 京阪三室戸駅(15分) 三室戸寺(20分)
- 宇治上神社(20分) 大古山展望台(5分)
- 三角点「旭山」(15分) 朝日山(20分) 興聖寺(15分) 塔ノ島(20分) 橋寺(5分) 京阪宇治駅
- △地形図▽
- 2万5千：宇治
- (問い合わせ先)
- 三室戸寺 0774 (21) 2067
- 宇治上神社 0774 (21) 4634
- 興聖寺 0774 (21) 2040
- 宇治市観光センター 0774 (23) 3334



# 警座状の奇石 だけ 嶽の立石

一般コース(★★★)

柴田 昭彦



嶽の立石(嶽太郎)

奈良県宇陀市榛原区(旧榛原町)内牧にある「嶽の立石」という不思議な巨石に興味を抱いたきっかけは、イワクラ(磐座)学会・編著「イワクラ古代巨石文明の謎に迫る」(シオントラ

イブラーサービス、平成20年)に収録された、柳原輝明「古代「宋」と巨石遺構の謎」というレポートであった。「嶽の立石・寝石」「蛇石」の記事が見られる。

高田榮久、調査執筆「赤日・俱留尊高原」(昭文社、山と高原地図、1998年版)の小冊子には次のようなコメントが見える。

「内牧の岳の立石・唐戸の寝石はストーンサークル跡か?」「同地の蛇喰みの蛇石は古代呪術の霊石ではなからうか?」

「奈良県宇陀郡史料」(大正6年)の第六編、内牧村の項目には「嶽の立山」大字内牧嶽山にあり。但しあり。嶽の立石蛇はみの蛇石こけて鼻うつ唐戸石」と記載されている。

柳原氏が参考にした、皇祖聖蹟苑田高城顕彰会編「神武天皇建国聖地内牧考」(昭和14年)には、次のような記述が見られる。

「蛇はみの蛇石」と称する巨石



嶽の立石付近図

の表面中央部凹んで、蛇腹状の凹凸あり、又嶽山の西北麓を「唐戸」と称し、其の山中の石は悉く横臥しある、里人「立石」「蛇はみの蛇石」「唐戸石」共に畏敬してゐる。」

「(嶽神社の)旧社地より石嶽を出し、山麓より土器を出してゐる。」

「内牧カラト遺跡発掘調査報告書」

(榛原町教育委員会、1990年)では、立石・蛇石・寝石を「三名石(三奇石)」

と呼ぶ。

今回、嶽の立石などの三名石と付近の神社を巡る手頃なハイキングコースを紹介したい。

近鉄榛原駅前の曾爾(そに)役場前行きの奈良交通バス(10時15分発)に乗り、内牧西口バス停で降りる(所要22分、400円)。東へ進み、すぐに右折して橋を渡り、国道を車に注意して横断し、正面に見える道標に従って、「カラトの寝石」を目指して進む。次の道標分岐で左をとると、程なく、舗装道の終点に着く。左手に寝石が横たわる。

直進方向の地道ではなく、左の林道に入るとすぐ左側に長さ7m(最大)の寝石がある。右側には3.5mの寝石が散在し、割れていたりして「こけて鼻うつ」格好である。

カラトはこのあたりの小字名で、榛原石(流紋岩質の熔結凝灰岩)がベッド状に横たわっていることから「唐戸石(カラトの寝石)」呼ばれているわけである。

林道を進むと、右に分岐して上がる道があるが、直進方向をとる。左手は谷になっていて、大きく左に廻り込んで谷を横切る直前に、左側に「嶽の立石」を示す道標がある。右への急坂を上がる。すぐに道は左右に分かれるが、ここで迷う人が多い。分岐点に1m弱の石があり、そのすぐ右横に赤テープの目印があつて踏跡が見える。ここから登ろう。

細い山道を上ると右手に立石が見られる。耳のような石や、二つの立石に屋根石が載つたものまである。上に抜けると道標があり、右に上がると「嶽の立石群」の一つ「嶽三郎」が横に三つ並んでいる。高さは手前が5.5m、次が5m、右奥が4mほどで奇観である。上側から眺めると巨大な指にも見える。

上がって尾根道に出て右側にも立石があるが、左に進むと高さ5mの「嶽次郎」に出会う。そのまま尾根道をたどるのもよいが、ここでは、嶽太郎の左側から下りて下の谷道に出る。右へ

進み、途中、左の分岐道(嶽太郎に行けるが足下はあまりよくない)は見送って林道内牧カラト線に出る。

林道をそのまま道なりに東方向に進むと、仲良く二つ並んだ石が左脇にあり、道標が立石と蛇石を案内している。左の立石に向かう。

舗装道はすぐ左に山道を分け、ここに入れば、根元から高さ3.5m程の「嶽太郎」に出会うことができる。次郎・三郎より小さいが、最高地点にあるので太郎なのだろう。嶽太郎の西側斜面には嶽太郎より大きい高さ4.5mの石が散在し、周囲コース(前述した分岐道に通じる)を巡るのもよい。

嶽太郎は表面が褐色を帯びて一見、人工的な加工も想像してしまう肌合いであり、虚空を見つめる横顔にも見えしてしまう。しかし、実際には、これらの「嶽立石群」は柱状に立つ自然石であり、警座状を呈しているが、周辺で遺物等の散布は認められず、祭祀の伝承も残されていない(前掲報告書)。

林道に引き返し、道標の示す「蛇石」





蛇はみの蛇石

を目指そう。林道を300ほどばかり歩くと行き止まりになっているが、終点の少し手前、左側に「蛇石」の道標がある。ここから40ほど先に右の集合地があつて、左に丸い2・5寸の石、右手の木に「コ」のマークが見える地点の右側に横たわるのが「蛇はみの蛇石」である。少し先の右側斜面にも巨石が見える。

蛇石の先端は船型、末端はおたまじやくし状で、長さ9寸、高さ1寸、横幅2寸3分、上側の溝幅は4寸、横の道のような溝の幅は10寸である。前掲

報告書に「蛇石とは、石材の表面に蛇が這つたような細長い溝状の窪みがあることからつけられた名称」とあり、前掲内牧考にも「表面中央部凹んで、蛇腹状の凹凸あり」とあつて命名の理由がわかる。

インターネット情報(内牧・鎌の立石・平井大師)では、横の細長い溝を大蛇(山の主)の口と見て、眼の部分にステッキで示した人もいるが、地元の人々の伝承と異なり、勘違いである。「蛇はみ」を「うわはみ」と誤読しているサイトがあり、やはり、蛇石を巳さん(大蛇、うわばみ)と思ひ込んで

いる。この付近の小字名は「藤原町史 史料編」(平成3年)によれば「蛇ハミ(ジャハミ)」である。蛇がこの石の表面を這つて食み、その跡が溝状の窪みになってるのが地元で伝わる命名の由来であり、大蛇ではない。

鎌神社背後の斜面で縄文時代の凹石(直径8寸)が採集されている(前掲報告書)が、鎌の立石をマニアの言

うメンヒル(真立石)と考えることはできないし、星座との関係もまずありえない。巨石文化の遺産に夢はせるロマンは楽しいけれど、蛇石を古代呪術の霊石(高田説)や水銀朱を分離・精製する装置(藤原説)と考えるのも無理があるだろう。

蛇石から戻り、林道内牧カラト線をたどる。鎌太郎への入口の立石を過ぎ、鎌立石群の道標の地点に至る。左の駐車場から上の東屋目指してジグザグに上がる。内牧区民の森に設置された東屋からの展望は良く、正面には伊那佐山が急峻な姿を見せている。西へくみると林道に出て、左側にトイレもある。右側の分岐道に入り、鎌神社上之宮に向かう。朱鳥居をくぐって石段を上がれば神社である。

鎌神社の祭神は高麗(高加美神)である。背後の鎌山(山頂にカンノン塚がある)を遙拝する場所に神殿が立てられ、雨の神に祈雨を願う古来の鎌信仰を示すものである。

トイレに戻り、その裏側の道に入る。

出た所は林道で、すぐ左で舗装道に出るが、右へ折り返して地道林道をたどる。50ほど進むと左側に道標があつて、平井大師を案内しているが、まっすぐ林道をたどろう。道標から450ほど先が阿蘇神社の入口である。

地道林道を200ほど進むと右に分岐があるがそのまま通り過ぎて、140ほど先でコンクリート舗装(80ほど続く)になり、再び地道になって30ほど先の右側に登り道がある。その道から上がる

と小屋があつて、そのすぐ先の右に太鼓橋のような石積み、上に小祠、石灯の火袋と笠があり、阿蘇神社である。

【苑野町史】(昭和43年)に、阿蘇神社は「平井の北部」で、平井大師は「阿蘇神社の南方の山地にある」とされるが、該当地になく、幻の神社と呼ぶ人もいた。実際には、「平井の東部」

【阿蘇神社の西方」であった。

阿蘇神社は熊本県の神社から勧請されたものだろう。祭神は阿蘇大明神(雨の神)で、水神、竜神、雷神、山の神ともいわれる。奥には阿蘇湯があ

り、雨を祈禱する行場である。

内牧西口バス停で、鎌原駅行きの時刻は16時54分、18時35分(最終)である。余裕があれば、そのまま林道をくだり、バス停に向かう。時間があれば、道標分岐まで引き返し、平井大師山八十八ヶ所巡り(所要20分程)のあと、水呑峠を経て、バス停に向かうとよい。道標分岐からの下り道は始めは荒れていて歩きにくい。檜林に入ると明るくなるが、杉林では薄暗いので注意されたい。

(平成20年10月4日・18日、11月15日 歩く)

#### ☆コースタイム☆

内牧西口バス停(25分) 鎌石(15分)  
鎌三郎(10分) 鎌太郎(10分) 蛇石(20分) 東屋(5分) 鎌神社(15分)  
カンノン塚(30分) 奥宮社(20分) 阿蘇神社(バス停まで25分) (25分) 平井大師(40分) 内牧西口バス停  
△地形図▽  
2万5千1古市場・高見山

入口に道標(石山みち、左うちのまき)と石仏がある。平坦な道が続く。途中の分岐では左に進む。中腹の道から鞍部に入る。振り返ると背後は急坂になつていて鎌山への入口である。上がつて、最高地点で右を探るとそこが山頂であり、土まんじゅう形のカンノン塚がある。塚の上に自然石に陽刻された石仏(観音菩薩立像)がある。鎌神として奉安されたものらしく、かつては鎌神社から遙拝されていたと伝えられている。

カンノン塚から元の道に戻る。トイレの横に出て、林道内牧カラト線を西へ150ほど歩いて左に分岐している山道に入る。ササが茂り、杉林に入ると薄暗い。次の分岐点の右手に山の神の小祠がある。道は三方向に分かれるが右をとる。道が左へ廻り込んだあと、右に分岐道が現れる。この道の終点に鳥居と小祠がある。大神集落の神(御子美牟須比命神社(三輪の大神神社の奥宮)の奥宮社である。

奥宮社から元の道に戻り、左に進む。



# せせらぎ

山に関する最新の情報をお寄せください。  
 1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の会員番号・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字 小林義三

北国育ちなのに寒さを好まぬ私、冬季は街道ウォーキングを行い、山歩きは敬遠している。2月中旬の高野街道ウォークで途中、すばらしい富士山観の山を眺めて感激した。土地の人に確かめると、この山は歌尾岳、別名天見富士とのこと。晴天下にカメラのシャッターを押しながら国道を進むのだが、あたりの景色も何かしら見覚えある。

(548頁)に〇印が付いている。登山済みだったのである。写真帳には、一駅付近では天見富士の上方しか見られないため、天見川を渡って国道へ出たと記している。それ故、今回のウォーキングでも何かしら頭をかすめるものがあつたのだ。 (牧方市 東谷 宏)

を越え、ブタ海岸に下り、砂浜から再び尾根に取り付き。狭い頂上にはアオノリユウゼツランの穂が槍のごとく立つ。展望良く、特に見島方面の火山起源の小島群がすばらしい。野生ヤギやクマネズミに出会ったり、ハマボウ・ヒルガオ・ハスノハギリ・ホナガソウなどの花が見られた。往復3時間半。

下山途中で三角点(339.0)を往復するが、展望は山頂より劣る。往復2時間半。(名古屋市 酒井勝彦)

さが違う。春の山行にはいっぱい楽しんで行き、仲間に配っている。

(近江八幡市 岩野 明)

伊賀市の北西にあって、甲賀市と境をなす高取山(710.1m)。その二等三角点からすばらしい眺望を楽しむことができる。

(伊賀市 高田繁久)

昔々の案内書、高城式の「日本山誌」、住友山岳会の「近畿の山と谷」に紹介されたことがあったとはいえ、地理院の地形図2万5千(烏ヶ原)に山名が載っていない。

(伊賀市 新居地区の住民自治協議会はその活動として、高取山登山道の整備に地域ボランティアを募って取り組み、昨秋、完成を見た。山頂一帯のササの群生は人海戦術、三角点への急登

は奥木階段の新設、弱い道筋には丸太を渡して……。また、手洗いやトイレが用意されたり、所要所に案内板(緑地に白の矢印)が設置されたり……。以前を知るものには、あの、すさまじいやぶ過ぎがウソのよう。登るの面白いが勧めです。

「風をたに恋ふるはともし風をだに來むとし得たば何か喚かむ」(鏡王女の歌だ)。

12月7日、忘年山行で勢州峠と梵天(天の尾)へ。見晴らしが良かったが寒かった。

20日、奥矢作湖海駒山に行つたが、山頂の小鳥寺は荒廃していた。



### 山行計画 (5・6月)

※ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ(夫婦は一括)往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確定のうえ申し込み込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなかった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(並行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

- ・ 死亡・後遺障害保険 金額 10000万円
- ・ 入院保険金 日額 5000円
- ・ 通院保険金 日額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで、事故があった場合は解散まで係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④積泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本誌まで)

### (記入例) (往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

### 山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があるります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ず記入してください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはつきりせず、交通機関への手配等、費用もはつきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込み込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐにご返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
  - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
  - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(3時間コース)
  - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
  - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
  - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やぶ消きの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(係から連絡はしません)。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようお願いいたします。

5月	行先	定員	リーダー
2(出)	湖西・箱館山・滝谷山	24	狩野
3(出)	鈴鹿・滝谷山・大見嘴・万野	*	岩野
4(出)	湖北・池内内原	24	村田
6(出)	湖西・山門水源の森	24	村田
7(休)	室生・牛ヶ平山	27	西上
9(出)	敦賀・三角点「緑谷」		高島
9(出)	奥美濃・花房山	20	鷺見
9(出)〜10(回)	飛騨・天蓋山・大黒山	10	山田
10(回)	鈴鹿・日本コバ	24	森脇
10(回)	比良・福梅ノ滝・ヤケオ山		栗
10(回)	飛鳥・サイクリング・欽徳山	10	山口
12(休)	京都北山・コメカイ尾根道・保津峠		仲谷
14(休)	三重・高峠山	27	西上
17(回)	湖北・玄妻尾城・行市山	40	村田
17(回)	鈴鹿・リョウシ	*	岩野
20(休)	鈴鹿・音羽城跡・猪の鼻ヶ岳	40	金谷
21(休)	大峰・柏原山・高尾山	27	西上
23(出)〜24(回)	紀南・横ヶ先・鬼ヶ城・大吹峠	15	船尾
24(回)	奈良・高取山		塚元
30(出)	北摂・有馬富士		村田

\*リマーカー山行

6月	行先	定員	リーダー
4(休)	大峰・行者遺骨	27	西上
6(出)	美濃・伊吹北原根	20	鷺見
7(回)	鈴鹿・御池岳	*	岩野
7(回)	朽木・三國岳	24	森脇
7(回)	美濃・焼山	10	山田
9(休)	比叡・比叡アルプス・霧笠山		仲谷
11(休)	台高・薊岳	27	西上
13(出)	湖西・黒河峠・栗柄尾	24	狩野
13(出)	敦賀・三内山		高島
14(回)	湖北・天吉寺山	40	村田
14(回)	比良・坂下・蓮葉山		栗
14(回)	伊賀・サイクリング・赤目四十八滝	10	山口
17(休)	京都東山・加賀ヶ岳・志賀越		金谷
18(休)	奥美濃・牛道山	26	西上
20(出)〜21(回)	但馬・鉢伏山・津川山	26	村田
21(回)	鈴鹿・猿ヶ山・比婆山・イワス	*	岩野
27(出)	奈良・三輪山・山の辺の道		村田

\*各計画の概要は次ページ以降で紹介している。



**週末ハイク92**  
湖西・箱館山から滝谷山  
(二般向き)

5月2日(土) 日帰り **貸切バス**  
集合 J R京都駅八条口団体  
バスのりば7時40分  
行程 京都駅(バス)ピラデ  
スト今津→箱館山→処  
女湖→滝谷山登山口→  
滝谷山→近江坂→ピラ  
デスト今津(入浴・パ  
ス) 京都駅(解散19時  
頃)  
費用 約3000円(京都か  
らバス代)  
地図 2万5千 熊川・海津  
係 ◎狩野東彦  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
石楠花が咲く箱館山から新  
緑のブナ林が美しい滝谷山を  
歩く。雨天中止

鈴鹿を歩く310  
滝谷山・大見晴・万野  
(やや難所向き)

5月3日(日) 日帰り **マイカー**  
集合 国道307号線多賀町  
役場広場8時30分  
行程 広場(車)御池林道近  
江坂の峠→ミノガ峠→  
滝谷山→ミノガ峠→大  
見晴→万野→ユリゴ峠  
→近江坂(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲  
仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明◎山田景三  
◎後藤康幸  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
滝谷山とミノガ峠から大見  
晴・万野、幻のユリゴ峠、近  
江坂と稜線を歩く新ルートで  
す。雨天中止

湖北・池河内湿原  
(初級向き)

5月4日(祝) 日帰り **貸切バス**  
集合 J R京都駅八条口団体  
バスのりば8時00分  
行程 京都駅(バス)中河内  
→長野尾越→池河内湿  
原散策コース→案内板  
(バス) 京都駅(解散16  
時)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千 中河内・敦  
賀  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員24名  
池内内湿原の自然と花を訪  
ねる。雨天中止

湖西・山門水源の森  
(二般向き)

5月6日(祝) 日帰り **貸切バス**

集合 J R京都駅八条口団体  
バスのりば8時00分  
行程 京都駅(バス)山門水  
源の森入山口→北部湿  
原→アカガシの森→ブ  
ナの森→ヒノキの森→  
南部湿原→入山口(バ  
ス) 京都駅(解散16時)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千 木ノ本・駄  
口  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員24名  
自然の息吹を感じながら森  
林浴を楽しみましょう。  
雨天中止

室生・牛ヶ平山(二般向き)

5月7日(休) 日帰り **貸切バス**  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口9時00分  
行程 橿原神宮前駅(バス)

染谷峠 P842 牛

ヶ平山→梅坂峠(バス)  
橿原神宮前駅(解散15  
時30分)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千 高見山  
係 ◎西上和利  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員27名  
室生の干支の山。山頂は植  
林で展望はありませんが、縦  
走路からは台高の高見山や菟  
田野の山々が一望できます。  
少しやぶもあります。  
雨天中止

費用 交通費各自

地図 2万5千 敦賀  
係 ◎高島伸浩  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
1月の旗護山からさらに北  
へ足をのばす。敦賀市街や若  
狭湾の展望が良い。雨天決行

自然観察山行266  
奥美濃・花房山(二般向き)

5月9日(土) 日帰り **貸切バス**  
集合 J R大垣駅7時30分  
行程 大垣駅(バス) 御山神  
社→登山口→標高70  
8m地点→花房山→  
(往路)→御山神社  
(バス)大垣駅(解散)  
費用 約4500円(大垣駅  
からバス代等)  
地図 2万5千 谷汲・横  
山・樽見・美濃広瀬  
係 ◎鷺見守康  
申込 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1

展望の山56  
飛騨・天蓋山と大嵐山  
(二般向き)

5月9日(土)夜→10日(日)  
前夜発1泊2日  
集合 (9日) J R西岐阜駅  
19時00分  
行程 (9日) 西岐阜駅(車)  
上宝民宿(泊)  
(10日) 民宿(車)上之  
村→天蓋山(往路)→  
上之村(車)岩井谷→大  
嵐山(往路)→岩井  
谷(車)西岐阜駅(解散)  
費用 約10000円(宿  
泊・車代等)  
地図 2万5千 下之本  
係 ◎山田明男

申込 〒503-0535

海津市南邊町松山624の  
19  
山田明男まで  
\*定員10名  
神岡の天蓋山と、昨年の方  
支の山大嵐山に挑戦です。深  
瀬湿原も見たい。雨天決行

近江の山シリーズ21  
鈴鹿・日本コバ(二般向き)

5月10日(日) 日帰り **貸切バス**  
集合 J R京都駅八条口団体  
バスのりば7時30分  
行程 京都駅(バス) 夢畑  
(如来堂)→岩屋→日  
本コバ→衣掛山→政所  
(バス) 京都駅(解散17  
時頃)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千 百濟寺  
昭文社「御在所・雲  
仙・伊吹」  
係 ◎森脇貞義  
申込 〒610-0121

敦賀の山  
三角点「緑谷」(初級向き)

5月9日(土) 日帰り  
集合 J R敦賀駅9時00分  
行程 敦賀駅(車) 関峠→旗  
護山→三角点「緑谷」  
→(往路)→関峠(車)  
敦賀駅(解散)



城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名

日本コバ山頂からは、綿向山、雨乞岳、雲仙、伊吹山が見える。春の花を愛でながら歩きます。雨天中止

比良を歩く75  
榑梅ノ滝からヤケオ山  
(一般向き)

5月10日(日) 日帰り  
集合 J R北小松駅9時00分  
行程 北小松駅—榑梅ノ滝—  
(龍滝・雄滝)—涼峠—  
ヤケ山—ヤケオ山—東  
尾根—大宮川—榑ノ木  
谷—堰堤下—雄松山荘  
北端—近江舞子駅(解  
散)  
費用 約1300円(京都か  
ら)  
地図 2万5千—北小松  
昭文社「比良山系」  
係 ◎秦 康夫  
申込 〒61010121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
湖西線から見える榑梅ノ滝  
鑑賞とヤケオ山東尾根くんだり  
です。雨天中止

サイクリング&登山21  
飛鳥路と鞍傍山(一般向き)

5月10日(日) 日帰り  
集合 近鉄飛鳥駅9時10分  
行程 飛鳥駅前(サイクリン  
グ)—飛鳥歴史公園館  
—高松塚壁画館—天  
武—持統天皇陵—亀石  
—川原寺跡—石舞台—  
酒舟石—万葉文化館  
—)—鞍傍山登山口  
(駐輪)—鞍傍山—鞍傍  
山登山口(サイクリン  
グ—)—榑原神宮前駅  
(解散)  
費用 自転車レンタル代12  
00円  
地図 2万5千—鞍傍山  
係 ◎山口敏明  
申込 〒51810755

名張市緑が丘中144  
山口敏明まで  
\*定員10名

飛鳥駅前まで自転車をレンタ  
ルし、飛鳥路のサイクリング  
を楽しみます。大和三山の一  
つ鞍傍山に登り、飛鳥の都を  
偲びます。マイ自転車での参  
加OK。雨天中止

火曜ハイク58  
愛宕山シリーズ20  
コメカイ尾根道から保津峡  
(一般向き)

5月12日(火) 日帰り  
集合 清滝バス停9時20分  
行程 清滝バス停—落合—コ  
メカイ尾根道—七合目  
出合—旧駅舎跡—水尾  
分れ—炭焼き跡—中尾  
根—保津峡駅(解散15  
時頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎仲谷礼司・沖 伸  
申込 〒61010121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
モチツツジの時期に間に合  
うだろうか。急な登りもあり  
ますが、旧コメカイ道は静か  
な尾根道です。雨天中止

三重・高峠山(一般向き)

5月14日(木) 日帰り  
集合 近鉄榑原神宮前駅8時  
05分  
行程 榑原神宮前駅(バス)  
林道—七日市乙栗子線  
—中尾谷川登山口—高  
鉢山南峰—北尾根—高  
鉢山—作業道脇谷線—  
乳峰神社(バス)—榑原  
神宮前駅(解散16時)  
費用 約3500円(バス代  
2万5千—七日市—音  
野)  
地図 ◎西上利和  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員27名

涼しい谷道から、山頂直下  
のヒトリシズカの群生地を訪  
ね、展望抜群の山頂でゆっく  
りと昼食を楽しみます。  
雨天中止

湖北  
玄蕃尾城から行市山  
(一般向き)

5月17日(日) 日帰り  
集合 J R京都駅八条口団体  
バスのりば7時30分  
行程 京都駅(バス)柳ヶ瀬  
登山口—久々坂峠—三  
角点「柳ヶ瀬」—玄蕃  
尾城跡—久々坂峠—県  
境尾根—行市山—別所  
山—中之谷山—毛受兄  
弟墓(バス)—京都駅  
(解散18時頃)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千—中河内・木  
之本  
係 ◎村田智俊  
申込 〒61010121

城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員40名

鈴鹿を歩く311  
リョウウシ(龍脚向き)

5月17日(日) 日帰り  
集合 河内線風穴手前寺院広  
場8時30分  
行程 広場(車)権現谷白谷  
橋広場—リョウウシ—岩  
峰—滝谷出合—重谷—  
横道—長サコ—権現谷  
—広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・霊  
仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明◎山田景三  
◎後藤康幸  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
白谷出合から道の無い岩場

を登り、若むした石灰岩の岩  
壁からリョウウシの岩峰へ。下  
りは杉林の旧シユリノサコの  
急斜面を一気に権現谷にくだ  
ります。雨天中止

北山ちよつと歩き109  
鈴鹿・音羽城跡から猪の鼻  
ヶ岳と鑓掛しやくなげ谷  
(一般向き)

5月20日(水) 日帰り  
集合 J R京都駅八条口8時  
20分  
行程 京都駅(バス)日野町  
音羽—音羽城跡—猪の  
鼻ヶ岳—鑓掛谷—宝殿  
林道—音羽城跡—音羽  
(バス)—京都駅(解散18  
時頃)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 昭文社「御在所・霊  
仙・伊吹」  
係 ◎金谷 昭◎谷 守  
申込 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
\*定員40名  
\*マイカー参加可。  
その旨明記して下さい。  
音羽城跡から猪の鼻ヶ岳に  
登り、シヤクナゲで有名な鑓  
掛谷にくだって音羽城跡に戻  
ります。時間に余裕があれば、  
東の砥山にも立ち寄ります。  
雨天中止

大峰・柏原山から高麗山  
(一般向き)

5月21日(木) 日帰り  
集合 近鉄榑原神宮前駅8時  
05分  
行程 榑原神宮前駅(バス)  
黒滝村—柏原山—鉄塔  
展望所—四寸岩山—高  
原山—福源寺(バス)  
榑原神宮前駅(解散17  
時)  
費用 約3000円(バス代  
2万5千—河川  
係 ◎西上利和  
申込 〒61010121



城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員27名  
展望の良い大峰の稜線と高  
原尾根に咲く紅シヤクヤクが  
お目当て。雨天中止

三重の山103  
紀南・伊勢路を歩く  
楓ヶ崎・鬼ヶ城・大吹峠  
(一般向き)

5月23日(土)24日(日)  
1泊2日

集合 (23日) 尾鷲「古道セ  
ンター」10時00分  
行程 (23日) 古道センター  
(車) 橋ヶ崎入口→橋  
ヶ崎→橋ヶ崎入口(車)  
鬼ヶ城跡(車) 民宿  
「ネモダイブリゾート」  
(泊)  
(24日) 民宿(車) 大  
泊駅(電車) 新鹿駅→  
波田須神社→除福の宮  
→大吹峠→大泊駅(車)  
古道センター(解散15

新ハイキング関西まで  
\*定員27名(全員に限る)  
好展望の奥街道とクサタチ  
バナの群生地を巡る花紀行で  
す。雨天中止

自然観察山行267  
美濃・伊吹北尾根  
(一般向き)

6月6日(土) 日帰り 貸切バス  
集合 JR大垣駅9時00分  
行程 大垣駅(バス) 国見峠  
→大荒山→御座峠→静  
馬ヶ原→笹又→さざれ  
石公園(バス) 大垣駅  
(解散)  
費用 約4500円(大垣駅  
からバス代等)  
地図 2万5千≡美東・関ヶ  
原  
係 ◎鷺見守康  
申込 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨町1  
の19の5  
\*定員20名(申込状況に

時短  
費用 約10000円(宿泊  
代等)

地図 2万5千≡尾鷲・九  
鬼・質田・磯崎  
係 ◎稲垣逸夫  
申込 〒519-0311  
鈴鹿市大久保2065  
稲垣逸夫まで  
\*定員15名

波田須は除福伝説の里。鎌  
倉期のものかといわれている  
巨岩の石壁が圧巻。大吹峠の  
竹林の中の古道も素敵です。  
雨天決行

地図 関ヶ崎山行92  
飛鳥・高取山(一般向き)

5月24日(日) 日帰り  
集合 近鉄高取山駅9時40分  
行程 高取山駅→高取寺→羅  
漢岩→八幡神社→高取  
山→猿石→稲森→稲淵  
→高松塚古墳→飛鳥駅  
(解散)  
費用 交通費各自

より減員あり  
初夏の北尾根を歩きます  
小雨決行

鈴鹿を歩く312  
御池岳を遺遊(一般向き)

6月7日(日) 日帰り マイカー  
集合 国道306号線鞍掛ト  
ンネル近江御池場8時  
30分  
行程 広場→鈴鹿岳→元池→  
日本庭園の池→夕日の  
テラス→丸池→風池→  
ボタンブチ→幸助の池  
→南峰→丸山→池の平  
→真ノ池→鈴鹿岳→鞍  
掛トンネル広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲  
仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明◎山田登三  
◎後藤康幸  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
広大な草原を歩き、ボタン

地図 2万5千≡畷傍山  
係 ◎塚元一彦◎中村 登  
申込 〒536-0008  
大阪市城東区関目4の  
14の9の901  
塚元一彦まで

新ハイキング関西支部合同  
地形図とコンバスの使い方が  
わかると山座同定がピタリと  
ままります。シルバード型コ  
ンバスをご持参ください。初  
心者歓迎。雨天中止

金剛山ハイキング17  
北摂・有馬富士(初級向き)

5月30日(土) 日帰り  
集合 JR新三田駅9時30分  
行程 新三田駅→福島大池→  
千丈寺湖分岐→有馬富  
士→芝生広場→葛湖園  
→中央病院前→石標群  
→三輪神社→三田駅  
(解散15時頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千≡三田・薬本  
係 ◎村田智俊

ブチ、南峰、丸山から池の平  
の池を巡って鞍掛にくだりま  
す。雨天中止

近江の山シリーズ22  
朽木・三國岳(一般向き)

6月7日(日) 日帰り 貸切バス  
集合 JR京都駅八条口団体  
バスのりば7時30分  
行程 京都駅(バス) 桑原橋  
登山口→久多越→三國  
岳→岩谷峠→登山口→  
林道→古屋(バス) 京  
都駅(解散17時頃)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千≡久多  
昭文社「京都北山」  
係 ◎森脇貞義  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
山城・丹波・近江に接する  
三國岳に登ります。頂上から  
武奈ヶ岳、蛇谷ヶ峰、百里ヶ

申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

金曜ハイクはリーダーの都  
合でしばらく土曜日に実施し  
ます。福島大池周辺の「有馬  
富士森林公園」をゆっくりと  
散策し、有馬富士に登ります。  
雨天中止

大峰・行者遺岳(一般向き)

6月4日(木) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅8時  
05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
トンネル東口→奥新橋  
線→お花畑→行者遺岳  
小屋→行者遺岳→お花  
畑→ノタワートンネ  
ル東口→橿原神宮前駅  
(解散19時)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千≡弥山  
係 ◎西上利和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

岳が望める、サルメンエビネ  
にはもう遅いか? 雨天中止

奥美濃の山57  
美濃・焼山(健脚向き)

6月7日(日) 日帰り  
集合 JR勝川駅6時40分  
行程 勝川駅(車) 黒井沢→  
上手山峠→焼山→(往  
路)→黒井沢(車) 勝  
川駅(解散)  
費用 交通費各自(車代等約  
3000円)  
地図 2万5千≡美濃・焼山  
係 ◎山田明男  
申込 〒503-0535  
海津市南濃町松山624の  
19  
山田明男まで  
\*定員10名  
岐阜百山ですが、激やぶ漕  
ぎになります。雨天中止



火曜ハイイク59

比叡  
比叡アルプスから雲笠山  
(二般向き)

6月9日(火) 日帰り  
集合 JR京都駅中央改札口  
9時00分  
行程 京都駅(バス) 地蔵谷  
登山口→比叡アルプス  
—一本杉→白鳥越→雲  
笠山→JR唐崎駅(解  
散16時30分頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社『「京都北山」  
係 ◎仲谷礼司◎沖 伸  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
穏やかな尾根道から白鳥越  
の道へ。昔の道を歩いてみま  
す。雨天中止

台湾・前岳(二般向き)

6月11日(木) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅8時

\*定員40名

信長に焼き払われた天吉寺  
奥の山に登ります。下山は廃  
道に近い尾根をたどる。  
雨天中止

比叡を歩く76  
坂下から蓬萊山(中般向き)

6月14日(日) 日帰り  
集合 JR堅田駅8時40分  
行程 堅田駅(バス)坂下→  
サカ谷道→小女郎ヶ池  
→蓬萊山→打見山→ク  
ロトノハゲ→天狗杉→  
志賀駅(解散)  
費用 約1800円(京都か  
ら)  
地図 2万5千「花背・比良  
山」  
昭文社『「比良山系」  
係 ◎秦 康夫  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
小女郎ヶ池道とクロトノハ  
ゲ周辺のドウダンツツジはど

05分

行程 橿原神宮前駅(バス)  
委谷林道南尾根登山口  
—二階岳→木ノ実ヶ塚  
—前岳→三ツ塚→明神  
平→大又(バス) 橿原  
神宮前駅(解散16時30  
分)  
費用 約3000円(バス代  
)  
地図 2万5千「大豆生  
係 ◎西上利和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員27名(全員に限る)  
前回と同じく南尾根から取  
り付き、今回はブナ林の若葉  
が美しい東尾根を縦走します。  
雨天中止

週末ハイイク93

高島トレイル②  
黒河峠から栗柄越  
(二般向き)

6月13日(土) 日帰り 貸切バス  
集合 JR京都駅八条口印体

うでしょう。雨天中止

サイクリング&登山22  
伊賀路と赤目四十八滝  
(二般向き)

6月14日(日) 日帰り  
集合 近鉄赤目口駅9時10分  
行程 赤目口駅(サイクリン  
グ→柏取→長坂)→  
赤目滝入口(駐輪)→  
赤目四十八滝散策→赤  
目滝入口(サイクリン  
グ→琵琶湖→赤目滝  
入口→長坂→柏取)→  
赤目口駅(解散15時)  
費用 500円(赤目滝入場  
料)  
地図 昭文社『「赤目・俱留  
尊高原(旧版)」  
係 ◎山口敏明  
申込 〒518-0755  
名張市緑が丘中144  
山口敏明まで  
\*定員10名  
新緑の伊賀路をサイクリン  
グし、赤目滝を散策します。

パスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)黒河越  
林道入口→黒河峠→三  
国山→明王禰→赤坂山  
→栗柄越→マキノスキ  
ー場(バス・入浴)京  
都駅(解散18時30分頃)  
費用 約3500円(バス・  
入浴代等)  
地図 昭文社『「比良山系」  
係 ◎狩野東彦  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員24名  
花の赤坂山を巡る高島トレ  
イルを歩きます。雨天中止

敦賀の山  
三内山(二般向き)

6月13日(土) 日帰り  
集合 JR敦賀駅9時00分  
行程 敦賀駅(車)清掃セン  
ター→三内山(往路)  
→清掃センター(車)  
敦賀駅(解散)

サイクリングコースはゆるや  
かな坂道もありますが楽なコ  
ースです。  
\*MTBレンタル(3000円)  
は3名まで。雨天中止

北山ちよっと歩き110  
京都東山  
如意ヶ岳から志賀越  
(二般向き)

6月17日(水) 日帰り  
集合 JR山科駅9時00分  
行程 山科駅→毘沙門堂→鬼  
門(3811)→京滋  
尾根→雨社→如意ヶ岳  
→池谷地蔵→比叡平→  
大津市営牧場→志賀越  
→志賀大仏→京阪志賀  
里駅(解散14時30分頃)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千「京都東北部  
係 ◎金谷 昭◎谷 守  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで

費用 交通費各自

地図 2万5千「敦賀  
係 ◎高島伸浩  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
登山ルート無し。やぶ漕ぎ  
愛好者向けの山。雨天決行

湖北・天吉寺山(二般向き)

6月14日(日) 日帰り 貸切バス  
集合 JR京都駅八条口印体  
バスのりば7時40分  
行程 京都駅(バス)野瀬→  
大吉寺→天吉寺跡→天  
吉寺山→コル→尾根道  
→鉄塔→大吉寺分岐→  
野瀬(バス) 京都駅  
(解散17時頃)  
費用 約3000円(京都駅  
からバス代)  
地図 2万5千「虎御前山  
係 ◎村田智俊  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
村田智俊まで

静かなコースを歩き、比叡  
平を経て志賀越します。  
雨天中止

奥富野・牛廻山(初般向き)

6月18日(月) 日帰り 貸切バス  
集合 近鉄橿原神宮前駅中央  
口8時05分  
行程 橿原神宮前駅(バス)  
横ノ越→牛廻山→横ノ  
越(バス) 橿原神宮前  
駅(解散16時)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 2万5千「熊里  
係 ◎西上利和  
申込 〒610-0121  
城陽市寺田大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員26名  
千支の山で近畿百名山の山  
新緑の季節を楽しみのんびり  
登ります。雨天中止



**山菜狩り山行**  
但馬・鉢伏山と静川山  
(初級向き)

6月20日(土)・21日(日)  
1泊2日  
集合 (20日) J R新大阪駅  
正面口7時40分  
行程 (20日) 新大阪駅(バス) ハチ北高原―鉢伏山―「ひさ家」(泊)  
(21日) 宿―静川山―宿(バス) 大坂駅(解散18時頃)  
費用 約18000円(宿泊・バス代)  
地図 昭文社「水ノ山・鉢伏」  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで  
\*定員26名  
ハチ北高原の山菜狩りと登山を楽しむ。宿では山菜料理がいっぱい。雨天決行

鈴鹿を歩く3日  
猿ヶ山・比婆山・イワス  
(健脚向き)

6月21日(日) 日帰りマイカー  
集合 河内線屏風岩下広場8時30分  
行程 広場(車) 嵐ヶ山―高畑―院広場―突谷―高畑―猿ヶ山―比婆山―イワス―大向―屏風―広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・靈仙・伊吹」  
係 ○岩野 明 ○山田景三 ○後藤康幸  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 新ハイキング関西まで  
ほとんど知られていないコース。苦むしたカレンフェルトの岩稜とすばらしい樹林。下りの大向は岩稜のやぶ漕ぎがあり、秘境のルートです。雨天中止

金曜里山ハイキング  
奈良・三輪山と山の辺の道  
(一般向き)

6月27日(日) 日帰り  
集合 J R三輪駅8時40分  
行程 三輪駅―大神神社―狹井神社―水行場―神城―休息所―三輪山―(往路)―狹井神社―金屋の石仏―海柘榴市跡―桜井駅(解散15時)  
費用 交通費各自(入山料300円)  
地図 2万5千 桜井  
係 ○村田智俊  
申込 〒610-0121 城陽市寺田大野10の10 村田智俊まで  
大神神社にご神体の三輪山に登り、山の辺の道南端を歩く。雨天中止

大阪低山跋涉会  
大阪府岳連加盟

主に近畿周辺の山々を日帰り楽しんでるグループです。今年で29年目になり、歴史ウォークや山麓ハイキング等の種々ハイキング、及び初級・中級登山、時には道も無い登山にも登ります。例年は日曜・祝日だけでなく平日山行も開催しています。40〜70歳位までの山と自然が好きな方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。  
〒565-0831 吹田市五月が丘東6番C-108 矢杉和彦まで

**山行報告**  
(1・2月号)  
新ハイキングクラブ関西

**南勢・相賀浅間山から局ヶ頂**  
1月4日(日) 晴れ  
(集合) J R京都駅7:40(バス) 相賀浦相生橋10:30―旧相賀小学校10:35―45―相賀浅間山11:00―展望コース分岐11:15―切間の八分岐11:55―局ヶ頂12:20(昼食) 13:10―展望コース休憩ベンチ14:05―20―相生橋14:50―15:00(バス) 京都駅18:00(解散)  
春のような陽光きらめく太平洋の水平線を眺め、南伊勢の湾内を見下ろしながらのんびりと歩いた。山頂でもポカポカ陽気のなか、久しぶりにゆつくり食事できた。路傍にスミレが咲き、スイセンも咲き始めていた。  
(参加者) 中尾博子 水見真砂子 渡部和美 多賀久子 松上美代子 塩尻香織 小谷和子 岡安紀佳

**湖西・大谷山**  
(近江の山シリーズ17)  
1月11日(日) 晴れ  
(集合) J R京都駅7:30(バス) マキノ高原9:35―登山口9:40―50―尾根取付11:25―P562―12:45(昼食) 13:35―マキノ高原14:35―15:00(バス) 京都駅16:46(解散)  
昨夜の降雪で一気に40cm以上の積雪。トレースが無くラッセルを交番しながら進んだが、大谷山はおろか、寒風までほど遠くP562までで時間切れ。昼食後引き返しだが、すばらしい天気だけが救いだ。だ。だ。  
(参加者) 岩佐 修 武部美美子 多賀久子 宮野哲郎 宮野綾子 竹内正子 仲谷礼司 小栗大直 林 正義 紀田信生 船本裕巳子

**入道ヶ原・スモトリコバ**  
(鈴鹿を歩く303)  
1月11日(日) くもりのち晴れ  
(集合) 水源寺町役場8:30(車) 佐日若宮八幡8:50―L162鉄塔10:35―50―入道ヶ原三角点11:40―鞍部広場11:55(昼食) 12:45―スモトリコバ14:05―10―相谷国道口15:00(車) 佐日(車) 水源寺町役場15:50(解散)  
佐日集落の商店の駐車場をお借りし、若宮八幡から輪カンで出発。沢沿いの鉄塔巡視路を深雪と格闘しながら進み、鉄塔では見晴らし良好で記念撮影。入道ヶ原三角点の標石は雪の中。鞍部広場でなかなかランチタイム。食後はスモトリコバへ。晴れていて気持ちのよい雪山歩きとなった。

**京都北山・牛松山から保津峡**  
(大晦ハイク50)  
1月13日(火) 晴れ時々小雪  
(集合) J R亀岡駅8:30―46(バス) 毘沙門8:53―和らぎの里9:00―10―愛宕神社9:20―25―登山口9:30―牛松山山頂10:50(昼食) 11:40―鞍部12:05―愛宕谷川林道12:45―55―明智支尾根13:30―明智尾根合流14:00―明智尾根北分岐14:20―三角点14:25―40―保津峡駅15:35―45(解散)  
降水確率は高かったが雪の情報なので実施する。近年にちなんだ登った牛松山は雪で薄化粧。早い昼食を済ませ、奥へと進むと小枝に積もった雪も多くなり、谷道も

竹内正子 荒木光雄 中嶋日出男 下山 登 下山誠公 久保田順一 小池一郎 堅田 弘 志水明美 長沢祐美 木村相恵 木内龍文 吉野榮子 上田裕子 安田文美江 水富律子 高木忠夫 ○小栗大直 ○村田智俊 (計27名)

岩崎健司 長沢佑美 山高多恵子 金森節子 高橋舜治 佐藤優美子 小池一郎 和尾純子 大園加代子 三野 旭 小尾末吉 飯屋いずみ 西居俊彦 岡崎知子 飯屋てるみ 須藤浩子 栗栖崇吉 夏山春子 山根弘美 ○村井寿和 ○森脇貞義 (計32名)

(参加者) 織部 純 大西脩郎 森村 守 木下朝子 中澤真司博 水戸鉄治 武村千鶴 奥野太一郎 服部 亮 池田繁美 高原芳彦 櫻田勝利 岩本彰子 居原田幸弘 多田 徳 三上伸夫 森 美香子 稲津謙治 織部龍一 一芝美知子 ○一芝義雄 ○山田景三 (計23名)



時間をかけた。雪山の風情を十分楽しんだ一日になった。

(参加者) 須藤浩子 木村 豊

山本軍司 林 正義 中嶋日出男  
西木律子 大林 進 橋本正子  
園田恵章 川上久敏 小川富士雄  
夏山春子 塩尻香織 山岸勝雄  
下野正年 清 紀嘉 岡田史一郎  
磯田安弘 鮫田二郎 今村あやの  
渡部和美 小谷和子 野末あや子  
今泉 熱 後藤純子 永見真砂子  
竹田善英 妹尾一正 森 和久  
角江朝子 小石浩子 大東 哲  
山縣勝美 ○船本節巳子  
○長尾一介 ○沖 伸  
○神谷礼司 (計37名)

美濃・旗護山

1月17日(出) 晴  
(集合) JR敦賀駅9・00(車) 関  
峠登山口9・40(旗護山11・30  
(昼食) 12・20(注路) 関峠登  
山口13・45(解散)  
積雪50cm。雨によって重たくな  
った雪を全員カンジキを着け、交  
替しながらのラッセルで登った。  
(参加者) 堀江房廣 穴戸喜久江  
高木忠夫 岡道正男 光川二美子

松本忠雄 ○高島神池 (計7名)

京滋・岩間寺から醍醐寺  
(北山ちよつと歩き10分)  
1月17日(出) 晴れ  
(集合) JR石山駅9・20(バス)  
岩間寺9・50(10・05) 岩間山  
10・15(10・25) 奥宮神社10・35(清  
龍宮11・15) 宇治市野外活動  
センター12・00(昼食) 12・50(上  
醍醐山宮13・50) 14・00(横  
嶺峠14・15) 女人堂15・00(三寶  
院15・05(解散)  
西国三十三ヶ所の十二番岩間寺  
から十一番醍醐寺への高札道を歩  
いた。小春日和のなか、開発によ  
って部分的にしか残っていない旧  
高札道を忠実にたどる里山歩きを  
楽しんだ。

(参加者) 山田景三 松上美代子  
金森節子 上田裕子 沖 紀子  
矢谷豊子 柳川常雄 本家流子  
今村克美 木下朝子 秋田トシエ  
宮崎紀正 川上久堅 草 ひとえ  
武村千鶴 岩田 晃 岩本彩子  
寺井博子 神野孝允 栗栖君子  
小石浩子 小田潤子 加藤國計  
大嶋 勉 高橋英治 兵山繁三

○谷 守 ○旗部 純 (計29名)

京都北山・天ヶ岳から電王岳  
(週末ハイキング)  
1月17日(出) 晴れ時々くもり  
(集合) JR京都駅7・40(10・30(バ  
ス) 大原8・50(9・10) 祝光院  
道防法護ケート9・25(10・30) 栗原  
山分岐10・00(10・05) シヤクナゲ尾  
根分岐10・50(10・55) 天ヶ岳展望台  
11・45(昼食) 12・50(天ヶ岳  
13・00(10・05) 三俣岳13・55(14・  
05) 静原分岐14・20(15・25)  
2(14・30) 薬王取15・15(20・  
17・05) 祝電鞍馬駅17・15(解散)  
積雪が屋根に残る大原の里から  
祝光院林道に入ると浅い雪道が始  
まり、栗原山分岐からは本格的な  
雪道となった。裾裾子の雪解の  
落下を気にしながら歩き、膝丈ま  
で積雪の展望台で昼食。天ヶ岳か  
ら薬王取まではアイゼンを着けて  
追って下山したため道を間違え、  
結局、薬王取へ引き返し、鞍馬駅  
へくだった。

(参加者) 加藤浩二 高松雅子  
須藤浩子 中川光郎 林 正義  
下山 登 下山誠公 下野正年  
大林 進 山内玄次 大岡加代子  
園田恵子 山根弘美 永見真砂子  
岡崎知子 磯田安弘 ○神谷礼司  
○狩野東彦 (計18名)

美濃・榎戸岳

(自然観察山行26)  
1月17日(出) 晴れ  
(集合) JR大垣駅9・00(バス)  
白山神社前駐車場10・20(10・25) 西  
尾根ルート登山口10・40(10・40) 榎戸岳  
12・10(昼食) 13・00(東尾根ル  
12・10) 登山口14・00(白山神社前駐  
車場14・20) 25(バス) 大野温泉  
15・25(入浴) 16・10(バス) 大  
垣駅16・40(解散)

登山道には所どころ残雪があっ  
た。榎戸岳はモミ、ツガの中間温  
帯林に、ブナ科のアベマキが見事  
な山。コルク質の立派な胡皮を眺  
めながら歩いた。山頂からは美濃  
の山々が遠望できた。  
(参加者) 大西篤郎 池田美恵子  
川田位子 小松志信 森野美紀恵  
松村雅子 佐々木三千代

森 美香子 渡部百合江  
○加納由紀子 ○鷺見守康

金剛・伏見峠から葛木岳  
1月18日(出) ○村田智俊  
\*雨天のため中止しました。

美濃・権現山・湯陽寺山

1月25日(出) 晴れ  
\*リッターの都合で18日から25日  
に変更した。  
(集合) JR西岐早駅8・00(車)  
寺尾千本桜公園9・00(権現山  
10・20(西回りルート鉄塔11・00  
板の峠11・15(千本桜公園11・  
35(昼食) 12・05(湯陽寺山13・  
15(20) 千本桜公園13・55(車)  
山根高校15・00(車) 西岐早駅  
16・00(解散)  
権現山を一廻りし、社から湯陽  
寺山に登った。湯陽寺山の下りで、  
西の道を間違ってたが問題  
なかった。

(参加者) 小林一哉 北村つねみ  
島田 廣 廣瀬重美 廣瀬恵美子  
園井文男 山田妙子 ○山田明男

私の東山36峰 (第3回)

1月20日(出) くもり  
(火曜ハイキング)  
第12峰(第19峰)  
(集合) 北白川バス停9・20(30  
吉田山9・40(吉田神社9・50  
文殊塔10・20(金成光明寺10・  
30(若王子神社11・00(王子山・  
南禅寺山11・30(昼食) 12・10(一  
日向神社13・00(明神山13・15(一  
大日山14・00(椿ヶ峰14・40(大  
豊神社15・00(10(解散)

神社仏閣は明るいが、きょう廻  
った山々は何と暗いことか。もう  
少し整備してほしい山ばかりであ  
る。狭い道から案内したので山の  
位階がわかっただろうか。  
(参加者) 沖 紀子 木村 豊  
矢谷豊子 須藤浩子 加藤浩二  
中川光郎 金森節子 大岡加代子  
三井敏一 鮫田二郎 船本節巳子  
堀 良万 大林 進 園田恵章  
中谷基子 夏山春子 大西節子  
今村四郎 青木一雄 猪狩美枝子  
○沖 伸 ○神谷礼司 (計22名)

紀泉・権尾山から三國山

1月22日(出) くもりのち雨  
(集合) 近鉄富田林駅8・55(1  
9・00(バス) 桜の辻9・55(1  
福寺10・25(15) 石地蔵11・30  
千本杉峠(三國山12・40(七越  
峠) 鶴谷峠13・00(バス) 道の駅  
「いすみの山愛の里」14・00(昼  
食) 14・30(バス) 富田林駅15・  
00(解散)

降水確率80%だったが、まずま  
ずの天気。しかし、高度が増すに  
つれて山は深いガスに包まれた。  
山頂付近から雨が降り始めたので  
早々に下山し、バスで道の駅に行  
って昼食をとった。  
(参加者) 渡部和美 岩佐 修  
小谷和子 塩尻香織 竹村英樹  
下野正年 荒木光雄 佐々木輝子  
狩野東彦 本家流子 船本節巳子  
園田恵章 西村文男 片岡志賀子  
大東 哲 用上久堅 佐藤優美子  
○竹田勝美 ○西上利和 (計19名)

宇陀・日塚山  
(全羅里山ハイキング13  
1月23日(出) くもりのち晴れ

紀南・伊勢路を歩く

1月24日(出) 25日(回) 1月2日(回)  
(24日) くもり (集合) JR尾鷲  
駅10・40(車) 熊野古道センター  
11・00(10・30) 登山口12・00(林道  
出合12・45(昼食) 13・20(九鬼

(集合) 近鉄津原駅9・40(55(バ  
ス) 宇賀志10・20(休憩所10・30  
10・40) 宇賀神社10・55(青蓮寺  
11・30(10・40) 日張山12・00(昼食)  
12・40(西尾根) 消防署分室13・  
10(休憩所13・20(10・30) 宇多野町  
バス停13・50(15(バス) 権原駅  
14・15(解散)  
中野庵のかりの音瀬寺は閉静な  
寺、花の咲く頃は美しいだろう。  
日張山の山頂は広く美しい。昼食を  
とって西尾根をたどって休憩所の  
奥に出た。のんびり歩いた一日だ  
った。

(参加者) 西村静子 中嶋日出男  
水富律子 堀内慎智 大岡加代子  
鮫田二郎 村田洋子 岸 すみ子  
森 和久 松田和恵 久馬麻登理  
志水明美 ○村田智俊 (計13名)  
八鬼山・三木峠・羽後峠・浦母峠  
(三重の山101)



14・30―愛神堂14・35―八鬼山  
14・45―展望台15・00―三木里海  
岸16・45―民宿「晴志乃」17・05  
(泊)

(25日 晴れ) 民宿8・15―ヨコ  
ネ道―三木峠9・15―30―羽後峠  
10・30―40―賀田古川橋11・30  
(昼食) 12・00―曾根太郎坂―浦  
母峠13・30―曾根太郎坂―二木島  
駅15・30―57(電車) 大曾根浦駅  
16・20(二次解散)―熊野古道セ  
ンター16・45(解散)

八鬼山頂上付近には太くて長い  
霜柱。さくらの森エリアからの展  
望はまさに絶景。江戸道をくだっ  
て三木里海岸へ。2日は曇一つ  
ない好天。予定通り、歩行距離は  
2日間約20・7。だった。

(参加者) 竹内正子 渡部百合江  
池田繁美 水戸鉄治 石田真由美  
平 龍一 幸子 池田美恵子  
亀井悦子 川村政和 宮路ちへ子  
◎補填逸夫 (計12名)

山城  
自転車専用道と麓登山  
(サイクリング&登山17  
1月25日(日) くもり

西見峠10・00―05―地蔵山口・15  
―20―林道出合11・50―社務所  
12・20(昼食) 13・10―水尾分れ  
13・30―中尾根―林道出合14・50  
―保津峡駅15・10(解散)  
降水確率60%だが予定を変更し  
て実施する。今年の奥愛宕に雪は  
極端に少なく、地蔵山でも10%位。  
午後から雨の予報で先を急ぎ、社  
務所で昼食にする。帰路は気持ち  
のよい中尾根をくだって行き、こ  
こで小雨に遭った。

(参加者) 須藤浩子 狩野東彦  
園田憲章 長尾一令 夏山春子  
飯島 啓 角江朝子 水見真砂子  
吉野榮子 武村千鶴 妹尾一正  
小石浩子 岩本彩子 市野博文  
多田 徳 後藤純子 竹内喜久子  
中川光郎 高木忠夫 中嶋日出男  
小松志信 ○沖 伸 (計23名)  
◎仲谷礼司

奥高野・白石岳からセト山  
2月5日(休) 晴れ  
(集合) 近鉄富田林駅8・05―10  
(バス) 出屋敷峠10・00―白石岳  
10・30―セト山11・50(昼食)  
12・50―今井峠13・05―紀和トン

(集合) JR本津駅9・00(サイク  
リング) 鹿背山登山口9・45―鹿  
背山10・00―鹿背山登山口12・20  
(サイクリング) 本津駅10・30―  
山城大橋12・50(昼食) 13・20―  
(サイクリング) 往路) 本津駅  
14・00(解散)

小雪が舞うなか、南山城を支配  
したといわれる鹿背山城跡に登り  
本津川沿いの自転車専用道路でサ  
イクリングを楽しんだ。山城大橋  
河原でぜんざい・ホットコーヒー  
で体を温め、本津川駅に戻った。  
駅前でKCNテレビの取材につか  
まりカメラとマイクを向けられ、  
会話ははずんだ楽しい一日だった。

(参加者) 呉比呂美 船本裕巳子  
東 明美 池田 茂 坪井都子  
◎山口敏明 (計6名)

樹水の綿向山・竜王山  
(野鳥を歩く303)  
1月25日(日) 晴れ  
(集合) 西明寺バス停8・25(車)  
本木林道ゲート広場9・00―奥の  
平9・25―五合目10・10―行者コ  
バ10・35―綿向山11・20―北峠雪  
原11・40(昼食) 12・40―竜王尾

ネル13・20―津越14・30(バス)  
榎原神宮前駅15・40(解散)  
雪は全く無く冬枯れした尾根を  
快調に歩き、昼食も十分に時間が  
とれた。予定より早く下山できた  
ので津越の里に立ち寄り、まだ咲  
き始めるの福寿草を見て感動した。  
(参加者) 馬龍忠男 梶原泰彦  
加藤浩二 下郡正年 森藤哲良  
松村雅子 飯島 啓 野末あや子  
志水明美 渡部和英 小栗大直  
園田孝枝 秋枝秀實 船本裕巳子  
園田豊治 岩村春子 川上久堅  
◎前川和佳子 ◎西上利和 (計19名)

根分岐13・00―竜王山15・20―林  
道16・00―広場16・20(解散)  
天気は快晴。キリリと引き締つ  
た冷気に樹氷が美しく、歓喜の声。  
風も穏やかで北峠の雪原で昼食。  
竜王への急な下りはアイゼンの爪  
もよく効いてリルン。鈴鹿の冬  
山を満喫した一日だった。(註)  
(参加者) 磯部 純 森 美香子  
金谷 昭 寺井博子 中澤典司博  
緒方由子 池田隆一 奥野太一郎  
北村 聡 一芝義雄 一芝英知子  
高橋幹治 西村敏夫 谷 守  
栗岡克子 針谷邦夫 針谷静子  
木下朝子 船津謙治 岩本彩子  
貴登雅路 加藤國計 炭田明美  
大西裕郎 武村千鶴 居原田幸弘  
小林 桂 ◎後藤康幸  
◎山田景三 ◎岩野 明(計30名)

大峰・観音峰山  
1月29日(休) 晴れ  
(集合) 近鉄榎原神宮前駅8・05  
―20(バス) 観音峰山登山口10・  
00―十一面観音四阿10・55―観音  
平展望台11・30―観音峰山12・10  
―観音平展望台12・45(昼食)  
13・45―(往路) 観音峰山登山

た。\*リーダー村田は体調優れず  
P846で引き返した。(宮野)  
(参加者) 岩佐 修 水見真砂子  
木村相恵 妹尾一正 久保田玲子  
山根弘美 繁田広美 武部美英子  
角江朝子 紀田信生 村田はる江  
藤井洋子 園田孝枝 西谷真実子  
川戸せつ 辻中 貢 片岡志賀子  
大和 祐 松村雅子 杉本多美雄  
呉比呂美 ◎宮野哲郎  
◎大東 哲 ◎村田智俊 (計34名)

穴戸喜久江 光川二(美子) (計11名)  
◎高島伸浩  
山城  
自転車専用道と嵐山散策  
(サイクリング&登山18)  
2月8日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄新田辺駅9・00(サイ  
クリング) 山城大橋―流れ橋―御幸  
橋―嵐山公園13・00(駐輪)―  
小倉山公園13・10(昼食) 14・00  
―嵐山公園14・10(サイクリン  
グ) 往路) 新田辺駅16・30(解  
散)  
往路は向かい風が強くて風との  
戦いだったが、復路は本津川沿い  
を気持ちよくサイクリングでき  
て楽しめた。  
(参加者) 呉比呂美 船本裕巳子  
長尾一令 多賀久子 池田 茂  
◎山口敏明 (計6名)

美濃・国見岳  
(自然観察登山行266)  
1月31日(日) ◎鷺見守康  
\*荒天のため中止しました。  
愛宕山シリーズ19  
(大畑ハイク52)  
2月3日(火) くもりのち小雨  
(集合) JR八木駅8・36(バス)  
越畑口9・05―越畑9・20―30―  
口14・30(バス) 榎原神宮前駅  
16・10(解散)



山11・30(昼食)12・30(西寺(常楽寺)14・00)10(バス)京都駅15・00(解散)

長寿寺からずつと林道を歩き、別荘山に着いた。頂上はアンテナが林立している。前方には天狗岩が見えた。帰路は西寺の常楽寺への尾根道をくだった。途中に展望所があり、三上山・鏡山・雪野山・歌山が見えた。ここからまた林道を歩いて常楽寺に下山した。

(参加者) 木村 豊 松上美代子 渡部和夫 持谷礼司 濱本直和 柳川富雄 和田純子 加納由紀子 余森節子 岩崎健司 水木加津苗 林 正義 後藤純子 飯塚いずみ 三野 旭 小尾末吉 飯塚てるみ 松浦 謙 渡辺いく 岡本和子

美濃・天狗ヶ城と松宇土 2月8日(日) 晴れ (集合) JR西岐阜駅8・00(車) 八月堂9・00(分岐)9・40(鉄塔ピーク)55・11・05(天狗ヶ城)10・35(松宇土)11・00(松塔)11・

25(昼食)12・05(分岐)12・25(貴船神社)12・45(八月堂)13・00(車)八幡神社13・45(如来ヶ岳)14・25(八幡神社)14・55(車)西岐阜駅15・30(解散)

2月からの雪の無い尾根歩き。八月堂から天狗ヶ城登り、松宇土を往復し、帰りは貴船神社にくだる。八月堂の大杉は樹齢七百年の大樹、時間が早いので、三井さん(希望する)等の如来ヶ岳にも行った。三井さんも山田に寝き、東海三昧の寺42山全てが終わった。

(参加者) 馬場佳子 小林 世 島田 廣 岡井文明 伊藤忠美子 飯岡正成 鈴木 逸 鈴木友子 三井 敏一 住吉 登 住吉光江 山田明男 (計13名)

2月8日(日) 晴れ (集合) 鈴河城川橋広場8・30(林道登山口)9・00(飯堂ヶ峰)10・20(風の洞窟)10・50(アセビの園)11・30(昼食)12・10(谷源流)13・30(林道出合)13・55(広場)14・45(解散)

109

山口10・05(10)徒歩地点の上10・40(50)ゴボウダ峠(須川峠)11・20(25)滝谷ノ頭(11)38(急登)12・16(20)扇13・38(蛇谷ヶ峰)12・43(昼食)13・30(17)13・43(富坂尾根分岐(造林会社)13・55(尾根分岐点)14・15(25)峠14・50(55)蛇谷尾根)15・07(15)玉津島神社15・37(富坂口)15・52(バス)近江高島駅16・31(解散)

蛇谷ヶ峰からの展望はすばらしかった。風も無かったのでゆっくり昼食をとり、輪カンをつけて出発した。例年より積雪は少なかったが、自由にコースを選んでの雪の富坂尾根くだりは楽しいものだ。好天に恵まれ、雪山遊びを満喫した一日だった。

(参加者) 船江朋彦 上田裕子 西居俊彦 小松孝信 加納由紀子 入江 勲 寺井博子 猪狩英枝子 高橋洋治 武村千鶴 小川實士雄 小栗大直 青木一雄 武部美英子 坂松雅子 松井明忠 市井ユリエ 山根弘美 猪狩博子 池田美恵子 福津謙治 牧 和夫 山口光代 貴堂登路 (大東 哲)

2月14日(日) 晴れ (集合) JR近江高島駅9・00(バス) 畑9・24(45)林道登山口11・30(昼食)12・30(西寺(常楽寺)14・00)10(バス)京都駅15・00(解散)

2月15日(日) 晴れ (集合) JR近江高島駅9・00(バス) 畑9・24(45)林道登山口11・30(昼食)12・30(西寺(常楽寺)14・00)10(バス)京都駅15・00(解散)

2月11日(日) 晴れ一時雪 (集合) 京阪出町柳駅7・40(55(バス)平8・30(45)花折峠)9・10(20)P762(110・10)

2月17日(日) 晴れ (集合) 八坂神社9・30(円山)双林寺(東大谷祖廟)長楽寺(知恩院)栗田神社11・00(栗田山)11・10(知恩院山)東山山頂公園11・45(昼食)12・30(長楽寺山(東大谷山)高台寺山)13・30(雲山)14・00(興正寺)14・20(正法寺)高台寺15・00(円山公園)15・20(解散)

2月21日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田林駅8・55(9・00(バス)山中溪駅)10・10(第一パノラマ台)11・00(四ノ谷山)

2月21日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田林駅8・55(9・00(バス)山中溪駅)10・10(第一パノラマ台)11・00(四ノ谷山)

2月21日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田林駅8・55(9・00(バス)山中溪駅)10・10(第一パノラマ台)11・00(四ノ谷山)

2月21日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田林駅8・55(9・00(バス)山中溪駅)10・10(第一パノラマ台)11・00(四ノ谷山)



藤井益子 竹田清英 ○阪上義次 (計8名)

紀州・真妻山と牛瀨山  
2月21日(出)22日(回) 1泊2日

○村田智俊  
\*リーダーの都合で中止しました。

真冬の雲仙山西南尾根  
(鈴鹿を歩く305)

2月22日(日) 晴れ

(集合)甲斐倉入口広場8・20(車)  
今畑8・45―汗ふき峠9・35―見  
晴台10・35―お猿岩11・15―西峰  
11・40―雲仙山12・00(昼食)  
12・55―最高峰13・10―南雲岳  
13・50―近江展望台14・15―鉄峠  
15・15―今畑16・10(解散)

天候の変化が早い専先、東の間の晴れ間に福寿草を求めて雲仙に登る。樫の木の色が光ってまぶしい。腐った雪に足を取られながら、お猿岩から新ルートを経由して山頂の風は冷たく、西南尾根の春の妖精も雪の中、泥雪にまみれて今畑にくだれば、鼓い語り合うように福寿草と節分草が咲き誇っていた。(真)

(参加者) 寺井博子 森美香子  
武村千鶴 木下朝子 中澤興司博  
高橋秀治 加藤園計 奥野太郎  
船津謙治 貴堂雅路 石田真由美  
萩野暢子 栗岡克子 左近健一朗  
水戸鉄治 櫻田勝利 居原田幸弘  
北村 稔 一芝義雄 一芝英知子  
大西脩郎 西村敏夫 小林 修  
吉岡 仁 谷 守 多田 徳

○山田敏三 ○岩野 明(計28名)

大飯渡し船めぐり  
天保山と昭和山  
(北山ちよつと歩き108)

2月25日(例) 雨のちくもり

(集合) JR松島駅9・00―天保山渡船場9・12―33(渡船)9・37―天保山9・38―50―地下鉄大坂港駅10・01(地下鉄)弁天町駅10・07―21(バス)福崎一丁目10・35―其長渡船場10・40―45(渡船)10・55―泉尾四丁目11・02―08(バス)新千歳11・12―千歳渡船場11・20(渡船)11・23―新千歳大橋―新千歳11・51(バス)千島公園12・06(昼食)12・45―昭和山12・55―落合上渡場13・02―15(渡船)13・17―北津守四丁

日13・27―52(バス)南津守14・03―千本松渡船場14・13―15(渡船)14・19―南恵加島西14・26(バス)船町一丁目14・35―船町渡船場14・40―42(渡船)14・45―中船町木津川渡船場14・52―15・00(渡船)15・03―木津川渡し15・13―17(バス)平林駅15・35(解散)

雨も昼前に上がり、現存する大坂市営渡船場八ヶ所のうち七ヶ所を渡ることができた。途中で今昔の人工の山、天保山と昭和山に登り、また新千歳渡船場は行きは渡船、帰りは海上30分の新千歳大橋を歩いて往復するなど、趣向の違ったウォーキングを楽しんだ。

(参加者) 大和 敏 松上美代子  
堀内預智 杉本英一 佐々木輝子  
矢野 稔 栗栖君子 中嶋日出男  
小田潤子 河内正治 久馬麻登河  
小林博子 加藤浩二 木下朝子  
宮西和子 松井明忠 水宮律子  
宮崎紀正 宮崎靖久 宮崎由美子  
白鳥忠子 武田元可 村田はる江  
松村雅子 飯田愛子 加納由紀子  
安良陽子 松本忠雄 栗岡克子  
兼田幸子 岩城鳥子 小松志信

岩本彰子 佐々木トシ子  
森和久 ○谷 守  
○金谷 昭 (計37名)

湖南・飯返山  
(金曜山ハイキング14)

2月27日(日) ○村田智俊  
\*リーダーの都合で中止しました。

(1・2月参加者 延656名)

### 会 員 募 集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかに歩く喜びをともに広めましょう。

【新ハイキングクラブ】は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。

係(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が何回に参加されるかは、山行運営費として400円を支出していただきます。四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも

保持するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会費 5000円(ワッペン共)  
年会費 3300円(送料共)  
入会の申し込み(随時)は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずに記入ください。なお、定期購読を希望される方も会員になっていただけます。と毎号随実にお手元に届きます。お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集  
係は2ヶ月に1〜2回程度山行例会を実施していただきます。経験のある方、やってみたいと思われの方は、新ハイキング「関西の山」連絡ください。  
【新ハイキングリーダー必修】をご参考にお送りします。

### 新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。会員番号5440番から5456番まで(敬称略)。  
【愛知】 高藤みどり 濱田よし子  
【滋賀】 坂本隆夫 柳 良雄  
【京都】 鶴水 隆 松尾武子  
鳥居裕子 栗飯原幸子  
【大阪】 奥村和夫 大門巴江子 森田壽彦  
【奈良】 松原真由美  
【兵庫】 桐畑道典 桐畑祐志朗 有吉桂三 横山和正 横山由美子 (17名)

### 訂正とお詫び

- 左の通り訂正します  
○104号(新春)  
\*81ページ一段1行目「聞く」→「聞く」。同段15行目「そろろ」→「そぞろ」。  
○105号(新春)  
\*81ページ四段終わりから7行目「孤石」→「孤山」。(編集室)

書店でお求めになりたい方へ  
前もって番号ほしいと「購読予約」をされますと、どこかの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」(隔月刊)は偶数月の20日頃の発売

します。山を歩いて感じられたことを四百字詰め原稿一枚にまとめて送ってください。集書に書いていただいても結構です。内容は楽しかった同会のこと、登山地情報・イベント情報など何でも気楽に書いて送ってください。  
【定期購読・新ハイキングクラブ会員募集】のパンフレットを作成しました。  
お友達や山仲間にも配布していただき、当会への入会を募ってもらいたいのものです。ご希望の方は枚数を言っておいただければ、何枚でもお送りします。  
また、山行係(リーダー)へも配布しておりますので、買ってください。ひとりでも多くの方に「新ハイキング」の良さを知っていただきたいと考えております。